

地質情報研究部門 2023 年度年報

Annual Report of
Research Institute of Geology and Geoinformation
2023

地質情報研究部門

2024.12



地質情報研究部門 2023年度年報

年報刊行にあたって

日本は、四方を海に囲まれ、大地震や火山噴火が頻発する活動的島弧に位置します。このような地質条件のなか、防災・資源・環境に関わる社会課題を解決し、持続的発展を支える地質情報が求められています。そこで、地質情報研究部門のミッションは、日本の国土および周辺海域を対象として地質学的な実態を明らかにし、国の知的基盤として地質情報を整備することです。そのため、我が国の第3期知的基盤整備計画（2021年度より開始）に基づき、陸域・海域ならびに沿岸域の地質図、地球科学基本図出版のための地質調査を系統的に実施し、地質情報の整備・利活用に取り組んできました。また、資源探査・地球環境保全・自然災害の低減等のための衛星画像情報の整備と地質情報の統合化も行なっています。そして、社会課題の解決に向けて最新の地質情報と、その科学的根拠に基づいて自然現象に関する科学的理解を深め、安全・安心な社会を構築していくための地質情報を積極的に社会に発信することを目指しています。具体的には、①産業立地評価、自然災害軽減、資源の利用と地球環境保全、地下利用などに関する国・自治体等への提言、②地球を良く知り、地球と共生するための国民の科学的理解の増進、③国際共同プロジェクトへの参画等の国際貢献、そして④地質調査のできる人材育成や地質情報や、調査技術による地質ビジネスの支援などについて、引き続き貢献していきたいと考えています。

本年報は地質情報研究部門の2023年度の研究活動を記録し、紹介するものです。近年の自然災害の増加に伴い、知的基盤としての地質情報に対する社会の関心、様々な課題の検討や解決への期待などが高まってきています。このような社会環境のもとで、職員一同、地質の調査研究のさらなる推進と発展に向けて取り組んでおります。ご高覧いただき、活動内容や成果についてご理解いただくとともに、忌憚の無いご意見を賜りますようお願いいたします。

今後も長期的な国家的事業の支柱となる基盤的地質情報整備を継続していきます。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2024年12月
地質情報研究部門長 荒井晃作

地質情報研究部門 2023 年度年報

目 次

1. 概要	1 -
2. 研究グループ	2 -
3. 研究テーマ概要	5 -
4. 外部資金による研究	18 -
5.業績	26 -
5.1 地質図類	26 -
5.2 データベース・ソフトウェア	27 -
5.3 誌上発表	28 -
5.4 口頭発表	48 -
5.5 イベント	77 -
5.6 プレス発表	80 -
5.7 受賞	81 -
資料編	82 -
付 1 構成及び所在	82 -
付 2 職員等	83 -

1. 概要

1.1 研究目的

地質調査に関するわが国における責任機関として、国の知的基盤整備計画に沿って地質情報の整備と高度化を実施し、わが国の産業基盤を引き続き強化する。

当研究部門のミッションは、日本の国土および周辺海域を対象として地質の調査を実施し、陸域・海域地質情報を国の知的基盤として整備することにある。日本は、四方を海に囲まれ、大地震や火山噴火が頻発する活動的縁辺域に位置する。このような地質条件の中、防災・資源・環境に関わる社会的な課題を解決し、社会の安全・安心で持続的発展を支える地質情報が求められている。そこで、最新の地質情報を整備し、その科学的根拠に基づいて地球の過去・現在を知り、地球環境の健全性の評価および自然災害発生リスクに関する科学的理解と将来予測を社会に発信する。

1.2 中期目標・計画達成のための方針

地質調査のナショナルセンターとしての地質情報の整備を実施する。わが国の知的基盤整備計画に基づいて、国土およびその周辺海域の地質図、地球科学基本図のための地質調査を系統的に実施し、地質情報を整備する。具体的には下記のとおり。

- ・知的基盤整備計画に沿った地質図幅・地球科学図などの系統的な整備、および 20 万分の 1 日本シームレス地質図の改訂を行う。
- ・地質情報としての衛星データの整備と活用を行う。
- ・トカラ列島を含む沖縄トラフ海域の地質調査を着実に実施し、日本周辺海域の海洋地質情報の整備を行う。
- ・沿岸域の海陸シームレス地質情報の整備を行う。
- ・ボーリングデータを活用した都市域の地質・地盤情報を整備する。
- ・地質調査の人材育成を行う。

1.3 グループ体制と重点課題

中長期目標・計画を達成するため、研究グループをベースにした基礎・萌芽研究と、ユニット・グループを横断するプロジェクト研究によるマトリックス方式を継続して採用する。研究グループは専門家集団としての特徴を生かし、プロジェクト研究の基礎を支え、将来のプロジェクト創出の基となる研究を実施する。当研究部門の組織体制は 12 研究グループから構成される。当研究部門では研究グループを横断する以下の 4 つの重点プロジェクト (P) を設定し、連携・協力して研究を進める。

- ・陸域地質図 P：国土基本情報としての陸域の島弧地質と知的基盤整備。
- ・地球科学図 P：地球物理、地球化学図などの作成。衛星情報の整備と利活用の研究。
- ・海域地質図 P：国土基本情報としての海域の島弧地質と知的基盤整備。

- ・沿岸域の地質・活断層調査 P：陸域－沿岸域－海域をつなぐシームレス地質情報の整備と活断層の評価。都市域の地質地盤図の整備。

1.4 内外との連携

社会課題の解決に向けた橋渡しの拡充し、地球科学的な根拠に基づいた産業基盤の評価を可能にする地質の調査の実施。地質の調査に関するわが国における責任機関として、着実な成果を公表するとともに、地質の調査に関する新たな技術開発を目指す。

他の関連ユニットとの連携を強め、産総研における地質調査総合センター (GSJ) としての機能を十分に果たす中核を担うとともに、産総研内外の連携を推進する。

研究によって形作られる地質情報はもちろんのこと、地球を理解する科学技術は、地質学的にも関連の深いアジアをはじめとする世界にとって共通の財産であり、当研究部門は CCOP (東・東南アジア地球科学計画調整委員会) などの国際組織や IODP (統合国際深海掘削計画)、ICDP (国際陸上科学掘削計画) などの国際プロジェクトを通じて世界に貢献する。また、地すべりなど地質災害の緊急課題についても、地質調査総合センターとして迅速に取り組む。

2. 研究グループ

2.1 平野地質研究グループ

(Quaternary Basin Research Group)

研究グループ長：納谷 友規

概要：

堆積平野とその周辺丘陵地を主な研究対象とし、それらの地質学的実態把握と形成プロセスの総合的な理解に努め、自然災害の軽減・産業立地・環境保全などに貢献する地質情報を提供する。この目的のため、沿岸域の地質・活断層調査プロジェクトや陸域地質図プロジェクトにも積極的に参加し、また関連する所内外の研究グループや研究機関とも連携して研究を進める。関東地方、中部地方、近畿地方、四国地方における沿岸平野を重点的に調査・研究している。平野を構成する地層の詳細な層序・地質特性・地質構造などを把握し、またそれらの形成プロセスを明らかにするとともに、地質情報のマップ化、データベース化を進めている。さらに平野域に関連した自然災害が発生した場合は関係諸グループと連携を取り、被害調査などを実施する。年代層序や堆積環境復元などに資する古生物学、堆積学、古地磁気学、火山灰層序など、地層の年代や堆積環境復元に資する基礎研究も進めている。

研究テーマ：テーマ題目 1、13、25

2.2 層序構造地質研究グループ

(Stratigraphy and Tectonics Research Group)

研究グループ長：原 英俊

概要：

日本列島と大陸縁辺域であるアジア周辺地域を主な研究対象とし、それらの地質学的実態を把握するため層序構造地質の研究を行う。主に、過去の造山帯（沈み込み型および衝突型）における付加大陸成長過程の解明、前弧域－背弧域の堆積盆における堆積環境の復元、火山活動の時空間変遷に基づく島弧内堆積盆の形成過程の解明、遠洋域での堆積環境の復元と古海洋地理区の解明、高精度微化石層序の構築を主要な課題と位置づける。さらに国土の基本地質情報整備のために部門重点課題として実行される陸域地質図プロジェクトに中核研究グループとして参画する。得られた研究成果とともに、最新の地質学的知見を融合し、5 万分の 1 および 20 万分の 1 地質図幅、20 万分の 1 日本シームレス地質図の整備を行う。

研究テーマ：テーマ題目 1、26

2.3 地殻岩石研究グループ

(Orogenic Processes Research Group)

研究グループ長：工藤 崇

概要：

地殻岩石の研究では、変成岩・火成岩・堆積岩を研究対象とし、本質的な沈み込み帯における堆積・変形・変成作用、島弧地殻での堆積・変形・変成・火成作用などを、地層・岩体の地質調査、岩石・鉱物の化学分析・構造解析・

形成モデリングにより明らかにする。また、国土の基本地質情報整備のために部門重点課題として実行される陸域地質図およびシームレス地質図の研究に中核グループとして参画する。陸域地質図プロジェクトにおいては、地殻岩石の研究成果および既存の地質体形成過程に関する知見を融合・適合することにより高精度の地質図の作成を行う。シームレス地質図の研究では、日本列島に分布する火成岩・変成岩・堆積岩の分類および区分を担当する。研究成果は論文・地質図・データベースなどを通じて公表する。

研究テーマ：テーマ題目 1、27

2.4 シームレス地質情報研究グループ

(Integrated Geo-information Research Group)

研究グループ長：内野 隆之

概要：

陸域地質図プロジェクトの中核グループとして、20 万分の 1 日本シームレス地質図の編纂・公開を行う。また、5 万分の 1 および 20 万分の 1 地質図幅の作成を行い、日本列島形成過程など学術的研究も進める。加えて、シームレス地質図に関連する地質情報のオープンデータ化、表示機能の高度化など地質情報をより流通・促進するための技術開発、衛星・地形・農林情報とのデータ連携による新たな価値の創出、シームレス化に伴って開発された技術の国際標準化、JIS A0204・0205 の作成・普及などを、地質領域の他グループ・室や他領域の関係部署、大学・外部機関と連携して実施する。また、「防災・減災のための高精度デジタル地質情報の整備事業」の一つである「斜面災害リスク評価のための地質情報整備事業」の中核グループとして、各種地質情報を整備・統合・解析を行い、斜面災害リスク評価図を作成する。

研究テーマ：テーマ題目 1、4、23、28

2.5 情報地質研究グループ

(Geoinformatics Research Group)

研究グループ長：長 郁夫

概要：

当研究グループは、地層や地質試料から新たな地質情報を抽出し、それらを高度化・統合化することによって、新たな地質学的視点を創出する研究を行う。野外地質調査やボーリング調査、常時微動観測、各種室内分析により、基礎的な地質情報を抽出し高精度化するとともに、それら地質情報の処理技術の開発研究を実施する。またシームレス化・デジタル化された地質情報を統合することにより、地質災害軽減などに資する研究を行う。さらに地質情報を公開するための仕様の検討やシステム構築についても取り組む。それらの研究をベースに、都市域の 3 次元地質地盤図、陸域地質図など、部門が推進する地質情報整備に積極的に取り組む。特に都市域の 3 次元地質地盤図については、研究課題推進の中核研究グループとして、関係外部機関と協力し、層序の研究から、3 次元地質モデリング、公開システムの構築まで幅広く担当する。また各地で実施

されているスマートシティなど、都市 DX の取り組みを通じて、3次元地質地盤情報の社会実装に努める。

研究テーマ：テーマ題目 9、29

2.6 リモートセンシング研究グループ (Remote Sensing Research Group)

研究グループ長：山本 聡

概要：

産総研では資源探査を中心に JERS-1 (OPS、SAR)、ASTER、PALSAR といったセンサ開発、およびそのデータ利用に関する研究を行ってきた。当研究グループは、これらのデータと、地質情報を統合することにより、環境・資源・防災などに資するリモートセンシングに関する研究開発を行うことを目的とする。具体的には、衛星アーカイブ・配信に関する研究、品質管理 (校正・検証および標準化) に関する研究、衛星情報の利活用促進のための研究を実施した。特に NASA と共同で運用している TERRA/ASTER について、機上校正、代替校正、相互校正などの結果から品質管理を実施し、その結果を GSJ 地質情報データベースサービスとして一般に無償提供するとともに、NASA/USGS にも継続的に提供し、打ち上げから 20 年以上の安定的なデータ提供に貢献した。利活用促進に関する研究では、特に ASTER を用いた資源、環境・基盤データ作成、災害モニタリングに関する利用研究を実施した。

研究テーマ：テーマ題目 5、30

2.7 海洋地質研究グループ (Marine Geology Research Group)

研究グループ長：井上 卓彦

概要：

海域地質図プロジェクトおよび沿岸域の地質・活断層調査プロジェクトの中核を担いつつ、海洋地質研究を遂行する。日本周辺海域の海洋地質情報を整備・公開するとともに、それらのデータを基に日本周辺海域の地質構造発達史、活断層評価、堆積作用、古環境変動、および海底火山や熱水活動に伴う地質現象の解明を行うことを目的とする。民間船、大学の実習船などの調査船を用いて音波探査、堆積物および岩石採取を行い、それらの解析によって海洋地質図 (海底地質図および表層堆積図) を作成、出版する。これらの調査で得られたデータを整備し、データベースとしてインターネット経由での公開も進める。地質情報に乏しい沿岸海域についても、小型船舶を用いて音波探査と堆積物採取を行い、沿岸域の地質情報の整備を進めるとともに沖合と陸上の地質情報の統合的な解析を行う。これらの調査およびこれ以外の内外の調査航海や他機関のデータなどを活用し、活動的構造運動や堆積作用、古環境変動などの海域における地質現象の解明を行う。

研究テーマ：テーマ題目 6、8、19、31、38

2.8 地球変動史研究グループ

(Paleogeodynamics Research Group)

研究グループ長：板木 拓也

概要：

海陸の地質・古生物学的および地球物理学的情報を統合して、地質学的時間スケールの地球環境システムやテクトニクスの変動史の解明を目標とする。当研究グループは、このような広域の研究をカバーするため、多様な専門分野からなる研究者集団として構成されている。個々の研究者が高い技術力を維持するとともに、革新的な技術を創出、情報発信することで、当該分野におけるリーダーシップを取りつつ、所内外からの要請や連携にも対応する。また、これらの研究を基盤として、当部門のミッションである陸域、海域、それらをつなぐ沿岸域の地質情報の整備、および海底鉱物資源ポテンシャル評価に資する調査を行い、さらに発展的な研究としてこれらを展開する。

研究テーマ：テーマ題目 6、10、14、16、18、32

2.9 海洋環境地質研究グループ

(Marine Geo-Environment Research Group)

研究グループ長：鈴木 淳

概要：

地球環境保全や地質災害などに関する科学的根拠の提示のため、都市沿岸域の環境、およびそれに大きな影響を及ぼす海洋地球環境について、その環境変動幅と変動要因を明らかにする。地球環境問題、すなわち温暖化 (海域・内水域)、海水準上昇、海洋酸性化・海洋貧酸素化などに関係する地質学的諸問題の解明にあたりるとともに、それらの過去の変遷を復元する研究に注力する。これら目標実現に向けて、安定同位体比分析を始め各種地球化学的分析法、分子遺伝学的解析手法及び X 線 CT 解析の高度化について重点的に取り組むとともに、堆積学、海岸工学、生態学、古生物学など多様な手法の連携により、研究課題に対して総合的なアプローチを取る。第 5 期に新設された融合研究ラボ「環境調和型産業技術研究ラボ」では、中心的な役割を担うべく、他領域と積極的な研究交流を持ち、社会課題の解決に向けた研究開発を推進する。海洋エネルギー・鉱物資源の探査・開発については、環境ベースライン調査・分析を企画し、特に環境影響評価の観点からの貢献を図る。また、部門の重点プロジェクト海域地質図プロジェクトに参画する。

研究テーマ：テーマ題目 15、17、24、33

2.10 資源テクトニクス研究グループ

(Tectonics and Resources Research Group)

研究グループ長：下田 玄

概要：

我が国の排他的経済水域には、海底鉱物資源の賦存が期待できる海底火山列が複数存在する。これらの火山列は、島弧火成活動と背弧拡大に関連する。グループでは、沈み込みに関連したテクトニックな時空変遷を解明すること

により、島弧火成活動と背弧拡大に伴い生成すると考えられている海底鉱物資源の広域ポテンシャル評価に資する研究を行った。海域における調査は、地質試料を採取し、それに対して地質学的・岩石学的・地球化学的な解析を行った。異なる研究手法を組み合わせることで、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程を解明し、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを試みた。岩石学的研究は、日本周辺海域の構造発達史を明らかにするために行った。日本周辺の広大な海域について海底鉱物資源のポテンシャル評価を行うためには、海底熱水鉱床が形成されるテクトニックセッティング、すなわち、前弧海底拡大、超低速拡大軸、背弧・島弧内リフト盆地の形成過程の解明が不可欠である。従って、これらの形成過程を科学的に解明することにより海底鉱物資源の広域的なポテンシャル評価に資する指標開発を実施した。地球化学的な研究は、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程の解明に応用することができる。すなわち、同位体比や化学組成が変化する過程を科学的に解明することで、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを試みた。

研究テーマ：テーマ題目 7、34

2.11 地球化学研究グループ

(Geochemistry Group)

研究グループ長：間中 光雄

概要：

地殻における元素の地球化学的挙動の解明を中心とした地球化学情報の集積・活用と高度な分析技術の開発を目的とし、元素の地球化学的挙動解明の基礎となる地球化学図の作成、あらゆる地質試料の分析の基礎となる地球化学標準物質の作製、地質関連試料の高度な分析技術の開発と維持・普及を行う。地球化学図の研究では、大都市市街地における元素のバックグラウンドを明らかにするために、従来の 10 倍の精度を持つ精密地球化学図を作成するとともに、既に公開している地球化学図データベースの充実を図る。標準物質の研究では、岩石標準試料の国内唯一の発行機関として、ISO に対応した各種地質試料の認証標準物質の作製を行うとともに、岩石標準試料の各種情報をデータベースとして公開する。また、地球化学の基礎技術として、さまざまな地質試料中の元素の高度な分析技術の開発と、それらを用いた元素の挙動解明の研究を行う。

研究テーマ：テーマ題目 3、35、37

2.12 地球物理研究グループ

(Geophysics Group)

研究グループ長：名和 一成

概要：

地球物理データを取得する調査手法、解析技術、シミュレーション技術の開発・高度化を行い、地下地質構造・地下動態を解明する。重力図・磁気図の作成および重力などの地球物理関連データベースの拡充を行うとともに、地球

物理情報と他の地質情報を統合・連携した研究を推進する。また、平野部や沿岸域において地震探査や重力・磁気探査など物理探査を実施し地質・活断層に関する詳細な地下構造を求めることで、国土の知的基盤地質情報整備とその利活用に貢献する。これらの研究成果は論文・地球科学図・データベースや産総研一般公開・地質情報展などを通じて社会に発信する。各種探査技術を活用して民間企業との共同研究、技術コンサルティングも実施する。地球物理図・データベース作成やデータ解析、地球物理学的手法を用いた野外調査を通じて若手人材を育成する。

研究テーマ：テーマ題目 2、11、12、36

3. 研究テーマ概要

テーマ題目一覧

- [テーマ題目 1] 陸域地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 2] 地球物理図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 3] 地球化学図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 4] 次世代シームレス地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 5] 衛星データのアーカイブ・品質管理・配信に関する研究（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 6] 海域地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 7] 海底鉱物資源プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 8] 大陸棚調査プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 9] 都市域の地質地盤図（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 10] 沿岸域の地質・活断層調査一紀伊水道の海洋調査（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 11] 沿岸域の地質・活断層調査一陸海接合の物理探査（地球物理 RG-1）（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 12] 沿岸域の地質・活断層調査一陸海接合の物理探査（地球物理 RG-2）（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 13] 沿岸域の地質・活断層調査一平野域の地質調査（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 14] 沿岸域の地質・活断層調査一海陸空間情報の整備（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 15] R4 突出人材_先端遺伝子解析による分野横断（理事長裁量予算）
- [テーマ題目 16] R4 コア技術_「砂粒」自動鑑定技術の実用化（理事長裁量予算）
- [テーマ題目 17] R5 突出人材_先端遺伝子解析による分野横断・融合ベースの次世代型環境評価技術の開発（理事長裁量予算）
- [テーマ題目 18] 国際化ボトムアップ連携支援事業（理事長裁量予算）
- [テーマ題目 19] 野外動物観察カメラを利用した海中・海底連続撮影装置の構築（領域研究予算）
- [テーマ題目 20] GSJ 戦略的課題推進費：高分解能音波探査（領域研究予算）
- [テーマ題目 21] 民間利用加速のための海洋地質データのデジタル整備（領域研究予算）
- [テーマ題目 22] 常温稼働可能な高感度磁気顕微鏡開発による GSJ 中核機能強化（領域研究予算）
- [テーマ題目 23] 知財・標準化推進部業務経費（点群 PNG の標準化）（本部組織予算）
- [テーマ題目 24] 海洋ネガエミ技術に係る炭酸塩反応過程と生物石灰化機構の研究（事業組織予算）
- [テーマ題目 25] 平野地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 26] 層序構造地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 27] 地殻岩石の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 28] シームレス地質情報の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 29] 情報地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 30] リモートセンシングの研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 31] 海洋地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 32] 地球変動史の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 33] 海洋環境地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 34] 資源テクトニクスの研究（運営費交付金）（理事長裁量予算）
- [テーマ題目 35] 地球化学の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 36] 地球物理の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 37] 地球化学標準試料 ISO（地質分野特定事業費）（成果普及品自己財源）
- [テーマ題目 38] 海洋地質データ頒布（地質分野特定事業費）（成果普及品自己財源）

[テーマ題目1] 陸域地質図の研究 (運営費交付金：重点プロジェクト)

[研究代表者] 原 英俊 (層序構造地質研究グループ)
[研究担当者] 原 英俊、辻野 匠、宇都宮 正志、伊藤剛、武藤 俊、志村 侑亮、工藤 崇、山崎 徹、佐藤 大介、細井 淳、中村 佳博、村岡 やよい、羽地 俊樹、山岡 健、納谷 友規、佐藤 善輝、中谷 是崇、小松原 琢、内野 隆之、西岡 芳晴、板野靖行、長森 英明、中江 訓、宮地 良典、野田 篤、中島 礼、小松原 純子、宮川 歩夢、山元 孝広(活断層・火山研究部門)、石塚 吉浩(活断層・火山研究部門)、及川輝樹(活断層・火山研究部門)、古川 竜太(活断層・火山研究部門)、松本 弾(活断層・火山研究部門)、中野 俊 (活断層・火山研究部門)、吉川 敏之(地質情報基盤センター)、松浦 浩久 (地質情報基盤センター)、渡辺 真人(地質情報基盤センター)、宮崎 一博 (連携推進室)、高橋 浩 (連携推進室)、高木 哲一(企画本部)、植木 岳雪(帝京科学大学)、竹内 誠 (名古屋大学)、常盤 哲也 (信州大学)、森 宏 (信州大学)、植田 勇人 (新潟大学)、長谷川 健 (茨城大学)、遠藤 俊祐 (島根大学)、西山 賢一 (徳島大学)、中尾 賢一 (徳島県立博物館)、加瀬 善洋 (道総研)、林 圭一 (道総研)、廣瀬 亘 (道総研)、藤内 智士 (高知大学)、川村 寿郎 (宮城教育大)、吉田 孝紀 (信州大学)、川村 信人 (北海道総合地質学研究センター/元北海道大学)、土谷 信高 (蒜山地質年代学研究所/元岩手大学)、木村 皐史 (電力中央研究所) (常勤職員 40 名、他 18 名)

[研究内容]

「陸域地質図の研究」の実施にあたっては、本部門・他研究ユニット及び外部研究機関の研究者との協力体制のもと、「層序構造地質」・「平野地質」・「地殻岩石」・「シームレス地質情報」・「火山活動」(活断層・火山研究部門)からなる 5 つの中核グループが推進している。20 万分の 1 地質図幅では、2 区画(網走・京都及大阪)の調査継続を行った。5 万分の 1 地質図幅に関しては、新規に 3 区画(大川・金峰山・甲浦)の調査開始、18 区画(満島・丹生・川原河・網野・冠島・盛・福山・松山北部・鳴門海峡・鹿沼・浜坂・女満別・門・大多喜・妙高山・前原・玄界島・長島)の調査継続を行った。また、4 区画(外山・荒砥・伊予長浜・20 万富山)の地質図幅を出版した。

[キーワード] 地質図幅、5 万分の 1 地質図、20 万分の 1 地質図

[テーマ題目2] 地球物理図プロジェクト (運営費交付金：

重点プロジェクト)

[研究代表者] 名和 一成 (地球物理研究グループ)
[研究担当者] 名和 一成、伊藤 忍、大滝 壽樹、大谷 竜、住田 達哉、宮川 歩夢、木下 佐和子、森尻 理恵 (地質情報基盤センター兼務)、村田 泰章 (再生可能エネルギー研究センター)、大熊 茂雄 (常勤職員 8 名、他 7 名)

[研究内容]

活動的島弧に位置する国土の地下地質構造を体系的に解明するために、地球物理情報を整備するとともに、各種ニーズに対応した物理的調査手法を開発する。重力図、空中磁気図といった地球物理図や、地球物理データベースを作成する。また、高精度、高時空間分解能調査が可能な精密重力測定技術を開発する。具体的には、重力図について「甲府—静岡地域重力図 (ブーゲー異常)」を出版した。「富山」及び「飯田—豊橋」地域重力図 (ブーゲー異常)を編集した。20 万分の 1 地質図幅「富山 (第 2 版)」(重力異常の節を担当)を出版した。出版済みの金沢地域重力図に関連して、能登半島北部群発地震に関する研究成果を国際誌上で発表した。「災害軽減に貢献するための地震火山研究計画 (第 2 次)」の「地殻変動連続観測等データの流通及び利用に関する協定」に基づいて、北海道大学弟子屈観測所の重力連続観測データと高精度微気圧計データを提供するとともに、モニタリングデータのクイックルック画像をまとめた「重力観測データ集」を整備した。地球物理関連データ (反射法地震探査・重力探査データ)のデータベース化を進めるため、研究 DX 推進室が実施する伴走支援プロジェクトに参画した。リサーチアシスタント (技術研修生) や学部生の技術指導も兼ねて、北海道東部カルデラ火山地域や中国地方の斜面災害発生域で精密重力測定を実施した。

[キーワード] 地球物理図、重力図、空中磁気図、地球物理データベース、カルデラ火山、斜面災害、精密重力測定技術、研究 DX、人材育成

[テーマ題目3] 地球化学図プロジェクト (運営費交付金：重点プロジェクト)

[研究代表者] 久保田 蘭 (地球化学研究グループ)
[研究担当者] 久保田 蘭、間中 光雄、遠山 知亜紀、中村 淳路、三國 和音、立花 好子 (常勤職員 5 名、他 1 名)

[研究内容]

元素の地球化学的挙動解明の基礎となる地球化学図の作成において、大都市市街地を含む地域における元素のバックグラウンドを明らかにするために、従来の日本全国図の 10 倍の精度を持つ精密地球化学図を作成する。また、日本全国のヒ素などの有害元素をはじめとする 53 元素の濃度分布の全データをデータベース化し、インターネットを通して日本の地球化学図データベースとして地球化学基盤情報を提供する。

精密地球化学図の作成では、「関東の地球化学図」と「中部地方の地球化学図」の発刊に続き、令和元年度より、新たに大阪市・京都市を中心とする関西精密地球化学図の作成に着手している。今年度は、兵庫県、大阪府、和歌山県及び奈良県の 196 地点から河川堆積物を約 2kg 採取し、実験室で乾燥後、180 μm 以下の分画について化学分析を行った。また、海域の地球化学図の拡充として、トカラ列島周辺海域及び東シナ海域の海底堆積物試料の化学分析にも着手した。それに伴い GB22-1、2 航海の海底堆積物試料の化学分析値を地調研報にて報告した。

【キーワード】地球化学図、データベース、有害元素、バックグラウンド、環境汚染、元素分布

**[テーマ題目 4] 次世代シームレス地質図プロジェクト
(運営費交付金：重点プロジェクト)**

【研究代表者】内野 隆之(シームレス地質情報研究グループ)

【研究担当者】内野 隆之、西岡 芳晴、坂野 靖行、斎藤 眞、宝田 晋治、川畑 大作、長津 樹理、井川 敏恵(常勤職員 6 名、他 2 名)

[研究内容]

本プロジェクトは、20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 のデータ更新と表示機能等の強化を行うものである。

本年度は、2021 年に刊行された 20 万分の 1 地質図幅「野辺地」(第 2 版)をベクトルデータ化した後、20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 へ埋め込み、更新を行った。また、シームレス地質図の詳しさについて、凡例数を 400 程度に減らした簡略版を作成し、日本シームレス地質図 V2 にて公開した。

【キーワード】20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2、ベクトルデータ化、20 万分の 1 地質図幅「野辺地」、簡略版シームレス地質図

[テーマ題目 5] 衛星データのアーカイブ・品質管理・配信に関する研究(運営費交付金：重点プロジェクト)

【研究代表者】山本 聡(リモートセンシング研究グループ)

【研究担当者】山本 聡、水落 裕樹、松岡 萌、岩男 弘毅(常勤職員 4 名)

[研究内容]

地球観測衛星から撮影した衛星データは地球規模の地質防災、環境モニタリング、資源探査等の利用において極めて重要な情報である。本研究では、地質情報としての衛星データの整備と活用を目指す。衛星情報から潜在的な地質情報を抽出し、これをデータベース化・デジタル化された地質情報と統合することにより、資源管理、地質災害等に関する研究に資するデータを整備する。特に ASTER については、NASA で受信した生データの処理を定期的に行い、その結果を宇宙システム開発利用推進機構、米国 NASA/USGS に定期的かつ安定的に提供(年間約 2 万シ

ーム)する環境を維持した。また、2016 年 4 月 1 日より、地質分野が提供するサービスの一つとして、gbank のサービスの一つである衛星データ検索システム(MADAS)を通じて ASTER-VA の一般公開を開始している。データの提供にあたって、品質管理されたデータ処理・管理を実現するため代替校正等に係る品質管理研究を引き続き行った。また ASTER のサブシステムである VNIR と TIR それぞれについて 49 日毎の機上校正データ解析を行い、センサ劣化特性の定量評価を行った。過去の機上校正結果の長期トレンドに対する品質評価を基に、校正係数の再導出を行い、それらのデータを茨城大の関係者および宇宙システム開発利用推進機構へ提供した。その結果、ASTER データの品質評価基準において誤差を規定範囲と比べて大きく改善することにより品質管理に貢献した。

【キーワード】ASTER、衛星、品質管理、アーカイブ、衛星データ配信、衛星データ検索システム、MADAS、ASTER-VA

[テーマ題目 6] 海域地質図プロジェクト(運営費交付金：重点プロジェクト)

【研究代表者】荒井 晃作(地質情報研究部門)

【研究担当者】荒井 晃作、池原 研、井上 卓彦、三澤文慶、石野 沙季、有元 純、板木 拓也、天野 敦子、杉崎 彩子、鈴木 克明、清家 弘治、小田 啓邦、佐藤 太一、高下 裕章、山下 幹也、鈴木 淳、宇都宮 正志、兼子 尚知、針金 由美子、山本 浩万、喜瀬 浩輝、石塚 治(活断層・火山研究部門)、大上 隆史(活断層・火山研究部門)、岡村 行信(活断層・火山研究部門)、片山 肇、飯塚 陸、佐藤 侑里、佐藤 雅彦(東京大学)、西田 尚央(東京学芸大)、古山 精史朗(東京海洋大学)(常勤職員 23 名、他 7 名)

[研究内容]

日本周辺海域の地球科学的調査・研究を通じて、地殻を中心とした海洋地球に関する基盤的情報を系統的に整備し、広く社会へ提供する。特に、海洋地質図の整備、海洋地質データベースの構築とインターネット公開、これらを支え、発展・高度化させる基盤的研究を行い、世界をリードする研究に取り組む。なお、海洋地球に関する基盤的情報及び科学的知見は、国や社会の持続的発展を支える基本的公共財として、産業立地を含む各種海洋開発・災害軽減・環境管理などに対する基礎的資料となる。

2023 年度は九州北西沖の海域地質調査を行った。具体的には東京海洋大学の神鷹丸を使った構造探査航海を 2023 年 5 月 10 日～5 月 29 日に行い、東海大学の望星丸による地質調査航海を、2023 年 10 月 20 日～11 月 27 日に行った。また、一昨年度の航海に関して概要を地質調査研究報告に取りまとめ、特集「鹿児島県トカラ列島周辺の海洋地質-2021 年度調査航海結果-として、地質調査研究

報告に特集号として原稿を取りまとめ 2023 年 12 月に発行した。海域において調査航海を実施するとともに、これまでの調査航海の結果に基づき、海洋地質図の整備を進め、積丹半島付近海底地質図の WEB 出版を 2023 年 9 月に完了した。熊野灘海底地質図の出版準備を整えた。

【キーワード】海底地質図、重力・地磁気異常図、表層堆積図、データベース、日本周辺海域、南西諸島海域、望星丸、神鷹丸

【テーマ題目 7】資源テクトニクスの研究(運営費交付金：重点プロジェクト)

【研究代表者】下田 玄(資源テクトニクス研究グループ)

【研究担当者】下田 玄、針金 由美子、佐藤 太一、後藤 孝介、山下 幹也、高下 裕章、井上卓彦、三澤 文慶、石塚 治(活断層・火山研究部門)、田中 弓(常勤職員 9 名、他 1 名)

【研究内容】

伊豆-小笠原弧や沖縄トラフを含む琉球弧における海底鉱物資源の広域ポテンシャル調査を推進するための基礎研究を行った。伊豆-小笠原海域や琉球弧のテクトニックなデータを文献等から収集することで、有望海域の選定を行った。また、これに基づいた物理探査や試料採取の為の調査航海の準備を行った。熱水鉱床形成が起きている可能性の高い地域、及び過去に鉱床が形成された可能性のある地域を抽出するため、我が国周辺海域における活動的な火成活動域についても検討した。陸上の基盤岩についても調査・研究を進めており、本年度に採取した岩石試料を中心に化学分析や鉱物学的岩石学的研究の為の試料調製を進めた。

【キーワード】海底鉱物資源、テクトニクス、伊豆-小笠原弧、琉球弧、フィリピン海プレート、地球化学、岩石学

【テーマ題目 8】大陸棚調査プロジェクト(運営費交付金：重点プロジェクト)

【研究代表者】井上 卓彦(海洋地質研究グループ)

【研究担当者】井上 卓彦、小田 啓邦、下田 玄、石塚 治(活断層・火山研究部門)、森田 澄人(地質情報基盤センター)、片山 肇、岸本 清行、湯浅 真人、西村 昭、棚橋 学(常勤職員 5 名、他 5 名)

【研究内容】

当該テーマは本部門の重点プロジェクトの一つであるが、地質調査総合センターを横断する大陸棚チーム員および客員研究員・外部有識者等の協力のもとに取り組んでいる。大陸棚調査プロジェクトには、二つの課題がある。一つは、2012 年 4 月 26 日にわが国が国連の『大陸棚の限界に関する委員会』(以下、大陸棚限界委員会)から受領した「延長大陸棚勧告」に基づき、わが国の延長大陸棚に関連する課題の技術的検討を担う『大陸棚延長部会(2015 年度改定)』(内閣府総合海洋政策推進事務局所掌)を通じ

たフォローアップ作業への参画・貢献である。もう一つは、国連への大陸棚申請書作成のために用いた資試料のうち産総研が保有するものを研究利用も含め維持管理することである。

1) 2012 年に受領した大陸棚限界委員会の「延長大陸棚勧告」に基づき、日本政府は政令により 2 海域で延長大陸棚を設定した。なお、勧告された残り 2 海域は隣接主権国である米国の延長大陸棚(米国が海洋法条約を未批准のため申請は行われていない)と調整の必要があり、延長大陸棚の最終的な画定に至っていない。2023 年 12 月に米国は自国の延長大陸棚の調査・検討結果を Executive Summary として公表した。それによれば、米国の延長大陸棚は「南硫黄島海域」には存在せず、「小笠原海台海域」には日本の延長大陸棚の南東隅に小さな重複が存在する。日米両国の延長大陸棚の主張が明確になり、日本の延長大陸棚の最終的な画定に進展すると考えられる。一方、勧告において審査未了の 1 海域で申請した日本の延長大陸棚は、パラオ共和国が申請・審査中の延長大陸棚に接続・重複している。日本は、早期の審査再開を大陸棚限界委員会に働きかけたが実施に至っていない。前年度に引き続き「大陸棚限界委員会」での審査状況の把握、および米国とパラオ共和国の大陸棚に関連した情報収集を行った。パラオ共和国は自国北部海域の分離修正申請を 2017 年 10 月に行い、2018 年 3 月の大陸棚限界委員会での決定を経て、審査を担当する小委員会が立ち上がり、審査継続中である。2023 年 7-8 月に大陸棚限界委員会の委員の交代後の初会合が開催され、継続中の小委員会であるパラオの小委員会では、退任した委員の交代があり、小委員会の議長も交代した。新たな体制での小委員会の審査は秋の会期の 10 月にも行われた。新たな体制での審査の進捗および決定を見極めることが必須課題である。

2) 「大陸棚延長部会」における地質調査総合センターの役割として、我が国の「審査未了海域」の審査再開促進や審査再開後に向けて、同海域に関連する地球科学データや論文の収集・解析など必要な活動等を機関として維持することがある。大陸棚調査で得られた海底コア・岩石等の試料、および関連する地形・地質・地球物理データは試料庫やコンピュータ等に保管し、日本の周辺海域の詳細な地球科学の基盤情報として、適切な利活用に供するよう維持管理している。

【キーワード】海洋地質調査、大陸棚画定、国連大陸棚限界委員会

【テーマ題目 9】都市域の地質地盤図(運営費交付金：重点プロジェクト)

【研究代表者】野々垣 進(情報地質研究グループ)

【研究担当者】野々垣 進、中澤 努、小松原 純子、長郁夫、米岡 佳弥(常勤職員 5 名)

【研究内容】

本テーマでは、ボーリングデータ等を利用して首都圏の 3 次元地質地盤図の作成を行っている。2023 年度は、埼

玉県南東部、神奈川県東部および千葉県北部延長域の3次元地質地盤図作成に向けて、これらの地域の層序構築を目的としたボーリング調査を実施した。埼玉県北本市では、大宮台地を構成する蕨層～大宮層を含む更新統下総層群を対象とした掘進長 60 m の層序ボーリング調査を実施した。神奈川県横浜市中区の大岡川低地では、沖積層及び更新統上総層群を対象とした掘進長 60 m の層序ボーリング調査を実施した。千葉県野田市では、沖積層及び下総層群を対象とした掘進長 140 m の層序ボーリング調査を実施した。それぞれのボーリングコア試料の層相観察及び放射性炭素年代測定・テフラの検討により、海水準変動に対応した堆積サイクルを認定し、これらの地域の層序の再検討に向けた重要なデータを得た。また、層序ボーリング調査地点を中心に微動観測を実施し、地下の地質層序及び層相の違いによる地盤震動特性の差異について検討した。埼玉県南東部については、産総研による層序ボーリング調査のデータを軸に、自治体から提供を受けた大量の土木建築工事のボーリングデータに対する地層対比作業を完了した。また、地層対比結果を基に地質サーフェスモデルを作成するとともに、ウェブ上での公開準備を行った。

【キーワード】都市域の地質地盤図、3次元地質モデリング、層序ボーリング調査、地盤震動特性

【テーマ題目 10】沿岸域の地質・活断層調査—紀伊水道の海洋調査（運営費交付金：重点プロジェクト）

【研究代表者】板木 拓也（海洋地質研究グループ）

【研究担当者】板木 拓也、天野 敦子、有元 純、清家弘治、田村 亨、鈴木 克明、佐藤 智之、大上 隆史（活断層・火山研究部門）（常勤職員 8 名）

【研究内容】

陸域と海域の間に存在する地質情報の空白域を埋めるため、小規模な高分解能マルチチャンネル音波探査と試料採取によって海域の層序と地質構造を明らかにし、地質図を作成する。陸域の地質情報と合わせ海陸シームレス地質情報を作成するための基礎情報を取得する。

2023 年度は、紀伊水道で前年度に実施された高分解能マルチチャンネル音波探査のデータ解析と採泥調査で得られた試料の分析を行った。また、伊勢湾・三河湾で取得済みの高分解能マルチチャンネル音波探査データ、表層堆積物及びボーリング試料の分析結果を取り纏め、シームレス地質図作成のためのデータ解析を進めた。これらのデータに関して解析を進め、活構造の分布や活動性などを明らかにしていくとともに堆積層の層序についても解明し、地質図を作成する予定である。更に沿岸域における新たなコア採取システムの開発を行った。

【キーワード】沿岸域、反射法音波探査、採泥調査、層序、活断層、紀伊水道、伊勢湾・三河湾

【テーマ題目 11】沿岸域の地質・活断層調査—陸海接合

の物理探査（地球物理 RG-1）（運営費交付金：重点プロジェクト）

【研究代表者】伊藤 忍（地球物理研究グループ）

【研究担当者】伊藤 忍、木下 佐和子、住田 達哉（常勤職員 3 名）

【研究内容】

沿岸域の陸域と海域の地質情報の整備を目的として、地震探査の新規調査、既存データの情報収集と再解析を行う。令和 5 年度は、前年度に実施した兵庫県南部の湊-本庄断層沿いの 2 本の測線で実施した地震探査の処理・解析を実施した。測線付近では、南北走向をもつ湊-本庄断層の両側に和泉層群の露頭が見られるなど構造の明確な説明が困難であった。処理・解析の結果、和泉層群の上面が西に向かって浅くなっている特徴が明らかとなった。この他に、愛知県の岡崎平野と三重県の伊勢平野で実施した調査結果の解釈の再検討を行い、海陸シームレス地質情報集の原稿の修正等を行った。

【キーワード】沿岸域、地震探査、湊-本庄断層、岡崎平野、伊勢平野

【テーマ題目 12】沿岸域の地質・活断層調査—陸海接合の物理探査（地球物理 RG-2）（運営費交付金：重点プロジェクト）

【研究担当者】宮川 歩夢、大熊 茂雄、駒澤 正夫（常勤職員 1 名、他 2 名）

【研究内容】

陸域と沿岸海域とをつないだシームレス地球物理図を作成し、活断層や地下地質を含めた統合化された地質情報を提供することを目的として、本研究では陸海接合の物理探査を行う。2023 年度は、海陸シームレス地質情報集「伊勢湾・三河湾沿岸域」において重力図をとりまとめ、原稿提出および修正を行った。特に、重力異常から読み取れる「伊勢湾・三河湾沿岸域」の地下構造について議論し、陸海接合したシームレス地質図に反映させた。「紀伊水道沿岸域」とりまとめに向けた、重力データの見直しおよび重力異常解釈のための地質情報の収集を行った。

【キーワード】重力探査、重力異常、磁気探査、磁気異常、地球物理図、伊勢湾・三河湾沿岸域、紀伊水道沿岸域

【テーマ題目 13】沿岸域の地質・活断層調査—平野域の地質調査（運営費交付金：重点プロジェクト）

【研究代表者】納谷 友規（平野地質研究グループ）

【研究担当者】納谷 友規、田邊 晋、佐藤 善輝、中谷 是崇、羽田 裕貴、水野 清秀、小松原 琢、堀 和明（東北大学）、西山賢一（徳島大学）、中尾賢一（徳島県立博物館）、國本 節子、田中ゆみ子（常勤職員 5 名、他 7 名）

【研究内容】

本研究では、陸域と沿岸海域とをつないだシームレス地

質図を作成し、活断層や地下地質を含めた統合化された地質情報を提供することを目的として、平野域の地質調査、特に沖積低地の地下地質と丘陵～台地の地質構造に関する調査を行う。本年度は平成 29 年から令和元年度までに調査を実施した伊勢湾・三河湾沿岸域の成果をとりまとめ、海陸シームレス地質情報集公開に向けた作業を進めた。また、西三河平野における過去 100 万年間の珪藻化石群集変遷を報告した。令和 2 年度から調査が開始された紀伊水道沿岸域については、淡路島に分布する大阪層群の地質調査を行った。徳島平野では、既存のボーリング試料の解析を行い、地下に分布する更新統の層序の検討をおこなった。和歌山平野で掘削した堆積物コアのうち、沖積層については、岩相記載のほか、粒度分析、貝化石・微化石分析、放射性炭素年代測定を行い、堆積環境の変遷ならびに沖積層の発達過程を検討した。

[キーワード] ボーリング調査、活断層、シームレス地質情報、地下地質、伊勢湾・三河湾沿岸域、伊勢平野、西三河平野、紀伊水道沿岸域、徳島平野、和歌山平野、淡路島

[テーマ題目 14] 沿岸域の地質・活断層調査-海陸空間情報の整備 (運営費交付金：重点プロジェクト)

[研究代表者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[研究担当者] 板木 拓也、佐久間 仁美 (常勤職員1名、他1名)

[研究内容]

本研究では、陸域と沿岸海域とをつないだシームレス地質図を作成し、活断層や地下地質を含めた統合化された地質情報を整備することを目的としている。2023 年度は、令和 4 年度沿岸域の地質・活断層調査研究報告 (地質調査総合センター速報、no. 85) の編集と出版を行った。この速報には、紀伊水道沿岸域の調査報告の原稿が 3 編含まれている。

[キーワード] シームレス地質情報集、沿岸域の地質・活断層調査研究報告、紀伊水道、伊勢湾・三河湾沿岸域

[テーマ題目 15] R4 突出人材_先端遺伝子解析による分野横断・融合ベースの次世代型環境評価技術の開発 (理事長裁量予算)

[研究代表者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[研究担当者] 井口 亮、手良村知功、西島 美由紀、池内 絵里 (常勤職員1名、他3名)

[研究内容]

本研究では、環境 DNA/RNA 分析による水圏の環境解析法の高度化、生体情報解析技術による環境影響評価促進技術の開発、マイクロバイーム情報を活用した環境評価技術の高度化と有用微生物資源データベースの構築を目的としている。本予算では、主に深海域でのサンプルを用いたデータ取得と取りまとめを実施した。深海性刺胞動物の分類のための遺伝子情報解析、地域間の遺伝的交流関係解析、底質サンプルを用いた環境 DNA 解析を実施し、論

文として取りまとめた。また、開発を想定した深海性生物群集・個体群への影響を評価するための統計解析手法の高度化を進めた。

[キーワード] 深海、連結性、環境 DNA、環境影響評価

[テーマ題目 16] R4 コア技術_「砂粒」自動鑑定技術の実用化 (理事長裁量予算)

[研究代表者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[研究担当者] 宮川 歩夢、下司 信夫 (活断層・火山研究部門)、松本 恵子 (活断層・火山研究部門) (常勤職員4名)

[研究内容]

地質情報の高精度化と将来懸念される専門技術者枯渇という課題を解決することを目的として、地層を構成する鉱物や火山灰、微化石等の「砂粒」を識別・鑑定するシステムの開発を開始した。

2023 年度は、自動スライド・スキャナを用いた「砂粒」画像の自動取得と AI による自動鑑定の連携技術を開発し、その実用化に向けた基礎実験を進めた。また、ハイスループット化を目指して連続式の自動スライド・スキャナを新たに導入し、世界最速クラスの「砂粒」自動鑑定システムを構築した。

[キーワード] 人工知能、スライドスキャナー、微化石、火山灰、鉱物粒子

[テーマ題目 17] R5 突出人材_先端遺伝子解析による分野横断・融合ベースの次世代型環境評価技術の開発 (理事長裁量予算)

[研究代表者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[研究担当者] 井口 亮、西島 美由紀、池内 絵里 (常勤職員1名、他2名)

[研究内容]

本研究では、環境 DNA/RNA 分析による水圏の環境解析法の高度化、生体情報解析技術による環境影響評価促進技術の開発、マイクロバイーム情報を活用した環境評価技術の高度化と有用微生物資源データベースの構築を目的としている。2023 年度は、主に環境 DNA 解析実施に向けた実験室の整備を進めた。また、サンゴを用いた飼育実験の実施とデータ解析を行い、論文として取りまとめた。生体情報解析のためのメタボローム解析の高度化を進めた。沖縄島周辺で採集した採水サンプルを用いた環境 DNA 解析を行い、微生物データの一部を論文として取りまとめた。

[キーワード] 環境 DNA、マイクロバイーム、メタボローム、環境ベースライン調査、微生物資源

[テーマ題目 18] 地盤沈下を反映した相対海面上昇データベースの構築 (理事長裁量予算)

[研究代表者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[研究担当者] 板木 拓也、納谷 友規、田邊 晋、水落裕樹 (地質情報研究部門)、澤井 祐紀 (活

断層・火山研究部門) (常勤職員 5 名)

[研究内容]

本研究では、海面変動と地殻変動の和である相対海面変動の DB を確立するために、ニュージーランド GNS Science との共同で次の 2 つのテーマに取り組む。1) GNS Science が公開している NZ SeaRise を参考に日本国内での DB 構築手法を確立する。2) NZ SeaRise で考慮されていない地盤沈下の不確実性を取り入れ、また DB の有効活用を両者で検討する。プロジェクトを立ち上げた今年度は、GNS Science を訪問して、NZ SeaRise の構築手法に関する調査と、地殻変動の不確実性についての両国共通の問題と地域性の問題について議論を行った。

[キーワード] 海面上昇、地殻変動、気候変動、データベース

[テーマ題目 19] 野外動物観察カメラを利用した海中・海底連続撮影装置の構築(領域研究予算)

[研究代表者] 鈴木 克明 (海洋地質研究グループ)

[研究担当者] 鈴木 克明、齋藤 直輝 (常勤職員 2 名)

[研究内容]

本研究は、野外動物観察カメラを応用した簡便かつ稼働時間の長い海中・海底連続画像撮影システムを構築することを目的とする。将来的には AI 技術を用いた海中・海底粒子動態の解析、水産分野での活用などを視野に入れた地質情報の整備、海底環境モニタリング等への応用等が期待される。2023 年度は野外動物観察カメラの性能評価試験として、水中での撮影機能および低温環境での稼働時間テストと、実地での試験運用に用いる水深 2000m 相当の耐圧容器製作を行った。

[キーワード] 海底カメラ、海底堆積物、環境影響評価

[テーマ題目 20] GSJ 戦略的課題推進費：高分解能音波探査(領域研究予算)

[研究代表者] 有元 純 (海洋地質研究グループ)

[研究担当者] 有元 純、井上 卓彦、石野 沙季、三澤 文慶 (常勤職員 4 名)

[研究内容]

九州西方海域における地質情報整備に際して、効率的な海域地質調査の実施及び浅海域地質構造データの高精度化・高品質化を実現するため、反射法音波探査で従来使用してきたエアガン音源よりも高分解能の音源であるミニ G.I.ガンの高速曳航システムを新たに導入した。産総研が所有するミニ G.I.ガンに取り付け可能なウイングとテールフィンからなる高速曳航用器具を特注し、実際にミニ G.I.ガンに取り付けて吊り姿勢の確認試験を実施した。なお、調査時に効率的に運用するため、これらは各 2 式を作成した。また、ミニ G.I.ガンの運用に不可欠な消耗品であるメンテナンスキットと、器具の取り付けに必要な工具等の調達も行った。2024 年度 9 月下旬から実施する調査航海において、曳航試験、データ取得と品質評価を行う予定である。

[キーワード] 海域地質調査、反射法音波探査、高速曳航

[テーマ題目 21] 民間利用加速のための海洋地質データのデジタル整備(領域研究予算)

[研究代表者] 井上 卓彦 (海洋地質研究グループ)

[研究担当者] 井上 卓彦、荒井 晃作、三澤 文慶、片山 肇、新井 和乃 (常勤職員 3 名、他 2 名)

[研究内容]

近年、民間企業からの問合せが増加している産総研の海洋データについて、有償頒布を念頭に、より利用しやすい海洋データ提供を実現するようにアナログデータのデジタル化及びデータベースへの登録を行った。2023 年度は民間企業からの要望がある沖縄海域地質図調査航海 2 航海分のサブボトムプロファイラー (SBP) 断面の画像データを、後処理などが可能なデジタル形式 (Seg-Y) に変換した。これにより沖縄海域周辺の海洋地質データは航走観測、採泥ともに 2 次利用しやすいデジタルデータセットとして完備することが出来た。加えて、本予算によりデジタル化したデータについても、政策予算「強靱な国土と社会の構築に資する地質情報の整備と地質の評価」の一環として構築したデータベースに登録を進め、より使いやすいデータセットとして管理を進めている。2023 年度は、これらのデジタル化したデータの一部を用いて、データ解析や解説を含む技術コンサルティング契約を 1 件実施した。

[キーワード] 海洋地質、日本周辺海域、海域地質図基データ、サブボトムプロファイラー、データ利用

[テーマ題目 22] 常温稼働可能な高感度磁気顕微鏡開発による GSJ 中核機能強化(領域研究予算)

[研究代表者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[研究担当者] 小田 啓邦、羽田 裕貴 (常勤職員 2 名、他 3 名)

[研究内容]

当部門が開発・成果創出してきた走査型 SQUID (超伝導量子干渉素子) 磁気顕微鏡の磁気シールド・XYZ ステージ・データ収録システムに高感度トンネル磁気抵抗効果 (TMR) 素子を接続して、常温稼働可能な磁気顕微鏡としての動作確認と感度と分解能の検討を行った。磁場感度長 1 mm の TMR 素子の直線電流によるセンサ感度測定結果は、290nT/V であった。また、人工磁化を着磁させた玄武岩を試験用薄片試料とし、TMR 素子による磁気画像をセンサ・試料距離 0.3~0.5mm、測定グリッド 0.1mm で磁気画像を取得し、走査型 SQUID 磁気顕微鏡の磁気画像と比較検討を行った。

[キーワード] 磁気顕微鏡、走査型 SQUID 磁気顕微鏡、TMR 素子、玄武岩

[テーマ題目 23] 知財・標準化推進部業務経費(点群 PNG の標準化)(本部組織予算)

[研究代表者] 妹尾 義樹 (企画本部)

〔研究担当者〕西岡 芳晴、金 京淑（人工知能研究センター）、川畑 大作

〔研究内容〕

点群 PNG は、近年、航空測量技術等の急速な進化、普及に伴って大量に生成、利用可能となってきたポイントデータを、インターネットを通じて利用するためのファイルフォーマットである。大量のポイントデータをリアルタイムに取得し描画することが可能であり、都市計画や自然災害対応等の広範な応用への活用が期待されている。公共測量を行う自治体や研究成果をオープンデータとして公開する研究機関等のファイルフォーマットとして利用されることを想定しており、特に三次元点群データに関しては、地方自治体等と利活用方法の検討等で情報交換を行いつつ進めている。

点群 PNG の仕様はほぼ確定状態であり、本年度は特に大量の三次元点群データを対象に点群 PNG の活用を進め、利用実績を増やすために点群 PNG タイルコンバーターを作成し、20 億点の点群データを含むサンプルデータを作成した。さらに、それらをウェブブラウザ上で表示するための点群 PNG タイルビューアーを作成した。また、すでに全県の点群データを整備、公開している静岡県、兵庫県、長崎県の県庁職員等に「点群データ活用研究会」を介して利用を働きかけた。

〔キーワード〕点群 PNG、国際標準化、地方自治体

〔テーマ題目 24〕海洋ネガエミ技術に係る炭酸塩反応過程と生物石灰化機構の研究（事業組織予算）

〔研究代表者〕鈴木 淳（海洋環境地質研究グループ）

〔研究担当者〕鈴木 淳、山岡 香子、源田 亜衣（常勤職員 2 名、他 1 名）

〔研究内容〕

本研究は、令和 6 年度 岡山大学一産総研マッチングファンド事業として、実施された。2050 年カーボンニュートラル実現に向け、海洋の CO₂ 吸収能力を活用した「海を利用したネガティブエミッション技術（海洋ネガエミ技術）」の開発が急務である。特に、石灰岩粉末や消石灰などを海洋に散布して、CO₂ 吸収能力の回復を促進する海洋アルカリ増進技術について、海外では実証実験が開始されているが、国内では認知度もまだ低く、実験的研究も行われていない。海洋アルカリ増進時の海洋石灰化生物の成長に与える影響評価に関する予察的検討を行って、外部研究資金公募へ積極的に応募した。

〔キーワード〕海洋ネガエミ技術、海洋アルカリ増進、石灰化

〔テーマ題目 25〕平野地質の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕納谷 友規（平野地質研究グループ）

〔研究担当者〕納谷 友規、田邊 晋、佐藤 善輝、中谷 是崇、羽田 裕貴、水野 清秀、小松原 琢、國本 節子、田中 ゆみ子（常勤職員 5 名、

他 4 名）

〔研究内容〕

本研究は、平野・盆地内あるいはその周辺の丘陵地・台地や低地地下を構成する主に第四紀堆積物の堆積プロセス・層序・地質構造あるいは地形の形成プロセス、環境変動などを明らかにすることを目的としている。

令和 5 年度の研究成果は以下となる。関東平野中央部埼玉県加須市で沖積層を対象としたボーリング調査を行い、加須低地における開析谷軸部の沖積層の層序を検討した。静岡県、神奈川県、千葉県、山形県に分布する鮮新・更新統の地質調査を行ってテフラ層序や古地磁気層序を検討した。九州地方に分布する浅海成更新統の地質調査を行い、層序と珪藻化石群集を検討した。

〔キーワード〕第四紀、新第三紀、沖積層、地形発達史、関東平野、テフラ層序、古地磁気総序、古気候、複合年代層序、珪藻化石

〔テーマ題目 26〕層序構造地質の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕原 英俊（層序構造地質研究グループ）

〔研究担当者〕原 英俊、辻野 匠、宇都宮 正志、伊藤 剛、武藤 俊、志村 侑亮、鈴木 敬介（学振特別研究員）（常勤職員 6 名、他 1 名）

〔研究内容〕

日本列島を構成する活動的島弧と周辺の東・東南アジア諸国を含む大陸縁辺域における様々な地質現象を解明するための地質調査・研究を実施した。その結果として 2023 年度は、以下の成果を得た。日本のジュラ紀付加体中の遠洋域深海堆積岩層において示準化石コノドントにより、初めて国際的な定義に対比可能な石炭系-ペルム系境界を認定した。東北日本の南部北上帯の前期古生代変成岩類から碎屑性ジルコン年代を検討し、日本列島の起源・初期形成史にゴンドワナ大陸北東縁の造山帯が関わったことを明らかにした。房総半島の新第三系の年代層序解明を目的に、石灰質ナノ化石層序を検討した結果、大多喜地域や銚子地域における堆積層の堆積年代が明らかとなった。房総半島の白亜系銚子層群小滝川に含まれる礫を検討した結果、ペルム紀及び三疊紀の微化石を発見し、ジュラ紀付加体からのチャート礫の供給を明らかにした。若狭湾の冠島を調査し、丹後半島の伊根層群に類似する層序（浅海成凝灰岩→苦鉄質火山活動）を示すことがわかった。紀伊半島に分布する白亜紀付加体を対象に変形構造解析及び全岩化学組成分析を行った結果、白亜紀当時の沈み込み帯プレート境界における変形様式を明らかにした。室戸半島の中世付加体中より自生炭酸塩岩を見出し、その形成過程について検討を行った。

〔キーワード〕層序、構造地質、堆積学、活動的島弧

〔テーマ題目 27〕地殻岩石の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕工藤 崇（地殻岩石研究グループ）

〔研究担当者〕工藤 崇、山崎 徹、佐藤 大介、細井 淳、中村 佳博、村岡 やよい、羽地 俊樹、

山岡 健（常勤職員 8 名）

〔研究内容〕

島弧地殻形成において重要な変成作用・火成作用・堆積作用の進行過程を明らかにするため、主に日本列島を対象に変成岩・火成岩・堆積岩の野外調査、岩石試料の分析・解析、地質体及び岩石の形成モデリングを行い、以下のような成果を得た。1) 深成岩形成過程の解明を目的に熱・水流体輸送モデリングを行なった結果、天然深成岩の小空洞組織の空間分布を説明可能な熱履歴を推定できることが明らかになった。2) 中部領家深成変成コンプレックスの貫入関係及び広域変成作用の解明を目的に、満島地域の花崗岩及び領家変成岩について地質調査・分析を行なった結果、満島地域生田花崗岩の貫入年代と神原トータル岩周辺の広域変成作用の年代を新たに制約した。3) 北部九州白亜紀花崗岩類の分析・年代測定を行い、糸島半島周辺のマグマ活動場が南下したという知見を得た。さらに、糸島岩体が定置深度と形成年代が異なる 2 岩体に区分できる可能性を示した。4) 淡路島の火成活動を明らかにするために花崗岩類を対象に年代測定を行った結果、貫入関係と調和的で、既存の年代値よりも精度の良い形成年代を得た。5) 白亜紀花崗岩類に伴われるコートラングタイトの成因を解明するため、大分県朝地変成岩類分布域中の荷尾杵花崗岩及び山中花崗閃緑岩の調査を行った。6) 中新世における棚倉断層帯の運動センスを推定するため、棚倉断層帯沿いに分布する新第三系中の岩脈と小断層を解析した結果、棚倉断層帯の右横ずれ運動と左横ずれ運動の両方を示唆する古応力データを得ることができた。7) 西南日本の前弧域の構造発達史の解明に向けて、土佐清水地域で三崎層群の小断層調査を行い、中期中新世初頭の伸長変形と後期中新世以降の短縮変形を見出した。8) 十和田火山における噴火活動史の高精度化のため、これまでに得られたデータの取りまとめを行い、カルデラ形成期に 3 回の小規模ブルカノ式噴火が発生していたことを明らかにした。

〔キーワード〕地殻、岩石、島弧、沈み込み帯、変成作用、火成作用、堆積作用

〔テーマ題目 28〕 シームレス地質情報の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕内野 隆之（シームレス地質情報研究グループ）

〔研究担当者〕内野 隆之、西岡 芳晴、坂野 靖行、長森 英明、川畑 大作、阿部 朋弥、斎藤 眞、宝田 晋治、内藤 一樹、吉川 敏之、長津 樹理、井川 敏恵、松崎 紗代子、巖谷 敏光、阪口 圭一、宮崎 一博（常勤職員 10 名、他 6 名）

〔研究内容〕

シームレス地質図に関連する業務、地質図幅の作成、斜面災害斜面災害リスク評価図作成等を行う。本年度は、1/20 万日本シームレス地質図 V2 の関連技術である「点群 PNG」フォーマットについて、国際標準化に向けた活

動を進めるとともに、幾つかの自治体から得た標高データをもとに点群 PNG タイルを作成した。地質図幅については、1/20 万「富山」及び 1/5 万「外山」を発行したほか、1/5 万「妙高山」・1/5 万「盛」・1/5 万「満島」の作成を進め、それに関連した研究成果を学術雑誌で発表した。斜面災害プロジェクトについては、災害履歴や岩石の面データなど各種地質情報の収集・整備ならびに解析を行い、九州北部地域の斜面災害リスク評価図を作成した。また、2024 年能登半島地震に関しても、斜面崩壊箇所と地形・地質との関係についての予察を公開した。

〔キーワード〕シームレス地質図、点群 PNG、国際標準化、地質図幅、斜面災害リスク評価

〔テーマ題目 29〕 情報地質の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕長 郁夫（情報地質研究グループ）

〔研究担当者〕小松原 純子、長 郁夫、野々垣 進、米岡 佳弥、中澤 努（常勤職員 5 名）

〔研究内容〕

本テーマでは、地層や地質試資料から新たな地質情報を抽出し、それらを高度化、統合化することによって、新たな地質学的視点を創出する研究を行っている。2023 年度は、前年度に考案したテフラのマウント方法をより簡便にする改良を行い、改良後にも正しい分析結果が得られることを確認した。また、前年度にサンプリングした岩石の全岩化学分析及び同位体分析を行うための下処理を行った。計 60 試料の全岩主要・微量元素分析を行った。地質モデリングにおける地層基底面の推定法に関する研究として、直線状に並ぶ標高データを用いた推定計算で発生しやすい面の目玉形状を、標高データと地形区分図とから簡易的に求めた面の傾斜方位・傾斜角を補助データとすることで抑制する方法について検討した。微動を用いた地盤評価の研究として、ごく表層の地盤および硬質地盤への微動探査法の適用性を検討し、微動アレイ探査システムに SN 比が劣悪なケースに対応するプログラムを組み込んだ。微動アレイ探査に関するガイドラインを提案した。2022 年度以前に埼玉県南東部で行った沖積層層序ボーリングについて検討した結果を学会で発表した。石材の地質学的研究として、秋吉石灰岩基底部の火山砕屑物を含む石灰岩石材の岩相・生物相を報告した。また国会議事堂に使用される石材の産地及び岩相について調査した。

〔キーワード〕情報地質、都市地質、ボーリングデータ、3 次元地質情報、常時微動

〔テーマ題目 30〕 リモートセンシングの研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕山本 聡（リモートセンシング研究グループ）

〔研究担当者〕山本 聡、水落 裕樹、松岡 萌（常勤職員 3 名）

〔研究内容〕

当研究グループは、産総研で運用・データ処理・高次利

用を行っている ASTER を始めとする、様々な衛星データと地質情報を統合することにより、環境・資源・防災などに資するリモートセンシングに関する研究開発を行っている。2023 年度の利活用促進に関する研究ではおもに、地質災害モニタリングと環境モニタリングに係る解析を実施した。地質災害モニタリングとして、光学（マルチ・ハイパー）や SAR 等の長期衛星画像を用いた斜面災害リスク評価のための情報抽出に関する研究を実施した。また、斜面露頭粘土鉱物などの分光測定に関わる研究も実施した。環境モニタリングとして、周北極域の複数衛星データの統融合による植生・湛水動態のマッピング研究を実施した。衛星データを使った資源開発に関わる研究として、月で取得されたハイパーデータを使った特定鉱物露頭と地質構造の判読に関する研究を実施した。またハイパー研究の応用として、小惑星リュウグウのリモートセンシングデータと回収試料分析データの統合解釈に関する分光研究を実施した。

【キーワード】 ASTER、衛星、地質災害、緊急観測、環境モニタリング

【テーマ題目 31】 海洋地質の研究（運営費交付金）

【研究代表者】 井上 卓彦（海洋地質研究グループ）

【研究担当者】 井上 卓彦、杉崎 彩子、三澤 文慶、石野 沙季、有元 純、鈴木 克明、飯塚 睦、片山 肇、岸本 清行、佐藤 侑里、新井 和乃、西田 尚央（東京学芸大学）、古山 精史朗（東京海洋大学）、村上文敏（客員研究員）（常勤職員 6 名、他 8 名）

【研究内容】

日本周辺海域の海洋地質情報を整備公開するとともに、日本周辺海域の地質構造発達史、活断層評価、堆積作用、古環境変動、海底火山や熱水活動等に伴う地質現象の解明を目指している。2023 年度は以下のような成果を得た。日本周辺海域の地質構造に関する研究では、九州北西方海域において、音波探査や地形調査、岩石採取調査を着実に実施し、この海域の層序や活構造、地質構造発達史に関する試料を採取した。加えて過年度まで実施していたトカラ列島周辺海域の試資料について解析を進めた。また沿岸域調査として、紀伊水道で実施した音波探査については海陸シームレス地質図の完成に向けて解析を進めた。三宅島周辺の調査においては、火山島周辺域の地質情報を得るために、水中ドローンや採泥器を用いた火山噴出物の把握に努め、海底火山や堆積層の分布について検討した。また令和 6 年能登半島地震発生を受けて、外部機関との共同研究航海への参加や、緊急調査航海の計画立案を行った。さらに、沖縄トラフ南部で実施した公募調査航海に参加し、本海域の地質構造及び構造発達史に関する新たな地質情報を取得した。堆積作用の研究では、九州北西方海域の調査航海により、多くの地点で堆積物試料を採取した。加えて過年度まで実施したトカラ列島周辺海域における堆積作用の検討を進めた。古環境変動の研究では、東シナ海、福徳岡

ノ場海域や南極周辺の外洋域に加え、石狩湾、広島湾の沿岸域について、採取された柱状試料や表層堆積物試料を用い、微化石や有機・無機化学組成の分析結果を含め海洋環境の変遷およびその原因となった海洋イベントとの関係について研究を進めた。また、2022 年度から開始された海洋マイクロプラスチック調査への参画や人工知能を用いた微化石や音波探査記録の自動分類手法の実用化の検討を進めた。また、これまでの海洋調査で取得された音波探査記録および堆積物試料データのデジタル化に加え、海洋地質情報のシームレス化を念頭に、既存の海洋地質データを統合的に管理・表示するために構築したデータベースへの登録を進めるとともに、民間企業を含む外部機関へのデータ提供を行った。さらにはこれら民間企業に対する技術コンサルティング契約を受託した。

【キーワード】 海洋地質、日本周辺海域、沿岸海域、海底地質構造、海域活断層、堆積作用、古環境

【テーマ題目 32】 地球変動史の研究（運営費交付金）

【研究代表者】 板木 拓也（地球変動史研究グループ）

【研究担当者】 板木 拓也、小田 啓邦、兼子 尚知、田村 亨、天野 敦子、佐藤 智之、清家 弘治（常勤職員 7 名）

【研究内容】

海陸の地質・古生物学的及び地球物理学的情報を統合して、地質学的時間スケールの地球環境システムやテクトニクスの変動史の解明を目標とする。広域の研究をカバーするため、グループは多様な専門分野からなる研究者集団として構成され、個々の研究者が高い技術力を維持するとともに革新的な技術を創出、情報発信することで、当該分野におけるリーダーシップを取りつつ、所内外からの要請や連携にも対応する。また、これらの研究を基盤として部門のミッションである陸域、海域、それらを繋ぐ沿岸域の地質情報の整備、及び海底鉱物資源ポテンシャル評価に資する調査を行い、更に発展的な研究としてこれらを展開する。

2023 年度は、AI（人工知能）、磁気顕微鏡、堆積物の非破壊イメージングなどの最新技術を用いることで分析や解釈の効率化・高度化を図る技術の開発・運用を進めた。また、陸域、海域及び沿岸域の地質調査を実施し、地質図作成の基礎情報を収集するとともに、海洋マイクロプラスチックに関する調査も実施した。

【キーワード】 古環境解析、複合年代層序、微化石層序、古生物、古地磁気・岩石磁気、磁気顕微鏡、非破壊イメージング、高分解能地層探査、沿岸域、地質災害リスク、AI（人工知能）、海洋プラスチック

【テーマ題目 33】 海洋環境地質の研究（運営費交付金）

【研究代表者】 鈴木 淳（海洋環境地質研究グループ）

【研究担当者】 鈴木 淳、井口 亮、高橋 暁、長尾 正之、山岡 香子、齋藤 直輝、源田 亜衣、西島 美由紀、依藤 実樹子、池内 絵里、

儀武 滉大、吉永 弓子、安永 恵三子、
山本 綾、井上 絵里（常勤職員 6 名、他
9 名）

〔研究内容〕

地球環境問題、すなわち海域の温暖化、海洋酸性化・海洋貧酸素化に関する地質学的諸問題の解明に当たるとともに、それらの過去の変遷を復元する研究に注力することを目標として、研究を実施した。ICP-MS 分析計による地球化学的分析法や、遺伝生態学的解析手法の高度化に取り組んだ。コバルトリッチクラストや海底熱水鉱床、表層型メタンハイドレート及びマンガン団塊等の海洋エネルギー・鉱物資源については、生物地球化学、遺伝生態学手法を用いた物質循環と環境変遷の調査・分析を主体として、海洋環境ベースライン調査、環境影響評価の観点からの研究を実施した。また、部門の重点プロジェクト「海域地質図プロジェクト」には、調査航海へ参加するとともに、表層堆積物の微生物分布情報の蓄積を目的として、DNA 抽出及びハイスループットシーケンサーにより塩基配列を決定して、微生物群集構造を明らかにした。抽出第 5 期に新設された融合研究ラボ「環境調和型産業技術研究ラボ」では、エネルギー・環境領域や計量標準総合センターと積極的な研究交流を持ち、社会課題の解決に資する取り組みを実施した。

〔キーワード〕 地球環境、環境影響評価、生物多様性、遺伝生態学、同位体比、物質循環、沿岸海洋

〔テーマ題目 34〕 資源テクトニクス研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕 下田 玄（資源テクトニクス研究グループ）

〔研究担当者〕 下田 玄、針金 由美子、佐藤 太一、後藤 孝介、山下 幹也、高下 裕章、田中 弓（常勤職員 6 名、他 1 名）

〔研究内容〕

我が国の排他的経済水域には、海底鉱物資源の賦存が期待できる島弧火山列が複数存在する。グループでは、島弧火山列に関連したテクトニックな時空変遷を解明することにより、海底鉱物資源の広域ポテンシャル評価に資する研究を行った。海域における調査は、地質試料を採取し、それに対して地質学的・岩石学的・地球化学的な解析を行った。異なる研究手法を組み合わせることで、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程を解明し、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを試みた。すなわち、島弧の形成過程を科学的に解明することにより海底鉱物資源の広域的なポテンシャル評価に資する指標開発を実施した。岩石学的・地球化学的な研究は、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程の解明に応用することができる。従って、同位体比や化学組成が変化する過程を科学的に解明することで、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを目標に研究を行った。

〔キーワード〕 海底鉱物資源、テクトニクス、地球化学、

岩石学

〔テーマ題目 35〕 地球化学の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕 間中 光雄（地球化学研究グループ）

〔研究担当者〕 間中 光雄、久保田 蘭、遠山 知亜紀、中村 淳路、三國 和音（常勤職員 5 名）

〔研究内容〕

地殻における元素の地球化学的挙動解明の研究として、鉱物・土壌・堆積物などに取り込まれた微量元素の挙動及び存在状態解析の研究、地表環境下における粘土鉱物が関与する岩石-水反応の研究、宇宙線生成核種等の同位体を用いた堆積・浸食過程解析の研究、ハロゲン元素の地球化学的研究及び上部マントルの地球化学的研究を行った。

鉱物・土壌・堆積物などに取り込まれた微量元素の挙動及び存在状態解析の研究では、八丈島の土壌の地球化学的特性と植生分布について検討した。地表環境下における粘土鉱物が関与する岩石-水反応の研究では、土壌から流出する溶質量と降雨量の関係について実験的に調査した。宇宙線生成核種等の同位体を用いた堆積・浸食過程解析の研究では、岩石なだれ地形を調査し、採取試料の分析を進めた。ハロゲン元素の地球化学的研究では、GSJ の標準岩石試料の全ハロゲン濃度の推奨値の決定を目指すとともに、塩素同位体比分析法の開発法にも着手した。上部マントルの地球化学的研究では、プチスポット火山産玄武岩についての論文 1 編を国際誌に公表した。

〔キーワード〕 地球化学、土壌、堆積物、存在形態、ハロゲン、同位体、宇宙線生成核種、玄武岩

〔テーマ題目 36〕 地球物理の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕 名和 一成（地球物理研究グループ）

〔研究担当者〕 名和 一成、伊藤 忍、大滝 壽樹、大谷 竜、住田 達哉、宮川 歩夢、木下 佐和子、森尻 理恵（地質情報基盤センター兼務）、村田 泰章（再生可能エネルギー研究センター）、大熊 茂雄（常勤職員 8 名、他 11 名）

〔研究内容〕

国土及び周辺地域の地下構造・地下動態の把握・解明の為に、各種物理的手法による計測・探査・解析・解釈技術の開発・改良を行う。複数の地質・地球物理情報に基づく、モデリング・モニタリング手法やシミュレーション手法の開発を行う。所内外の連携研究を中心としたプロジェクト研究の基礎を支え、将来の新しいプロジェクト創出となる萌芽の研究も実施する。具体的には、日本の陸域の地質情報整備の一環としての地球物理図の整備と沿岸域の海陸シームレス地質情報の整備の基礎を支える。また、地質調査総合センターの他部門・グループとの連携研究とともに、他の領域や研究機関、民間企業との連携・共同研究にも積極的に関わる。

2023 年度、運営費交付金や科学研究費補助金課題などの関連研究課題を進捗させて、研究成果を国際・国内誌

上で発表した。国際的活動としては、スイス工科大学 (ETH) のチームと連携し、カルデラ火山に関する研究成果を国際誌上・国際研究集会で発表した。KCl (B2) 状態方程式の解析を担当した論文を国際誌に投稿した。また、日本の貢献も含めた東、南、東南アジア・オセアニア地域の地震観測網とそれを使った地球深部構造探査研究のレビューを国際誌上で発表した。国内活動については、過去に実施した福島県会津坂下調査のデータに AI による初動読み取りおよび自動速度解析を適用した結果を国内学会で発表した。簡単な S 波構造探査手法の実地運用を確認した埼玉県鴻巣市での探査事例について地質調査研究報告に投稿した。南海トラフ地震臨時情報に関する研究において、社会実装の実態解明のための社会調査アンケートを新たに実施し、誌上发表した。これまでの研究成果は、地震防災関連 12 学協会共催の「地震工学シンポジウム」での招待講演において発表するとともに、内閣府のワーキンググループでも取り上げられ、国の地震防災政策の推進に寄与した。こうした不確実な地震予測情報の社会実装について産総研デザインスクールと検討し、所内分野連携を促進させた。データ駆動型研究を推進するため既存の重力データの可視化作業を情報・システム研究機構 ROIS-DS-JOINT 共同研究等を通じて進めた。そのほか、他部門・他機関と連携して、重力モニタリングを実施している道東屈斜路カルデラ地域に高分解能微気圧計を設置して継続的にデータを取得した。青森県小川原湖東部において精密重力探査を実施した。大型放射光施設 SPring-8 において、ダイヤモンドについての高圧中性子散乱実験を実施した。物理探査ができる人材育成に積極的に取り組み、RA と連携して、学会発表・誌上发表を行った。人材育成の一環として学位論文審査を実施した。

【キーワード】 地球物理、地殻構造、地球ダイナミクス、地球科学情報、重力探査、重力モニタリング、地震探査、地震波解析、磁気探査、岩石物性、データベース、人材育成

【テーマ題目 37】 地球化学標準試料 ISO (地質分野特定事業費) (成果普及品自己財源)

【研究代表者】 間中 光雄 (地球化学研究グループ)

【研究担当者】 間中 光雄、久保田 蘭、遠山 知亜紀、中村 淳路、三國 和音、太田 充恒、立花 好子 (常勤職員 6 名、他 1 名)

【研究内容】

地質試料は多種・多様な成分で構成され、化学分析の際には各成分が互いに影響しあうため、正確な分析を行うためには、目的とする試料と主要な化学組成が良く似た、目的成分の濃度が決められている標準試料が必要不可欠である。地質情報研究部門は化学分析用岩石標準試料の国内唯一の発行機関として、1964 年以来、約 60 年にわたって地質関連試料の標準試料を作製し、世界各国の研究機関との共同研究により、化学組成や同位体組成、年代値の信頼性の高いデータを定め公表してきた。この標準試料は世界

中で活用され、分析精度を高める標準として世界的に大きく貢献している。しかしながら、近年の国際化の動きの中で、標準物質は国際的な標準である ISO のガイドラインに対応することが望ましく、当部門発行の岩石標準試料についても、NITE 認定センターより ISO に対応した標準物質生産者としての認定 (ASNITE 認定) を取得し、ISO の規定に則った認証標準物質 (地球化学標準物質) とした。なお、標準試料の各種情報はデータベースとしてインターネット上で公開され、認証書の見本や各試料の分析データ等を見ることが出来る。

標準物質生産者としての ISO 認定については、再認定審査を継続的に受審し、認定の継続が認められ、新しい認定証が交付されている。認定は基本的に 4 年毎に更新され、その中間年度と更新年度に、それぞれ認定維持審査と再認定審査が行われる。更新年度である今年度は再認定審査が行われ、再認定が承認された。

今年度の品質目標として、特に品質システムの適切な管理、特性値の決定及び要員教育の継続を設定した。品質システム管理においては、リスクの明確化や記録・データ類の管理を適切に行った。特性値の決定においては、昨年度任命された特性値決定要員が新規標準試料である JLS-1a (石灰岩、北海道峯郎) の均質性確認及び共同分析による値付けを実施し、JLS-1a の特性値を決定した。要員教育においては、特性値決定要員による新人の分析訓練を実施し、湿式法による化学分析手法の技術維持を目指させた。なお、業務を適切に遂行させるために、各要員間のコミュニケーションを十分に取るよう留意した。

【キーワード】 国際標準、標準物質、地球化学、岩石、土壌、化学組成

【テーマ題目 38】 海洋地質データ頒布 (地質分野特定事業費) (成果普及品自己財源)

【研究代表者】 荒井 晃作 (地質情報研究部門)

【研究担当者】 荒井 晃作、井上 卓彦、片山 肇 (常勤職員 2 名、他 1 名)

【研究内容】

海域地質図プロジェクトで長年取得してきた海洋地質データは、海洋地質図の整備を主目的としているが、海洋地質データベースの構築とインターネット公開を行ってきた。近年になって、海域利用や海域基盤的情報を系統的に整備し、広く社会へ提供することは、産総研の社会実装、社会貢献という意味で重要になっている。このような背景を受けて、2023 年度から成果普及品として産総研の海洋地質データの頒布を開始した。海洋地球に関する基盤的情報及び科学的知見は、国や社会の持続的発展を支える基本的公共財として、産業立地を含む各種海洋開発・災害軽減・環境管理などに対する基礎的資料となる。

2023 年度は CEATEC (シーテック : Combined Exhibition of Advanced Technologies) と呼ばれる IT 技術とエレクトロニクスに関する大規模な展示会への参加と展示を実施し、データ頒布開始の紹介を行った。また、

実際のデータ頒布に加えて、これらのデータの取得方法から、データの有する意義づけを説明するために、技術コンサルティングをセットで提供することができた。開始されたばかりではあるが、海洋地質データに関しては、産総研の行っているような画一的なデータは他にはなく、今後も利用希望が出てくるものと考える。

〔キーワード〕 海底地質図、重力・地磁気異常図、表層堆積図、データベース、日本周辺海域

4. 外部資金による研究

経済産業省：

- 4.1 令和5年度 ISS 搭載型ハイパースペクトルセンサ等の研究開発 校正等に係る研究開発に関する再委託
- 4.2 海洋鉱物資源開発に向けた資源量評価・生産技術等調査事業：令和5年度コバルトリッチクラスト国際鉱区等における環境調査業務
- 4.3 2023年度 端脚類の分析・解析（経済産業省）
- 4.4 令和5年度海底熱水鉱床環境調査に係る各種解析及び情報収集（経済産業省（JOGMEC））
- 4.5 海水と生体アミンを用いた CO₂ 鉱物化法の研究開発（経済産業省（NEDO 研究開発委託事業））

環境省：

- 4.6 海洋流出マイクロプラスチックの物理・化学的特性に基づく汚染実態把握と生物影響評価/環境研究総合推進費

沖縄県：

- 4.7 令和5年度ワモンダコの集団遺伝解析に関する委託研究

科学技術研究費補助金：

- 4.8 磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元と地球生命史への影響の解明
- 4.9 深紫外レーザーが拓くラマン分光岩石学の新展開
- 4.10 完新世における東南極トッテン氷河の融解と暖水塊流入の影響評価
- 4.11 統合層序・年代モデル構築に基づく日本海溝の過去数万年間の地震履歴の解明
- 4.12 深部スロー地震発生域での地質構造・力学場を与える海山沈み込みの影響
- 4.13 紀伊半島の広域野外調査による地震発生帯の内部構造復元とその形成様式の解明
- 4.14 磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元と地球生命史への影響の解明
- 4.15 東南極沿岸での海域-陸域シームレス掘削による最終間氷期以降の氷床変動史の復元
- 4.16 陸上堆積物試料分析と GIA モデル解析の融合による間氷期の南極氷床融解史の解明
- 4.17 東南極沖合の現場観測に基づく氷-海洋-海底システムの理解
- 4.18 サンゴ体外分解系に着目したサンゴ礁生態系フェーズシフトのメカニズム解明
- 4.19 サピエンスによる海域アジアへの初期拡散と島嶼適応に関する学際的総合研究
- 4.20 マルチスケール宇宙線生成核種分析より紐解く地質時代の宇宙・地球現象と環境変動
- 4.21 南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変

動の復元

- 4.22 南コーカサス地方におけるネアンデルタール人の絶滅年代にかかわる考古学的研究
- 4.23 過去の温暖期における南極氷床の大規模融解の実態解明：鉛同位体に着目した新たな解析
- 4.24 海洋の微生物への温暖化の影響の解明
- 4.25 完新世における日本周辺地域の地磁気変化の標準曲線を確立する
- 4.26 火星の地下水分布推定に向けた地球アナログの周氷河地形の地下構造探査と形成過程解明
- 4.27 北極海-大気-植生-凍土-河川系における水・物質循環の時空間変動
- 4.28 沿岸浅海域の地理学研究：浅海底地形学の構築および海底景観の可視化と啓発
- 4.29 日本周辺の堆積物・サンゴ試料を用いた高時間解像度の気候復元と社会への影響評価研究
- 4.30 2.5億年前の大量絶滅期、古太平洋遠洋域の海洋最上部は無酸素化したか？
- 4.31 巨大地震の裏側～巨大化させないメカニズム
- 4.32 河川のアバルジョンに着目した氾濫原の形成過程の解明
- 4.33 資源利用行動から探る新人社会の基盤形成史：レヴァント地方乾燥域の考古科学研究
- 4.34 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究
- 4.35 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究
- 4.36 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究
- 4.37 サンゴの高温適応を考慮した新たな将来予測の実現
- 4.38 近代建築物を彩った日本の石：国産建築石材の標本探索と破壊・非破壊分析
- 4.39 琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様性の解明
- 4.40 将来の海洋酸性化が全球の炭素循環に及ぼす影響の検証
- 4.41 リアルタイム質量分析による生体マウス脳の時空間メタボローム解析法の開発と実証評価
- 4.42 琉球層群礫性石灰岩の古地磁気・岩石磁気分析による高分解能地球磁場・気候変動の復元
- 4.43 ミドリイシサンゴの環境ストレス耐性の遺伝的基盤の解明
- 4.44 海底下を透視する：音響による海底表層堆積物中の時空間的環境動態評価基盤の構築
- 4.45 広帯域超音波を用いた新しい巣穴形態計測法の開発
- 4.46 極めて健全な沿岸環境が保全された海域で生痕相を研究する
- 4.47 海洋の物質鉛直輸送に伴う微量金属のフラックス及び生物地球化学的プロセスの解明
- 4.48 関東平野における泥炭層は黒ボク土の再堆積物か？
- 4.49 地球内部物質循環解明のための塩素同位体標準物質の選定とハロゲンデータの蓄積

- 4. 50 地震学的アプローチによる地球外核深部の不均質に関する研究
- 4. 51 西南日本の地帯構造発達史の検証に基づく島弧地殻成長プロセスの解明
- 4. 52 宇宙線生成核種の年間生成率決定：地球磁場モデルの検証と新たな年代換算法の構築
- 4. 53 白亜紀大規模珪長質カルデラ火山群のマグマフラックスの推定と評価
- 4. 54 機械学習による首都圏平野部におけるボーリングデータの地層対比手法の研究
- 4. 55 日高地殻-マントル・マグマシステムの解明
- 4. 56 礫の残留磁化分析による東京低地地下河川成礫層の堆積年代決定
- 4. 57 中新世西南日本の時間的・空間的高分解能の応力史の構築
- 4. 58 有孔虫—共生藻—共生細菌類の三者共生系に外部ストレスが及ぼす影響の解明
- 4. 59 鍾乳石の高解像度磁気+化学分析による地磁気エクスカーション-環境変動の関連性評価
- 4. 60 ミドリイシサンゴの環境ストレス耐性の遺伝的基盤：ゲノムの種内多型から探る
- 4. 61 極小微動アレイ探査を用いた沖積低地の微高地種別判別技術の開発
- 4. 62 地質構成に基づく谷底低地の類型化と地盤震動特性に関する研究
- 4. 63 日本海拡大時のリフティングはブロック回転も引き起こしたのか？
- 4. 64 陸海堆積物の統合調査から紐解く有史以前のトカラ列島災害履歴
- 4. 65 大酸化イベントに関する研究：モリブデン同位体は酸化的風化の指標なのか？
- 4. 66 南・東アジア亜熱帯貧栄養沿岸海域における過去の海洋表層環境と低次生態系の復元
- 4. 67 日本海拡大期の回転運動と断層運動、沈降運動、火山活動
- 4. 68 新生代石灰質ナノプランクTONの進化と古生物地理に基づく新たな年代指標の開発
- 4. 69 OSL 年代に基づく和歌山平野の地形発達と集落遺跡の進出過程の再構築
- 4. 70 地質図情報+ストリートビューを活用した教材開発と学習モデルの構築
- 4. 71 アトムプローブトモグラフィーによる地球最古有機物質の原子構造解析
- 4. 72 島嶼地域の稲に耐暑性を与え収量を増加させるための廃ガラス肥料の開発
- 4. 73 古生代における Gondwana 北東縁の大陸分裂から解くアジア東縁の古地理変遷
- 4. 74 ナマコ類による底質の蓄積型栄養塩除去と細菌叢変化がサンゴの生育に及ぼす影響の解明
- 4. 75 地震予測情報の発信のあり方に関する地震研究者とメディア関係者による協働的検証
- 4. 76 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明
- 4. 77 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明
- 4. 78 15 年間の海底沈着実験によるマンガン酸化物の金属濃集プロセス解明
- 4. 79 複合微化石分析に基づく紀伊半島周辺における第四紀後期海水準変動の解明
- 4. 80 マルチオミクス解析を駆使した髄膜腫悪性化機序の解明
- 4. 81 コラリコリッドはサンゴの高温耐性を高めるか？
- 4. 82 深成岩と接触変成岩から解明するマグマ溜まり形成史
- 4. 83 マルチアレイ観測による深部低周波地震の発生メカニズムの解明
- 4. 84 分化小惑星上の水から読み解く太陽系衝突の歴史

経済産業省：

4.1 令和5年度ISS搭載型ハイパースペクトルセンサ等の研究開発 校正等に係る研究開発に関する再委託

〔研究代表者〕山本 聡（リモートセンシング研究グループ）

〔研究担当者〕山本 聡、水落 裕樹、松岡 萌、土田 聡、堂山 友己子、浦井 稔、岩男 弘毅（常勤職員4名、他3名）

〔研究内容〕

さまざまな地球観測センサの中でハイパースペクトルセンサは、高波長分解能のデータを取得することができるため、従来センサに比較し、より詳細な対象物の性質分析が可能となる。経済産業省では国際宇宙ステーション（ISS）に搭載したハイパースペクトルセンサ（以下、HISUI）を開発し、2020年度より本格観測を開始した。得られたデータを活用するためには、校正・検証の技術開発や観測計画の立案が不可欠である。そこで、ハイパースペクトルデータの放射量・波長校正などの物理量精度向上のため、HISUIに必要な各種校正（オンボード機器校正、波長校正、代替校正、相互校正研究開発、分光データライブラリなど）の研究開発および整備を継続し、「校正計画書」に反映させた。また、校正アーカイブシステム開発サーバ（CDAS）の開発・整備を進め、データインターフェースおよびアーカイブ機能部、ラジオメトリックDBにおいて、更新・修正・整備を行い、これらの結果を「校正アーカイブシステムに係る文章」に反映させた。また、定常的かつ効率的に観測を継続することを目的とし、HISUIの運用シナリオに基づき、HISUIのスケジューラ運用で必要となる管理業務、運用支援、必要データ更新等を行い、さらに長期観測計画の検討も行った。

〔キーワード〕衛星画像、校正・検証、ハイパースペクトルセンサ、ISS、HISUI

4.2 海洋鉱物資源開発に向けた資源量評価・生産技術等調査事業：令和5年度コバルトリッチクラスト国際鉱区等における環境調査業務

〔研究代表者〕井口 亮（海洋環境地質研究グループ）

〔研究担当者〕井口 亮、鈴木 淳、山岡 香子、齋藤 直輝、長尾 正之、清家 弘治、高橋 暁、宇都宮 正志、Travis Washburn、喜瀬 浩輝、西島 美由紀、池内 絵里、田中 裕一郎（研究戦略部）、鈴木 昌弘（環境創生研究部門）、塚崎 あゆみ（環境創生研究部門）、太田 雄貴（環境創生研究部門）、鶴島 修夫（環境創生研究部門）（常勤職員13名、他4名）

〔研究内容〕

コバルトリッチクラストは、金属資源の枯渇・不足を解消する重要な金属資源の供給元として注目を集めている。しかし、現状このような鉱石を安全かつ環境に配慮して採

掘する技術は確立されていない。このような背景の下、将来のコバルトリッチクラスト資源開発域周辺の環境影響評価に貢献することを目指し、独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構の受託研究を実施した。コバルトリッチクラスト国際鉱区において、国際海底機構の環境影響評価ガイドラインに準拠して環境ベースライン調査を実施し、基礎的な環境情報を取得した。

〔キーワード〕環境影響評価、コバルトリッチクラスト、端脚類、遺伝子解析

4.3 2023年度 端脚類の分析・解析（経済産業省）

〔研究代表者〕井口 亮（海洋環境地質研究グループ）

〔研究担当者〕井口 亮、池内 絵里（常勤職員1名、他1名）

〔研究内容〕

我が国では1975年からハワイ南東沖のクラリオン・クリップトン断裂帯及びその周辺海域で海洋鉱物資源探査が実施され、1987年には深海資源開発株式会社が東西合わせた75,000km²のマンガン団塊国際鉱区の探査権を国際海底機構から取得した。近年、海洋鉱物資源開発について海洋環境・生態系への影響や保全に関する議論が国際的に進められている。2022年度は、深海資源開発株式会社からの委託業務として、ISAとの探査契約に基づいてハワイ諸島南東海域で実施するマンガン団塊海洋調査において取得された生物サンプルについて、特に端脚類の遺伝子解析を実施し、ミトゲノム配列の取得及び一塩基多型データによる連結性の把握を行った。

〔キーワード〕環境影響評価、マンガン団塊、端脚類、遺伝子解析

4.4 令和5年度海底熱水鉱床環境調査に係る各種解析及び情報収集（経済産業省（JOGMEC））

〔研究代表者〕山岡 香子（海洋環境地質研究グループ）

〔研究担当者〕山岡 香子、井口 亮、鈴木 淳、清家 弘治、西島 美由紀（常勤職員4名、他1名）

〔研究内容〕

沖縄トラフ海域や伊豆・小笠原海域等には海底熱水鉱床の賦存が確認されており、その開発可能性が模索されている。独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構は、国が定めた開発計画に基づき、資源量評価、採鉱・選鉱・製錬技術開発、及び環境影響評価に関する業務に継続的に取り組んでいる。本業務は、海底熱水鉱床周辺の環境影響評価に関して、株式会社 KANSO テクノスからの再委託として実施した。2023年度は、端脚類の遺伝子解析を実施し、遺伝的多様性及び連結性評価に向けたサンプルの概要を把握するとともに、堆積物について真核生物メタバーコーディング解析を行い、メイオベントス群集組成を把握した。また、堆積物コアについてX線CTスキャナーによる内部構造解析を実施し、生物擾乱について評価した。

〔キーワード〕海底熱水鉱床、環境影響評価、遺伝子解析、海底堆積物

4.5 海水と生体アミンを用いた CO₂ 鉱物化法の研究開発 (経済産業省 (NEDO 研究開発委託事業))

[研究代表者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[研究担当者] 井口 亮、儀武滉大 (常勤職員 1 名、他 1 名)

[研究内容]

海水をカルシウムイオン供給源として、炭酸カルシウム製造の工業化の可能性を検討し、海洋生物が創り出すような特殊な炭酸カルシウムをラボ内で再現する技術を利用して、高付加価値を有する炭酸カルシウムを製造することを目指す。産業技術総合研究所は、「廃海水が周辺環境に及ぼす影響評価」を担当した。廃海水の安全性を担保するために、人工アミンとポリアミンの毒性について、海洋生物の例として、サンゴ幼生を用い、遺伝子レベルでの影響評価を実施した。また、廃海水のショットガンメタゲノム解析を実施し、海水中の細菌及び機能遺伝子組成の把握を行った。

[キーワード] 海水、炭酸カルシウム、ポリアミン

環境省：

4.6 海洋流出マイクロプラスチックの物理・化学的特性に基づく汚染実態把握と生物影響評価/環境研究総合推進費

[研究代表者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[研究担当者] 板木 拓也、天野 敦子、有元 純、清家 弘治、田村 亨、鈴木 克明、宮川 歩夢、齋藤 直樹、飯塚 睦 (常勤職員 8 名、他 1 名)

[研究内容]

本研究の目的は、海洋流出マイクロプラスチック (MP) の分布と物理・化学的特性の評価による汚染実態の解明、及びモデル生物による生物影響評価である。具体的には、我が国の 9 つの地域で河川水、河口堆積物、海岸・湖岸砂、海洋表層水を対象として、5 μm 以上 5 mm 未満の MP の採取・測定方法の開発、自動粒子抽出システムによる形態の数値化とサイズ別の分類、ポリマー同定などを実施して、物理・化学的特性を明らかにする。2023 年度は北海道、山形、山口、広島で調査を実施するとともに、2022 年度に採取した試料の分析を進め、一部結果を学会発表として投稿した。

[キーワード] マイクロプラスチック、堆積物、海水、河川、沿岸海域

沖縄県：

4.7 令和 5 年度ワモンダコの集団遺伝解析に関する委託研究

[研究代表者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[研究担当者] 井口 亮、儀武滉大 (常勤職員 1 名、他 1 名)

[研究内容]

頭足類の 1 種であるワモンダコは、沖縄県においては、タコ類の中で漁獲量が最も多く、水産資源として最重要種として位置づけられている。そのため、その適切な資源管理に向けた集団の形成・維持機構に関する基礎的情報の知見の蓄積が求められている。2023 年度は、過年度とは別に、琉球列島の 2 地点で採取されたワモンダコを対象とした遺伝子解析による遺伝的多様性及び種内連結性の把握を行った。

[キーワード] ワモンダコ、琉球列島、遺伝的集団構造、遺伝子解析

科学技術研究費補助金：

4.8 磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元と地球生命史への影響の解明

[研究代表者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04523/>

4.9 深紫外レーザーが拓くラマン分光岩石学の新展開

[研究代表者] 中村 佳博 (地殻岩石研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H01193/>

4.10 完新世における東南極トッテン氷河の融解と暖水塊流入の影響評価

[研究代表者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H01201/>

4.11 統合層序・年代モデル構築に基づく日本海溝の過去数万年間の地震履歴の解明

[研究代表者] 池原 研 (地質情報研究部門)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-23K22586/>

4.12 深部スロー地震発生域での地質構造・力学場に与える海山沈み込みの影響

[研究代表者] 宮川 歩夢 (地球物理研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PUBLICLY-22H05316/>

4.13 紀伊半島の広域野外調査による地震発生帯の内部構造復元とその形成様式の解明

[研究代表者] 志村 侑亮 (層序構造地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PUBLICLY-22H05314/>

4.14 磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元と地球生命史への影響の解明

[研究代表者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI->

PROJECT-21H04523/

4. 15 東南極沿岸での海域－陸域シームレス掘削による最終間氷期以降の氷床変動史の復元

[研究分担者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/en/grant/KAKENHI-PROJECT-19H00728/>

4. 16 陸上堆積物試料分析と GIA モデル解析の融合による間氷期の南極氷床融解史の解明

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-23K20887/>

4. 17 東南極沖合の現場観測に基づく氷－海洋－海底システムの理解

[研究分担者] 山下 幹也 (資源テクトニクス研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K22608/>

4. 18 サンゴ体外分解系に着目したサンゴ礁生態系フェーズシフトのメカニズム解明

[研究代表者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20H00653/>

4. 19 サビエンスによる海域アジアへの初期拡散と島嶼適応に関する学際的総合研究

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25387/>

4. 20 マルチスケール宇宙線生成核種分析より紐解く地質時代の宇宙・地球現象と環境変動

[研究分担者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23H00135/>

4. 21 南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変動の復元

[研究分担者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04924/>

4. 22 南コーカサス地方におけるネアンデルタール人の絶滅年代にかかわる考古学的研究

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25387/>

4. 23 過去の温暖期における南極氷床の大規模融解の実態解明：鉛同位体に着目した新たな解析

[研究分担者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04924/>

4. 24 海洋の微生物への温暖化の影響の解明

[研究分担者] 宇都宮 正志 (層序構造地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20H04325/>

4. 25 完新世における日本周辺地域の地磁気変化の標準曲線を確立する

[研究分担者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H01171/>

4. 26 火星の地下水分布推定に向けた地球アナログの周氷河地形の地下構造探査と形成過程解明

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25928/>

4. 27 北極海－大気－植生－凍土－河川系における水・物質循環の時空間変動

[研究分担者] 水落 裕樹 (リモートセンシング研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19H05668/>

4. 28 沿岸浅海域の地理学研究：浅海底地形学の構築および海底景観の可視化と啓発

[研究分担者] 鈴木 淳 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25928/>

4. 29 日本周辺の堆積物・サンゴ試料を用いた高時間解像度の気候復元と社会への影響評価研究

[研究分担者] 鈴木 淳 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K20242/>

4. 30 2. 5 億年前の大量絶滅期、古太平洋遠洋域の海洋最上部は無酸素化したか？

[研究分担者] 武藤 俊 (層序構造地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25983/>

4. 31 巨大地震の裏側～巨大化させないメカニズム

[研究分担者] 池原 研 (地質情報研究部門)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19H05596/>

4. 32 河川のアバルシオンに着目した氾濫原の形成過程の解明

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25418/>

4. 33 資源利用行動から探る新人社会の基盤形成史：レヴァント地方乾燥域の考古科学研究

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25418/>

PROJECT-20H00026

4.34 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究

[研究分担者] 宇都宮 正志(層序構造地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25423/>

4.35 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究

[研究分担者] 中澤 努(情報地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25423/>

4.36 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究

[研究分担者] 納谷友規(平野地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25423/>

4.37 サンゴの高温適応を考慮した新たな将来予測の実現

[研究分担者] 井口 亮(海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23H00535/>

4.38 近代建築物を彩った日本の石：国産建築石材の標本探索と破壊・非破壊分析

[研究分担者] 中澤 努(情報地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K22944/>

4.39 琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様性の解明

[研究分担者] 井口 亮(海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K20305/>

4.40 将来の海洋酸性化が全球の炭素循環に及ぼす影響の検証

[研究分担者] 鈴木 淳(海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25980/>

4.41 リアルタイム質量分析による生体マウス脳の時空間メタボローム解析法の開発と実証評価

[研究分担者] 井口 亮(海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H03793/>

4.42 琉球層群礁性石灰岩の古地磁気・岩石磁気分析による高分解能地球磁場・気候変動の復元

[研究代表] 小田 啓邦(地球変動史研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20KK0082/>

4.43 ミドリイシサンゴの環境ストレス耐性の遺伝的基盤の解明

[研究代表者] 仮屋園 志帆(海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-18J30015/>

4.44 海底下を透視する：音響による海底表層堆積物中の時空間的環境動態評価基盤の構築

[研究分担者] 清家 弘治(地球変動史研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20KK0238/>

4.45 広帯域超音波を用いた新しい巣穴形態計測法の開発

[研究分担者] 清家 弘治(地球変動史研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K18835/>

4.46 極めて健全な沿岸環境が保全された海域で生痕相を研究する

[研究代表者] 清家 弘治(地球変動史研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20KK0314/>

4.47 海洋の物質鉛直輸送に伴う微量金属のフラックス及び生物地球化学的プロセスの解明

[研究代表者] 山岡 香子(海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K03979/>

4.48 関東平野における泥炭層は黒ボク土の再堆積物か？

[研究代表者] 田邊 晋(平野地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K03690/>

4.49 地球内部物質循環解明のための塩素同位体標準物質の選定とハロゲンデータの蓄積

[研究代表者] 遠山 知亜紀(地球化学研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K03708/>

4.50 地震学的アプローチによる地球外核深部の不均質に関する研究

[研究代表者] 大滝 壽樹(地球物理研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K03709/>

4.51 西南日本の地帯構造発達史の検証に基づく島弧地殻成長プロセスの解明

[研究代表者] 野田 篤(地殻岩石研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K03731/>

4.52 宇宙線生成核種の年間生成率決定：地球磁場モデルの検証と新たな年代換算法の構築

[研究代表者] 中村 淳路(地球化学研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K14003/>

4.53 白亜紀大規模珪長質カルデラ火山群のマグマフラッ

クスの推定と評価

- [研究代表者] 佐藤 大介 (地殻岩石研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K14023/>
- 4.54 機械学習による首都圏平野部におけるボーリングデータの地層対比手法の研究
[研究代表者] 野々垣 進 (情報地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K03745/>
- 4.55 日高地殻-マントル・マグマシステムの解明
[研究代表者] 山崎 徹 (地殻岩石研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K03764/3>
- 4.56 礫の残留磁化分析による東京低地地下河川成礫層の堆積年代決定
[研究代表者] 羽田 裕貴 (平野地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-22K14107>
- 4.57 中新世西南日本の時間的・空間的高分解能の応力史の構築
[研究代表者] 羽地 俊樹 (地殻岩石研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K14129/>
- 4.58 有孔虫—共生藻—共生細菌類の三者共生系に外部ストレスが及ぼす影響の解明
[研究代表者] 前田 歩 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22KJ3176/>
- 4.59 鍾乳石の高解像度磁気+化学分析による地磁気エクスカージョン—環境変動の連関性評価
[研究代表者] 福興 直人 (地球変動史研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22KJ3182/3>
- 4.60 ミドリイシサンゴの環境ストレス耐性の遺伝的基盤：ゲノムの種内多型から探る
[研究代表者] 仮屋園 志帆 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K14898/>
- 4.61 極小微動アレイ探査を用いた沖積低地の微高地種別判別技術の開発
[研究代表者] 小松原 純子 (情報地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03515/>
- 4.62 地質構成に基づく谷底低地の類型化と地盤震動特性に関する研究
[研究代表者] 中澤 努 (情報地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03517/>
- 4.63 日本海拡大時のリフティングはブロック回転も引き起こしたのか？
[研究代表者] 細井 淳 (地殻岩石研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03538/>
- 4.64 陸海堆積物の統合調査から紐解く有史以前のトカラ列島災害履歴
[研究代表者] 鈴木 克明 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K13180/>
- 4.65 大酸化イベントに関する研究：モリブデン同位体は酸化的風化の指標なのか？
[研究代表者] 後藤 孝介 (資源テクトニクス研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K13209/>
- 4.66 南・東アジア亜熱帯貧栄養沿岸海域における過去の海洋表層環境と低次生態系の復元
[研究代表者] 前田 歩 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/en/grant/KAKENHI-PROJECT-23K13210/>
- 4.67 日本海拡大期の回転運動と断層運動、沈降運動、火山活動
[研究代表者] 細井 淳 (地殻岩石研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-19K14822>
- 4.68 新生代石灰質ナノプランクトンの進化と古生物地理に基づく新たな年代指標の開発
[研究代表者] 宇都宮 正志 (層序構造地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21KK0248/>
- 4.69 OSL 年代に基づく和歌山平野の地形発達と集落遺跡の進出過程の再構築
[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K01010/>
- 4.70 地質図情報+ストリートビューを活用した教材開発と学習モデルの構築
[研究分担者] 内野隆之 (シームレス地質情報研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K02566/>
- 4.71 アトムプローブトモグラフィーによる地球最古有機物質の原子構造解析
[研究分担者] 中村 佳博 (地殻岩石研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20KK0081/>

- 4.72 島嶼地域の稲に耐暑性を与え収量を増加させるための廃ガラス肥料の開発
[研究分担者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K05892/>
- 4.73 古生代における Gondwana 北東縁の大陸分裂から解くアジア東縁の古地理変遷
[研究代表者] 鈴木 敬介 (層序構造地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ2202>
- 4.74 ナマコ類による底質の蓄積型栄養塩除去と細菌叢改変がサンゴの生育に及ぼす影響の解明
[研究代表者] 濱本 耕平 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ2204>
- 4.75 地震予測情報の発信のあり方に関する地震研究者とメディア関係者による協働的検証
[研究代表者] 大谷 竜 (地球物理研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K04961/>
- 4.76 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明
[研究分担者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K11518/>
- 4.77 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明
[研究分担者] 三澤 文慶 (海洋地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K11518/>
- 4.78 15 年間の海底沈着実験によるマンガン酸化物の金属濃集プロセス解明
[研究分担者] 山岡 香子 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K03682/>
- 4.79 複合微化石分析に基づく紀伊半島周辺における第四紀後期海水準変動の解明
[研究分担者] 天野 敦子 (地球変動史研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03564/>
- 4.80 マルチオミクス解析を駆使した髄膜腫悪性化機序の解明
[研究分担者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K08531/>
- 4.81 コラリコリッドはサンゴの高温耐性を高めるか？
[研究分担者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/en/grant/KAKENHI-PROJECT-23K05372/>
- 4.82 深成岩と接触変成岩から解明するマグマ溜まり形成史
[研究代表者] 山岡 健 (地殻岩石研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K19076/>
- 4.83 マルチアレイ観測による深部低周波地震の発生メカニズムの解明
[研究分担者] 長 郁夫 (情報地質研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20K04118/>
- 4.84 分化小惑星上の水から読み解く太陽系衝突の歴史
[研究分担者] 松岡 萌 (リモートセンシング研究グループ)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20K04055/>

5. 業績

5.1 地質図類

名 称	編 纂	備 考	発表年月
20 万分の 1 地質図幅「富山」(第 2 版)	<u>竹内 誠</u> 、 <u>長森 英明</u> 、 <u>古川 竜太</u> 、 <u>及川 輝樹</u> 、 <u>坂野 靖行</u> 、 <u>宮川 歩夢</u>	20 万分の 1 地質図幅	2023.07.
積丹半島付近海底地質図	<u>岡村 行信</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>斎藤 眞</u>	海洋地質図	2023.09.
積丹半島付近重力異常図・磁気異常図	<u>佐藤 太一</u>	海洋地質図	2023.09.
5 万分の 1 地質図幅「荒砥」	<u>鹿野 和彦</u> 、 <u>三村 弘二</u> 、 <u>久保 和也</u>	5 万分の 1 地質図幅	2024.01.
5 万分の 1 地質図幅「外山」	<u>内野 隆之</u> 、 <u>小松原 琢</u>	5 万分の 1 地質図幅	2024.03.
5 万分の 1 地質図幅「伊予長浜」	<u>宮崎 一博</u>	5 万分の 1 地質図幅	2024.03.
栃木県シームレス地質図 第 2 版	<u>吉川 敏之</u>	特殊地質図	2024.03.
甲府-静岡地域重力図(ブーゲー異常)	<u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>村田 泰章</u> 、 <u>駒澤 正夫</u> 、 <u>名和 一成</u> 、 <u>江戸 将寿</u> 、 <u>伊藤 忍</u> 、 <u>住田 達哉</u> 、 <u>山谷 祐介</u> 、 <u>石原 丈実</u>	重力図 36	2024.03.

5.2 データベース・ソフトウェア

名 称	作成者	公開日
地質情報データベース 20 万分の1日本シームレス地質図 V2 のデータ更新(更新フォームを基にした修正)	<u>坂野 靖行</u> 、 <u>長津 樹理</u> 、 <u>西岡 芳晴</u> 、 <u>井川 敏恵</u>	2023.05.10
JIS A0206 の追補改正	<u>斎藤 眞</u> 、 <u>脇坂 安彦</u> 、 <u>土屋 彰義</u>	2023.12.23

5.3 誌上発表

発表題目	発表者	掲載誌, 巻(号), ページ	発表年月
地質情報研究部門			
経済産業省こどもデー出展報告「地盤の揺れる様子と液状化を目の前で見てみよう」	金子 翔平、穴倉 正展、兼子 尚知、宮地 良典、落 唯史、今西 和俊、金子 雅紀、石塚 吉浩	GSJ 地質ニュース, 12(04), 112-113	2023.04.
海溝底堆積物中に過去の巨大地震の痕跡を探せ！IODP Expedition 386 Personal Sampling Party 報告	池原 研、Michael Strasser、Jez Everest、前田 玲奈、IODP Expedition 386 Science Party	J-DESC News, 16, 14-15	2023.05.
J-DESC コアスクール開催報告(コア解析基礎コース):コロナ禍での復活開催と今後に向けて	浦本 豪一郎、池原 研、池原 実、入野 智久、久保 雄介、黒田 潤一郎、多田 井修、久光 敏夫、尾張 聡子、安川 和孝	J-DESC News, 16, 28	2023.05.
The Anthropocene as an epoch is distinct from all other concepts known by this term: a reply to Swindles et al. (2023)	Martin J. Head, Colin N. Waters, Jan A. Zalasiewicz, Anthony D. Barnosky, Simon D. Turner, Alejandro Cearreta, Reinhold Leinfelder, Francine M.G. McCarthy, Daniel de B. Richter, Neil L. Rose、齋藤 文紀、Davor Vidas、Michael Wagreich、Yongming Han、Colin P. SumMerhayes、Mark Williams、Jens Zinke	JOURNAL OF QUATERNARY SCIENCE, 38(4), 455-458	2023.05.
Late Pleistocene to Holocene facies architecture and sedimentary evolution of the Zhejiang coast, East China Sea	Jian Liu, Jiandong Qiu、齋藤 文紀、Xin Zhang、Hong Wang、Feifei Wang、Lilei Chen、Gang Xu、Bin Chen、Meina Li、Yuhui An	MARINE GEOLOGY, 459, 107027	2023.05.
Amino accelerators and antioxidants in sediments from the Dong Nai River System, Vietnam: Distribution and influential factors	Ruihe Jin, Yue Li、齋藤 文紀、Zhanghua Wang、Thi Kim Oanh Ta、Van Lap Nguyen、Jing Yang、Min Liu、Yan Wu	ENVIRONMENTAL RESEARCH, 227, 115712	2023.06.
紀伊半島南岸の「フェニックス褶曲」	小松原 純子	地学雑誌, 132(3), Cover03_01- Cover03_02	2023.06.
Geological history of the land area between Miyako Jima Island and Okinawa Jima Island of the Ryukyus, Japan, and its phylogeographical significances for the terrestrial organisms of these and adjacent islands	Nana Watanabe、荒井 晃作、大坪 誠、Mamoru Toda、Atsuhito Tominaga、Shun Chiyonobu、Tokiyuki Sato、Tadahiro Ikeda、Akio Takahashi、Hidetoshi Ota、Yasufumi Iryu	Progress in Earth and Planetary Science	2023.07.
地震動による海底表層堆積物の再懸濁・再移動とそれを起源としたイベント堆積物を用いた地震履歴研究	池原 研	第四紀研究, 62, 73-87	2023.08.
International Ocean Discovery Program Expedition 386 Preliminary Report Japan Trench Paleoseismology	池原 研、Michael Strasser、Jeremy Everest、前田 玲奈、Katherine Hochmuth、IODP Expedition 386 Science Party	Expedition 386 Preliminary Report: Japan Trench Paleoseismology, 386, 1-69	2023.09.
Late Cretaceous to Paleogene terrestrial sequence in the northern Kitakami	野田 篤、森本 和也、高橋 幸士、檀原 徹、岩野 英樹、平田 岳史	ISLAND ARC, 32(1)	2023.09.

Mountains, Northeast Japan: Depositional ages, clay mineral compositions, and vitrinite reflectance	Mengfan Chu, Rui Bao, Michael Strasser, <u>池原 研</u> , Jeremy Everest, 前田 玲奈, Katherine Hochmuth, Li Xu, Ann McNichol, Piero Bellanova, Troy Rasbury, Martin Kolling, Natascha Riedinger, Joel Johnson, Min Luo, Christian Marz, Susanne Straub, 實野佳奈, Morgane Brunet, Zhirong Cai, Antonio Cattaneo, Hsiung Kan-Hsi, 石澤 堯史, <u>板木 拓也</u> , 金松 敏也, Myra Keep, 喜岡 新, Cecilia McHuge, Aaron Micallef, Dhananjai Pandey, Jean Noel Proust, 里口 保文, Derek Sawyer, Chloe Seibert, Maxwell Silver, Joonas Virtasalo, Yonghong Wang, Ting-Wei Wu, Sarah Zellers	Nature Communications, 14, 5427	2023.09.	
Earthquake-enhanced dissolved carbon cycles in ultra-deep ocean sediments	Yuhui An, Xiuli Feng, Jian Liu, <u>齋藤文紀</u> , Jiandong Qiu, Xin Zhang, Hong Wang, Lilei Chen	GEOMORPHOLOGY, 439(15), 108853	2023.10.	
Development of a Middle ? Late Holocene subaqueous clinoform in the northern Jiangsu coastal zone, western South Yellow Sea	Hsiung Kan-Hsi, 金松 敏也, <u>池原 研</u> , 村山 雅史, <u>山本 裕二</u>	Geoscience Letters, 10, 49	2023.10.	
Active sediment transport along trench axis: Insights from X-ray fluorescence core scanning and magnetic analysis of marine sediments in the southern Ryukyu Trench	令和 4 年度「防災・減災のための高精度デジタル地質情報の整備事業」の概要	藤原 治, 丸山 正, 古川 竜太, <u>宮地 良典</u> , <u>片山 肇</u> , <u>内藤 一樹</u>	地質調査総合センター速報, (84), 1-7	2023.11.
Proceedings of the International Ocean Discovery Program volume 386 Japan Trench Paleoseismology	Michael Strasser, <u>池原 研</u> , Jeremy Everest, Expedition 386 Scientists	Japan Trench Paleoseismology. Proceedings of the International Ocean Discovery Program, 386	2023.11.	
斜面災害リスク評価のための地質情報整備 - 本プロジェクトの構成について-	<u>宮地 良典</u> , <u>川畑 大作</u>	地質調査総合センター速報, (84), 61-63	2023.11.	
Holocene marine deposits in the Bohai Sea: Depocenters, sediment sources, and oceanic and tectonic influences	Xishuang Li, Yuexia Zhao, Zuosheng Yang, Shuqing Qiao, Baohua Liu, Qiuhong Xie, <u>齋藤 文紀</u> , Chenguang Liu	GEOMORPHOLOGY, 442(1), 108913	2023.12.	
Accretion processes, structural evolution, and thrust activity in accretionary wedges with various decollement settings: Insights from sandbox analog modeling	<u>野田 篤</u> , Fabien Graveleau, Cesar Witt, Frank Chanier, Bruno Vendeville	JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH-SOLID EARTH, 128, 1-31	2023.12.	
Pearl River sediment dispersal over its associated delta ? estuary ? shelf system during the Holocene	Yuanyuan Chen, Bing Deng, <u>齋藤 文紀</u> , Zhanghua Wang, Xiaoqiang Yang, Jiaxue Wu	SEDIMENTOLOGY, 70(7), 2331-2354	2023.12.	

日本の土壌地球化学図	<u>太田 充恒</u> 、 <u>今井 登</u> 、 <u>寺島 滋</u> 、 <u>立花 好子</u> 、 <u>岡井 貴司</u> 、 <u>間中 光雄</u> 、 <u>久保田 蘭</u> 、 <u>中村 淳路</u> 、 <u>遠山 知亜紀</u>	地球化学, 57(4), 247-278	2023.12.
Comparative single-cell genomics of Atribacterota JS1 in the Japan Trench hadal sedimentary biosphere	實野 佳奈、星野 辰彦、西川 洋平、小川 雅人、峯田 克彦、Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Jeremy Eversest、前田 玲奈、稲垣 史生、張 春子、IODP Expedition 386 Scientists	mSphere	2024.01.
Cryptotephra preserved in Lake Suigetsu (SG14 core) reveals the eruption timing and distribution of ash fall from Japanese volcanoes during the Late-glacial to early Holocene	Paul Albert、Danielle McLean、Hannah M. Buckland、鈴木 毅彦、Gwydion Jones、Richard A. Staff、Sophie Vineberg、北場 育子、山田 圭太郎、森脇 広、石村 大輔、 <u>池原 研</u> 、Christina J. Manning、SG14 Project Members、中川 毅、Victoria Smith	QUATERNARY SCIENCE REVIEWS, 324, 108376	2024.01.
斜面災害リスク評価のための地質情報集 -その2:九州地域の地質図データ等-	<u>宮地 良典</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、星住 英夫、下司 信夫	GSJ 研究資料集, 1-3	2024.03.
斜面災害リスク評価のための地質情報集 -その1: 全国走向傾斜データ-	<u>川畑 大作</u> 、 <u>阪口 圭一</u>	GSJ 研究資料集, 1-7	2024.03.
伊予長浜地域の地質	<u>宮崎 一博</u>	地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)	2024.03.
Growth kinetics of metamorphic minerals and the implications for metamorphic geochronology and geology: some case studies of metamorphic zircon	<u>宮崎 一博</u>	Methods and Applications of Geochronology, 479-509	2024.03.
1. 茂原貝層について	<u>中島 礼</u>	茂原市史調査報告書第九集, 1-13	2024.03.
Zircon U-Pb ages of felsic and mafic dikes associated with granitoids and metamorphic rocks of the Ryoke Belt in the eastern Kii Peninsula, Southwest Japan	図子田 和典、 <u>竹内 誠</u> 、中島 隆、谷口 紗英、李 雨しょう、浅原 良浩、山本 鋼志	ISLAND ARC	2024.03.
地質情報研究部門 平野地質研究グループ			
チバニアン GSSP サイトと陸化した前弧海盆上総層群の層序	岡田 誠、 <u>羽田 裕貴</u>	地質学雑誌, 129(1), 273-288	2023.04.
Grain-size variability and formation process of lowstand river sediments in the Japanese Islands: A review and outlook	<u>田邊 晋</u> 、 <u>小松原 琢</u> 、 <u>堀 和明</u>	EARTH-SCIENCE REVIEWS, 243, 104504	2023.07.
Accumulation of thick fluvial sediments in the Shinano River incised-valley fills: implications for sequence stratigraphy and alluvial architecture	<u>堀 和明</u> 、 <u>田邊 晋</u> 、卜部 厚志	JOURNAL OF SEDIMENTARY RESEARCH, 93(7), 453-462	2023.07.
Delta initiation under low sediment discharge: Insights from Holocene incised valley fills north of Tokyo Bay, central Japan	<u>田邊 晋</u> 、Wan Hong、Junghun Park、北川 浩之	MARINE GEOLOGY, 463, 107101	2023.07.

多摩丘陵に分布する下部更新統上総層群における化石珪藻 <i>Lancineis rectilatus</i> の産出層準とその地質学的・古生物学的意義	<u>納谷 友規</u> 、 <u>鈴木 毅彦</u>	化石, 114, 23-35	2023.09.
和歌山平野における沖積層の基盤地形	<u>田邊 晋</u> 、 <u>石原 与四郎</u>	地質調査総合センター速報, (83), 1-7	2023.12.
徳島県鳴門市里浦町の海岸に分布する大阪層群相当層の堆積年代	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>中谷 是崇</u> 、 <u>小松原 琢</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>水野 清秀</u> 、 <u>中島 礼</u> 、 <u>西山 賢一</u> 、 <u>中尾 賢一</u>	地質調査総合センター速報, 85(1), 9-20	2024.03.
愛知県西三河平野における過去 100 万年間の浅海生珪藻化石群集の変遷	<u>納谷 友規</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>水野 清秀</u>	地質調査研究報告, 75(1), 21-59	2024.03.

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

Elevated sedimentation of clastic matter in pelagic Panthalassa during the early Olenekian	<u>武藤 俊</u> 、 <u>高橋 聡</u> 、 <u>山北 聡</u>	ISLAND ARC, 32, e12485	2023.05.
Basin-wide erosion and segmentation of the Plio-Pleistocene forearc basin in central Japan revealed by tephro- and biostratigraphy	<u>宇都宮 正志</u> 、 <u>田村 糸子</u> 、 <u>野崎 篤</u> 、 <u>中嶋 輝允</u>	Progress in Earth and Planetary Science, 10, 25	2023.05.
Conodont biostratigraphy of a Carboniferous–Permian boundary section in siliceous successions of pelagic Panthalassa revealed by X-ray computed microtomography	<u>武藤 俊</u> 、 <u>高橋 聡</u> 、 <u>村山 雅史</u>	Frontiers in Earth Science, 11	2023.06.
Permian radiolarians and spicules from conglomerate of the Lower Jurassic Kuruma Group in Itoigawa, Niigata Prefecture, central Japan	<u>伊藤 剛</u> 、 <u>川尻 啄真</u> 、 <u>松岡 篤</u>	PALEONTOLOGICAL RESEARCH, 27(3), 359-374	2023.07.
Tectonic division of the Southwestern terrane at the western Sor Rondane Mountains, Dronning Maud Land, East Antarctica, from a viewpoint of zircon U-Pb ages	<u>東田 和弘</u> 、 <u>スクバートル プレブドゥラム</u> 、 <u>大和田 正明</u> 、 <u>志村 俊昭</u> 、 <u>柚原 雅樹</u> 、 <u>亀井 淳志</u> 、 <u>志村 侷亮</u> 、 <u>ガニユムル オノン</u>	Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 118	2023.10.
Late Paleozoic and Early Mesozoic radiolarians from chert conglomerates embedded in the Kaeng Raboet Formation (Upper Mesozoic continental red-bed), Kanchanaburi Province, western Thailand	<u>指田 勝男</u> 、 <u>Panus Hong</u> 、 <u>Parisa Nimnate</u> 、 <u>伊藤 剛</u> 、 <u>Kantanat Trakunweerayut</u> 、 <u>Siroth Salyapongse</u> 、 <u>Prinya Putthapiban</u>	REVUE DE MICROPALÉONTOLOGIE, 80, 100728	2023.10.
古地磁気層序とテフラ層序に基づく房総半島南部の下部更新統千倉層群と同半島東部の上総層群の対比	<u>小西 拓海</u> 、 <u>宇都宮 正志</u> 、 <u>岡田 誠</u> 、 <u>田村 糸子</u>	地質学雑誌, 129(1), 469-487	2023.10.
GH18 航海において石垣島近傍海底で採取された堆積物の石灰質ナノ化石の追加検討	<u>宇都宮 正志</u>	地質調査研究報告, 74, 337-338	2023.12.
Permian and Triassic Microfossils from Chert Pebbles Within the Lower Cretaceous Choshi Group in the Choshi	<u>伊藤 剛</u> 、 <u>武藤 俊</u> 、 <u>岩本 直哉</u>	Geoheritage, 15(4), 130	2023.12.

Geopark, Central Japan: Extending the Age Range of Fossil in Geoparks			
Late Triassic (Late Early to Early Middle Norian) and Late Triassic or Early Jurassic Radiolarians from Limestone in the Tha Sao Area, Kanchanaburi Province, Western Thailand: Low-Latitude Fauna in the Eastern Tethys	指田 勝男、Panus Hong、 <u>伊藤 剛</u> 、Sirot Salyapongse、Prinya Putthapiban	PALEONTOLOGICAL RESEARCH, 28(1), 37-67	2024.01.
Spirally-coiled radiolarians in the latest Jurassic-earliest Cretaceous	<u>伊藤 剛</u> 、松岡 篤、横山 隼	PALEONTOLOGICAL RESEARCH, 28(1), 68-70	2024.01.
Significance of failed rifts in the Archean tectonics: clues from structural and stratigraphic framework of the Chitradurga Schist Belt, Western Dharwar Craton, southern India	Lakshmanan Sreehari、鈴木 敬介、A.S. Silpa、豊島 剛志、 <u>植田 勇人</u> 、Madhusoodhan Satish-Kumar、亀井 淳志	PRECAMBRIAN RESEARCH, 405(1), 107344	2024.03.
放散虫トランプの『ジョーカー』	<u>伊藤 剛</u> 、松岡 篤	化石, (115), 1-2	2024.03.

地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

Possible partial melting and production of felsic melt in a Jurassic oceanic plateau of the Izanagi Plate: Insights from 159 Ma plagiogranites from northern Japan	<u>山崎 徹</u> 、谷 健一郎、 <u>下田 玄</u> 、七山 太	INTERNATIONAL GEOLOGY REVIEW, 66(5), 993-1022	2023.06.
Assimilation of lower-crustal dunite xenoliths into adakite-related felsic magma: New insights into the production of bajaitic high-Mg andesites	<u>山崎 徹</u> 、 <u>内野 隆之</u>	JOURNAL OF ASIAN EARTH SCIENCES, 249, 105613	2023.06.
Rotated Transtensional Basins Formed During Back-arc Spreading in Japan: 1 Simultaneous Rapid Tectonic Rotation and Basin Subsidence	<u>細井 淳</u> 、谷井 優理恵、岡田 誠、 <u>羽田 裕貴</u>	TECTONICS, 42(6), e2022TC007642	2023.06.
照来コールドロン、歌長流紋岩下部凝灰岩のジルコン U-Pb 年代	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u> 、仁木 創太、平田 岳史	地質学雑誌, 129(1), 341-354	2023.06.
十和田火山の積算マグマ噴出量階段図	<u>工藤 崇</u>	地質調査研究報告, 74(3), 133-153	2023.07.
日本海拡大時の大地の急速沈降と回転の同時発生を発見-地質調査が明かす棚倉断層帯沿いの堆積盆の詳細な発達史-	<u>細井 淳</u> 、谷井 優理恵、岡田 誠、 <u>羽田 裕貴</u>	GSJ 地質ニュース, 12(9), 251-254	2023.09.
Identifying plutons associated with long-lived volcanism by thermal modeling of contact metamorphic aureoles	<u>山岡 健</u> 、ウォリス サイモン、三宅 明、Catherine Annen	GEOLOGY, 51, 1173-1177	2023.10.
Clockwise rotation of SW Japan and timing of Izanagi-Pacific ridge subduction revealed by arc migration	<u>山岡 健</u> 、ウォリス サイモン	Progress in Earth and Planetary Science, 10(62)	2023.10.
茨城県北部、久慈川流域の段丘堆積物から発見された大山倉吉テフラ	<u>細井 淳</u> 、古澤 明	地質調査研究報告, 74(4), 167-178	2023.11.

茨城県大子町に露出する中新統内大野層の石灰質ナノ化石年代	<u>宇都宮 正志</u> 、 <u>細井 淳</u>	地質調査研究報告, 74(4), 179-185	2023.11.
理科年表 2024 地学部「日本列島における各種岩石の分布面積」	<u>山岡 健</u>	理科年表 2024	2023.11.
福岡県小呂島及び烏帽子島における新第三紀玄武岩類の全岩化学組成と K-Ar 年代	<u>佐藤 大介</u>	地質学雑誌, 129(1), 579-586	2023.11.
Small half-graben inferred from a Miocene syn-rift succession in the Kinbusan area, eastern Tottori Prefecture, Japan	<u>羽地 俊樹</u>	ISLAND ARC	2023.12.
「深紫外」で表面炭素探る	<u>中村 佳博</u>	日刊工業新聞	2024.02.
火砕岩脈	<u>佐藤 大介</u>	最新 地学事典, 263-263	2024.03.
火山深成複合岩体	<u>佐藤 大介</u> 、村上 允英、今岡 照喜	最新 地学事典, 266-266	2024.03.
最新地学事典,「十和田中撤テフラ」	<u>工藤 崇</u>	最新地学事典	2024.03.
最新地学事典,「駒出川バイオタイトテフラ」	<u>工藤 崇</u>	最新地学事典	2024.03.
最新地学事典,「十和田 a テフラ」	<u>工藤 崇</u>	最新地学事典	2024.03.
最新地学事典,「八甲田火山群」	<u>工藤 崇</u>	最新地学事典	2024.03.
最新地学事典,「十和田火山」	<u>工藤 崇</u>	最新地学事典	2024.03.
鳥取砂丘東部, 福部砂丘の表層地質	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u>	鳥取県立博物館研究報告, 61, 29-39	2024.03.

地質情報研究部門 シームレス地質情報研究グループ

北部北上帯ジュラ紀付加体中に産する前期ペルム紀流紋岩とその帰属	<u>内野 隆之</u>	地質調査研究報告, 74(2), 61-69	2023.05.
北上山地南東部, 大船渡地区の中生代層のジルコン U-Pb 年代	<u>川村 寿郎</u> 、 <u>内野 隆之</u>	地質調査研究報告, 74(2), 87-104	2023.05.
Constraint on the Early-Middle Jurassic boundary of the Nakatsugawa Complex in the North Kitakami Belt by detrital zircon U-Pb dating	逢坂 将志、青木 翔吾、 <u>内野 隆之</u> 、福山 繭子	地質調査研究報告, 74(3), 155-166	2023.05.
富山県中・東部の東別所層, 天狗山層及び音川層の層序対比	<u>長森 英明</u> 、 <u>渡辺 真人</u>	地質調査研究報告, 74(3), 119-131	2023.07.
20 万分の 1 日本シームレス地質図の主要編集者が文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)を受賞	<u>内野 隆之</u>	GSJ 地質ニュース誌, 12(7), 221-222	2023.08.
Can mud deposits indicate inundation extent of paleotsunamis? Insights from sand/mud sediments transport simulation	渡部 真史、後藤 和久、 <u>阿部 朋弥</u>	JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH-EARTH SURFACE	2023.08.
茨城県桜川市山ノ尾ベグマタイト産モナズ石の化学組成と U-Th-Pb 化学的年代	<u>坂野 靖行</u>	岩石鉱物科学, 52(1), 論文 ID230516 1・論文 ID230516 5	2023.08.

九州北部における斜面災害履歴の資料収集	<u>阿部 朋弥</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宮地 良典</u>	地質調査総合センター速報, (84), 129-137	2023.11.
長崎県佐世保北部地域における地理情報システムを用いた流れ盤・受け盤マップ作成手法の開発	<u>巖谷 敏光</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宮地 良典</u>	地質調査総合センター速報, (84), 87-94	2023.11.
Understanding flow characteristics from tsunami deposits at Odaka, Joban Coast, using a deep neural network (DNN) inverse model	ミトラ リマリ、成瀬 元、 <u>阿部 朋弥</u>	NATURAL HAZARDS AND EARTH SYSTEM SCIENCES, 24(2), 429-444	2024.02.
第13章応用地質(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u> 、 <u>小松原 琢</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第12章地質構造(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u> 、 <u>小松原 琢</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第11章第四紀堆積物(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u> 、 <u>小松原 琢</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第10章前期白亜紀花崗岩類(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第9章前期白亜紀岩脈(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第8章前期～中期ジュラ紀付加体(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第7章前期三畳紀付加体(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第6章ペルム紀流紋岩(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第5章石炭紀付加体(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第4章デボン紀及びペルム紀結晶片岩(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第3章オルドビス紀超苦鉄質岩及び深成岩類(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第2章地質概説(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u> 、 <u>小松原 琢</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
第1章地形(5万分の1地質図幅「外山」)	<u>内野 隆之</u> 、 <u>小松原 琢</u>	地域地質研究報告(5万分の1 地質図幅)	2024.03.
テフラ対比に基づく愛知県西三河平野地下に分布する更新統の年代層序	<u>阿部 朋弥</u> 、 <u>水野 清秀</u> 、 <u>納谷 友規</u>	地質調査研究報告, 75(1), 1-19	2024.03.
角閃石(ほか15項目)	<u>坂野 靖行</u>	最新地学事典, 256-257ほか	2024.03.
地質図幅	<u>内野 隆之</u> 、中井 均	最新地学事典, 922	2024.03.
20万分の1日本シームレス地質図	<u>内野 隆之</u>	新版地学事典, 1102	2024.03.
根田茂帯	<u>内野 隆之</u>	新版地学事典, 1121	2024.03.

早池峰構造帯	<u>内野 隆之</u>	新版地学事典, 1182	2024.03.
松ヶ平-母体帯	<u>内野 隆之</u>	新版地学事典, 1436	2024.03.
松ヶ平変成岩類	<u>内野 隆之</u>	新版地学事典, 1436	2024.03.
Cathodoluminescence and Ti contents of wollastonite from Tadano, Fukushima Prefecture, Japan	<u>坂野 靖行</u>	Journal of Mineralogical and Petrological Sciences	2024.03.

地質情報研究部門 情報地質研究グループ

産技連 知的基盤部会 地質地盤情報分科会 令和4年度講演会「斜面災害低減に向けた地質地盤情報の利活用」開催報告	<u>野々垣 進</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>納谷 友規</u> 、 <u>宮地 良典</u>	GSJ 地質ニュース, 12(4), 120-123	2023.04.
5章地下構造モデルと堆積地盤での増幅特性	<u>長 郁夫</u> 、上林 宏敏、大堀 道広	地盤震動研究とその応用, 194-199	2023.04.
用語解説	北中 康文、 <u>斎藤 眞</u> 、 <u>小松原 純子</u>	列島自然めぐり 日本の川 西日本編	2023.04.
用語解説	北中 康文、 <u>斎藤 眞</u> 、 <u>小松原 純子</u>	列島自然めぐり 日本の川 東日本編	2023.04.
Crystallization of Ca-bearing nepheline in a basanite from Kajishiyama of Tsuyama Basin, Southwest Japan.	<u>米岡 佳弥</u> 、浜田 麻希、荒井 章司	MINERALOGICAL MAGAZINE, 1-14	2023.05.
いすみ市大原海岸に露出する上総層群大原層の露頭	<u>小松原 純子</u> 、 <u>宇都宮 正志</u>	GSJ 地質ニュース, 12(5), 表紙	2023.06.
微動アレイ探査の概説:特に浅部地質調査への適用を見据えて	<u>長 郁夫</u>	地質学雑誌, 129(1), 371-378	2023.07.
沖縄本島の前期更新世”知念変動”イベントにもなうメタン由来ドロマイト・コンクリーション	松本 良、武内 里香、中川 洋、佐藤 時幸、井龍 康文、松田 博貴、 <u>小松原 純子</u> 、佐藤 道夫	地質学雑誌, 129(1), 415-434	2023.08.
百年かけて可視化された東京の地下	<u>中澤 努</u>	東京人, 38(9), 100-103	2023.09.
山口県美祢市の神社石造物にみる地域に根付いた石灰石文化	藤川 将之、 <u>中澤 努</u> 、上野 勝美	GSJ 地質ニュース, 12(11), 303-304	2023.11.
阿蘇カルデラから東部の火砕流堆積域における浅部微動アレイ探査: 予備調査	<u>長 郁夫</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、星住 英夫、下司 信夫	地質調査総合センター速報, (84), 121-128	2023.11.
Improving tephrostratigraphy and cryptotephrostratigraphy since 1 Ma of Hole U1437B in the Izu-Bonin arc, NW Pacific: Differentiation of widespread tephros with similar shard chemistries	松浦 旅人、 <u>小松原 純子</u> 、池原 実	QUATERNARY SCIENCE REVIEWS, 319(1), 108305-108305	2023.11.
山口県美祢市産大理石石材「御器伏」「梅花石」:秋吉石灰岩形成最初期の石灰岩	<u>中澤 努</u> 、藤川 将之、上野 勝美	GSJ 地質ニュース, 12(12), 325-326	2023.12.
WebGL-based visualization tool for 3D geological structures in shallow subsurface in urban areas	<u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u>	Proceedings of GIS-IDEAS2023, (11), 208-212	2023.12.

DEM generation and topographic changes of central Hanoi, Vietnam	米澤 剛、 <u>根本 達也</u> 、チュオン スアン ルアン、 <u>野々垣 進</u> 、ド ティ ハン、三田村 宗樹、ラガワン ベンカテッシュ	Proceedings of GIS-IDEAS2023, (11), 268-273	2023.12.
千葉県屏風ヶ浦の 3D 写真測量データにおける犬吠層群テフラ分布	<u>中里 裕臣</u> 、岩本 直哉、上田 脩郎、岡崎 浩子、千木良 雅弘	深田地質研究所年報, (24), 169-182	2023.12.
Ontake-Katamachi tephra: marine-terrestrial correlation of a time marker of marine isotopic stage 5b in NE Japan, the Japan Sea, and the NW Pacific	松浦 旅人、 <u>小松原 純子</u>	JOURNAL OF ASIAN EARTH SCIENCES, 259, 105876-105876	2024.01.
谷底低地の S 波速度構造と地盤震動特性: 武蔵野台地を刻む神田川および古川沿いの低地を例に	中澤 努、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>坂田 健太郎</u>	地質学雑誌, 130(1), 17-33	2024.01.
Microtremor Full-Wavefield Modeling of Effective Phase Velocity and Horizontal-to-Vertical Spectral Ratio at Kyoto Reference Borehole Site: Comparison with Surface-Wavefield Modeling Based on a Velocity Structure with a Cap Layer	上林 宏敏、新井 洋、 <u>長 郁夫</u> 、吉田、大堀、山田 浩二	BULLETIN OF THE SEISMOLOGICAL SOCIETY OF AMERICA, 20(20), 1-19	2024.03.
微動アレイによる浅部構造探査システム	<u>長 郁夫</u>	基礎工, 52(3), 14-17	2024.03.
地質情報研究部門 リモートセンシング研究グループ			
Lunar mantle composition based on spectral and geologic analysis of low-Ca pyroxene- and olivine-rich rocks exposed on the lunar surface	<u>山本 聡</u> 、長岡 央、大竹 真紀子、鹿山 雅裕、唐牛 譲、石原 吉明、春山 純一	JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH-PLANETS, 128(5), e2023JE007817-1-28	2023.05.
リモートセンシングを使った地質解析による月マントル組成の不均質の発見	<u>山本 聡</u>	GSJトピックス	2023.06.
月マントル組成の不均質の地質学的証拠を世界で初めて明らかに	<u>山本 聡</u>	宇宙科学研究所 研究情報ポータル あいさず GATE (jaxa.jp)	2023.06.
Ryugu's anhydrous ingredients and their spectral link to primitive dust from the outer Solar System	Rosario Brunetto, Cateline Lantz, 福田 佳乃、Alice Aleon-Toppani、中村 智樹、Z. Dionnet、D. Baklouti、F. Borondics、Z. Djouadi、Stefano Rubino、天野 香菜、松本 恵、藤岡 悠理、森田 朋代、菊入 瑞葉、加川 瑛一、 <u>松岡 萌</u> 、Ralph Milliken、 <u>坂本 尚義</u> 、野口 高明、岡崎 隆司、 <u>藪田 ひかる</u> 、奈良岡 浩、坂本 佳奈子、橋 省吾、他 15 名	Astrophysical Journal Letters, 951(2)	2023.07.
Heliocentric Distance Dependence of Zodiacal Light Observed by Hayabusa2#	津村 耕司、松浦 周二、佐野 圭、岩田 隆浩、瀧本 幸司、山田 学、諸田 智克、神山 徹、早川 雅彦、横田 康弘、巽 瑛理、 <u>松岡 萌</u> 、坂谷 尚哉、本田 理恵、 <u>亀田 真吾</u> 、鈴木 秀彦、 <u>長 勇一郎</u> 、吉岡 和夫、小川 和律、白井 慶、澤田 弘崇、杉田 精司	EARTH PLANETS AND SPACE, 75(121)	2023.08.
Evidence of global space weathering by solar wind on asteroid 162173 Ryugu	廣井 孝弘、Ralph Milliken、K. M. Robertson、C. D. Schultz、天野 香菜、	ICARUS	2023.08.

	中村 智樹、 <u>坂本 尚義</u> 、野口 高明、岡崎 隆司、奈良岡 浩、 <u>藪田 ひかる</u> 、坂本 佳奈子、矢田 透、西村 征洋、中藤 亜衣子、宮崎 明子、与賀田 佳澄、安部 正真、岡田 達明、 <u>臼井 寛裕</u> 、吉川 真、佐伯 孝尚、田中 智、中澤 暁、横田 康弘、 <u>巽 瑛理</u> 、津田 雄一、 <u>橘 省吾</u> 、照井 冬人、渡邊 誠一郎、佐々木 晶、海田 博司、北里 宏平、 <u>松岡 萌</u>		
Space weathering acts strongly on the uppermost surface of Ryugu	<u>松岡 萌</u> 、加川 瑛一、天野 香菜、中村 智樹、 <u>巽 瑛理</u> 、大澤 崇人、 <u>廣井 孝弘</u> 、Ralph Milliken、Deborah Domingue、Driss Takir、Rosario Brunetto、Antonella Barucci、北里 宏平、杉田 精司、藤岡 悠理、佐々木 理、小林 詩歩、岩田 隆浩、諸田 智克、横田 康弘、神山 徹、他 35 名	Communications Earth & Environment, 4(335)	2023.09.
火の鳥「はやぶさ」未来編その 30～Ryugu「石」分析チームによる科学成果～	中村 智樹、天野 香菜、 <u>松岡 萌</u> 、黒澤 耕介、二宮 和彦、大澤 崇人、木村 勇氣、 <u>玄田 英典</u> 、田中 智、はやぶさ2初期分析「石」チーム	遊・星・人, 32(3), 226-235	2023.09.
光学・マイクロ波衛星データを組み合わせた斜面災害の観測	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>山本 聡</u> 、 <u>土田 聡</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>川 畑 大作</u> 、 <u>斎藤 眞</u> 、 <u>阪口 圭一</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>米岡 佳弥</u>	地質調査総合センター速報, 1(84), 97-102	2023.11.
Crack Orientation of Boulders on Ryugu: Meridional Preference and Exfoliation	佐々木 晶、Patrick Michel、Masatoshi Hirabayashi、 <u>廣井 孝弘</u> 、神山 徹、 <u>松岡 萌</u> 、他 29 名	Journal of Evolving Space Activities, 1(89)	2023.12.
Reassigning CI chondrite parent bodies based on reflectance spectroscopy of samples from carbonaceous asteroid Ryugu and meteorites	天野 香菜、 <u>松岡 萌</u> 、中村 智樹、加川 瑛一、藤岡 悠理、Sandra Potin、 <u>廣井 孝弘</u> 、 <u>巽 瑛理</u> 、Ralph Milliken、Eric Quirico、Pierre Beck、Rosario Brunetto、上相 真之、高橋 嘉夫、河合 敬宏、S. Yamashita、榎戸 祐馬、他 32 名	Science Advances, 9(49)	2023.12.
月のリモートセンシング地質学: 月の地殻・マントル境界からの岩石露頭の地質構造	<u>山本 聡</u> 、大竹 真紀子、唐牛 譲、鹿山 雅裕、長岡 央、石原 吉明、春山 純一	地質ニュース, 12(12), 327-331	2023.12.
小惑星リュウグウが宇宙と実験室で違って見えるのはなぜ? #-「宇宙風化」が水のしるしを隠す-	<u>松岡 萌</u>	GSJ 地質ニュース, 13(1), 4-9	2024.01.
Curation protocol of Phobos sample returned by Martian Moons eXploration	深井 稜汰、 <u>臼井 寛裕</u> 、藤谷 渉、高野 淑識、馬山 謙一、Andrew Beck、Enrica Bonato、Nancy L. Chabot、古川 善博、 <u>玄田 英典</u> 、日比谷 由紀、Fred Jourdan、Thorsten Kleine、小池 みずほ、 <u>松岡 萌</u> 、三浦 弥生、Frederic Moynier、岡崎 隆司、Sara S. Russell、角野 浩史、Michael E. Zolensky、菅原	METEORITICS & PLANETARY SCIENCE	2024.01.

	春菜、橘 省吾、坂本 佳奈子、安部 正真、長 勇一郎		
Grain size effects on the infrared spectrum of mineral mixtures with dark components: new laboratory experiments to interpret low-albedo rocky planetary surfaces	Giovanni Poggiali, L. Fossi, Antonin Wargnier, J. Beccarelli, John Brucato, Antonella Barucci, Pierre Beck、 <u>松岡 萌</u> 、中村 智樹、Merlin Frederic, Sonia Fornasier, M. Pajola, Alain Doressoundiram, Thomas Gautier, G. David	ASTRONOMY & ASTROPHYSICS	2024.02.
Analysis of Long-term Variation in Spectral Smile of Hyperspectral Imager Suite (HISUI) Using Atmospheric Absorption Bands	<u>山本 聡</u> 、 <u>土田 聡</u> 、 <u>浦井 稔</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>岩男 弘毅</u>	IEEE Journal of Selected Topics in Applied Earth Observations and Remote Sensing, 17(1), 5565-5579	2024.02.
Creation and environmental applications of 15-year daily inundation and vegetation maps for Siberia by integrating satellite and meteorological datasets	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>笹川 大河</u> 、伊藤 昭彦、飯島 慈裕、朴 昊澤、永野 博彦、市井 和仁、 <u>檜山 哲哉</u>	Progress in Earth and Planetary Science, 11(9)	2024.02.
大きなリュウグウ粒子の物質分析から判明した小惑星リュウグウの形成進化の歴史	中村 智樹、 <u>松岡 萌</u>	化学と工業(日本化学会), 77(2), 91-93	2024.02.
Detection of long-term slope displacement using time-series DInSAR and geological factor analysis for susceptibility assessment of landslides in northwestern Kyushu Island	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>宮地 良典</u>	GEOMORPHOLOGY, 109095	2024.03.
黒田チカ賞受賞とその後の研究	<u>松岡 萌</u>	青葉理学振興会報告	2024.03.
地質情報研究部門 海洋地質研究グループ			
Millennial-scale paleotemperature change in the Japan Sea during Marine Isotope Stage 3: Impact of meridional oscillation of the subpolar front	佐川 拓也、長谷川 卓、成田 祐亮、横山 真大、久保田 好美、岡崎 裕典、後藤 晶子、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>池原 研</u> 、中川 毅	PALAEOGEOGRAPHY PALAEOCLIMATOLOGY PALAEOECOLOGY, 626(111713)	2023.09.
噴火口図作成のための伊豆大島浅海測量及び水中ドローン調査	石塚 治、及川 輝樹、 <u>井上 卓彦</u> 、 <u>有元 純</u>	地質調査総合センター速報, (84), 39-43	2023.11.
利便性の高い海洋地質情報整備を目指した取得済みデータのデジタル化と統合表示プロトコルの開発	<u>片山 肇</u> 、 <u>井上 卓彦</u> 、 <u>佐藤 侑里</u> 、 <u>荒井 晃作</u> 、 <u>三澤 文慶</u>	地質調査総合センター速報, (84), 139-143	2023.11.
GB21-3 航海においてトカラ列島北部周辺海域で採取された堆積岩の石灰質微化石に基づく堆積年代と地質学的意義	<u>有元 純</u> 、 <u>宇都宮 正志</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 245-257	2023.12.
トカラ列島周辺海域における現生貝形虫相の空間変化	中野 太賀、岩谷 北斗、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>板木 拓也</u>	地質調査研究報告	2023.12.
トカラ列島周辺海域の底質分布とその制御要因	<u>鈴木 克明</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>片山 肇</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>山崎 誠</u> 、 <u>有元 純</u> 、 <u>徳田 悠希</u> 、 <u>千徳 明日香</u> 、 <u>清家 弘治</u>	地質調査研究報告	2023.12.
2021 年度海域地質図航海で行ったトカラ列島周辺海域の反射法音波探査及びドレッジ概要	<u>石野 沙季</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、 <u>井上 卓彦</u>	地質調査研究報告, 74, 211-230	2023.12.

Radiolarian assemblages related to the ocean-ice interaction around the East Antarctic coast	<u>飯塚 睦</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>関 宰</u> 、 <u>真壁 竜介</u> 、 <u>小島 本葉</u> 、 <u>青木 茂</u>	JOURNAL OF MICROPALAEONTOLOGY, 43(1), 37-53	2024.01.
Shallow structure and late Quaternary slip rate of the Osaka Bay Fault, western Japan#	<u>浜橋 真理</u> 、 <u>大塚 宏徳</u> 、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>有元 純</u> 、 <u>松野 哲男</u> 、 <u>島 伸和</u> 、 <u>山本 由弦</u> 、 <u>杉岡 裕子</u> 、 <u>Stephen A. Bowden</u> 、 <u>Satoshi Shimizu</u> 、 <u>Hikaru Iwamaru</u> 、 <u>Mamoru Sano</u> 、 <u>Keita Suzuki</u> 、 <u>金子 克哉</u> 、 <u>中東 和夫</u> 、 <u>巽 好幸</u>	Progress in Earth and Planetary Science	2024.02.
噴火口図作成のための伊豆大島浅海測量及び水中ドローン調査	<u>石塚 治</u> 、 <u>及川 輝樹</u> 、 <u>井上 卓彦</u> 、 <u>有元 純</u>	地質調査総合センター速報, (84), 39-43	2023.11.
利便性の高い海洋地質情報整備を目指した取得済みデータのデジタル化と統合表示プロトコルの開発	<u>片山 肇</u> 、 <u>井上 卓彦</u> 、 <u>佐藤 侑里</u> 、 <u>荒井 晃作</u> 、 <u>三澤 文慶</u>	地質調査総合センター速報, (84), 139-143	2023.11.
GB21-3 航海においてトカラ列島北部周辺海域で採取された堆積岩の石灰質微化石に基づく堆積年代と地質学的意義	<u>有元 純</u> 、 <u>宇都宮 正志</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 245-257	2023.12.
トカラ列島周辺海域における現生貝形虫相の空間変化	<u>中野 太賀</u> 、 <u>岩谷 北斗</u> 、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>板木 拓也</u>	地質調査研究報告	2023.12.
トカラ列島周辺海域の底質分布とその制御要因	<u>鈴木 克明</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>片山 肇</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>山崎 誠</u> 、 <u>有元 純</u> 、 <u>徳田 悠希</u> 、 <u>千徳 明日香</u> 、 <u>清家 弘治</u>	地質調査研究報告	2023.12.
2021 年度海域地質図航海で行ったトカラ列島周辺海域の反射法音波探査及びドレッジ概要	<u>石野 沙季</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、 <u>井上 卓彦</u>	地質調査研究報告, 74, 211-230	2023.12.
Shallow structure and late Quaternary slip rate of the Osaka Bay Fault, western Japan#	<u>浜橋 真理</u> 、 <u>大塚 宏徳</u> 、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>有元 純</u> 、 <u>松野 哲男</u> 、 <u>島 伸和</u> 、 <u>山本 由弦</u> 、 <u>杉岡 裕子</u> 、 <u>Stephen A. Bowden</u> 、 <u>Satoshi Shimizu</u> 、 <u>Hikaru Iwamaru</u> 、 <u>Mamoru Sano</u> 、 <u>Keita Suzuki</u> 、 <u>金子 克哉</u> 、 <u>中東 和夫</u> 、 <u>巽 好幸</u>	Progress in Earth and Planetary Science	2024.02.
Radiolarian assemblages related to the ocean-ice interaction around the East Antarctic coast	<u>飯塚 睦</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>関 宰</u> 、 <u>真壁 竜介</u> 、 <u>小島 本葉</u> 、 <u>青木 茂</u>	JOURNAL OF MICROPALAEONTOLOGY, 43(1), 37-53	2024.01.
Millennial-scale paleotemperature change in the Japan Sea during Marine Isotope Stage 3: Impact of meridional oscillation of the subpolar front	<u>佐川 拓也</u> 、 <u>長谷川 卓</u> 、 <u>成田 祐亮</u> 、 <u>横山 真大</u> 、 <u>久保田 好美</u> 、 <u>岡崎 裕典</u> 、 <u>後藤 晶子</u> 、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>池原 研</u> 、 <u>中川 毅</u>	PALAEOGEOGRAPHY PALAEOCLIMATOLOGY PALAEOECOLOGY, 626(111713)	2023.09.
地質情報研究部門 地球変動史研究グループ			
過去の地磁気の検出によりマンガンジュールの回転を実証	<u>小田 啓邦</u> 、 <u>片野田 航</u> 、 <u>臼井 朗</u> 、 <u>村山 雅史</u> 、 <u>山本 裕二</u>	産総研ホームページ	2023.04.
Sedimentary characteristics and formation of riverine source bordering dunes in a humid region: an example from the lower reaches of Kiso River, central Japan	<u>大畑 耕平</u> 、 <u>堀 和明</u> 、 <u>石井 祐次</u> 、 <u>田村 亨</u>	GEOMORPHOLOGY, 426, 108602	2023.04.

Beppu Bay, Japan, as a candidate Global Boundaries Stratotype Section and Point for the Anthropocene series	加 三千宣、Bruce P. Finney、Zhiyuan Shi、Aya Sakaguchi、槻木 玲美、Takayuki Omori、阿草 哲郎、鈴木 克明、横山 祐典、Hirofumi Hinata、Jun Inoue、Kazumi Matsuoka、Misaki Shimada、Hikaru Takahara、Shin Takahashi、Daisuke Ueno、天野 敦子、堤 純、Masanobu Yamamoto、Keiji Takemura、Keitaro Yamada、池原 研、Tsuyoshi Haraguchi、Stephen Tims、Michaela Froehlich、L. Keith Fifield、Takahiro Aze、Masumi Matsumura、Tutomu Takahashi、Kimikazu Sasa、Yukinori Tani、Peter R. Leavitt、Hideyuki Doi、入野 智久、Kazuyoshi Moriya、Akira Hayashida、齋藤 文紀	Anthropocene Review, 10(1), 49-86	2023.04.
Meiofauna in the southeastern Bering Sea: community composition and structuring environmental factors	Kazuki Tachibana、Motohiro Shimanaga、Dewi Langlet、清家 弘治、Masayuki Miyazaki、Mitsuhiro Yoshida、Takuro Nunoura、Hidetaka Nomaki	Frontiers in Marine Science, 10, 996380	2023.04.
Interspecies differences in food sources for the tropical callichirid shrimp genus Neocallichirus on San Salvador Island, Bahamas	清家 弘治、H Allen Curran	MARINE ECOLOGY PROGRESS SERIES, 709, 33-44	2023.04.
Multiple episodes of ice loss from the Wilkes Subglacial Basin during the Last Interglacial	飯塚 睦、関 幸、Tina van de Flierdt、菅沼 悠介、堀川 恵司、池原 実、板木 拓也、入野 智久、David J. Wilson、山本 正伸、松崎 浩之、杉崎 彩子	Nature Communications, 14, 2129	2023.04.
Downslope variation in hemiplegic sedimentation in an active margin basin: An example from the lower Pleistocene Kiwada and Takamizo formations on the Boso Peninsula, Japan	Shiho Kurosawa、風呂田 郷史、Mayu Mitsui、沢田 健、清家 弘治、Noboru Furukawa、伊藤 慎	SEDIMENTOLOGY, 70(3), 705-727	2023.04.
Testing the potential of Serpulidae tubes as an indicator of past relative sealevel#collected from shored wave dissipating blocks along the Pacific and#Japan sea coast of northeastern Japan	レゲット 佳、横山 祐典、宮入 陽介、太田 耕輔、福與 直人、白濱 吉起	NUCLEAR INSTRUMENTS & METHODS IN PHYSICS RESEARCH SECTION B-BEAM INTERACTIONS WITH MATERIALS AND ATOMS	2023.05.
Hadean to Paleoproterozoic stagnant lid tectonics recorded by the paleomagnetism of single zircons of South Africa and Australia	TARDUNO A. JOHN、Cottrell Danielle Rory、Richard Bono、Nicole Rayner、William J. Davis、Tinghong Zhou、Francis Nimmo、Axel Hofmann、Jaganmoy Jodder、Mauricio Ibanez-Mejia、Michael K. Watkeys、小田 啓邦、Gautam Mitra	NATURE, 618, 531-536	2023.06.

Late Quaternary evolution of Daihai Lake in northern China and implications to the variation of the East Asian Summer Monsoon	Yandong Hou, Hao Long, Sumiko Tsukamoto, Jingran Zhang, <u>田村 亨</u> , Manfred Frechen	QUATERNARY SCIENCE REVIEWS, 309, 108097	2023.06.
島根県隠岐の島で採集されたコーヒーマメウニの記録	幸塚 久典, <u>清家 弘治</u>	南紀生物, 65(1), 46-49	2023.06.
Molecular and Morphological Assessment of Juvenile and Adult Forms in the Giant Worm Eunice cf. aphroditois (Annelida: Eunicidae) and Its Phylogenetic Position in the Family	Chiharu Shinomiya, Genki Kobayashi, <u>清家 弘治</u> , <u>山下 桃</u> , Luna Yamamori, Takahiro Sugiyama, Mariko Kawamura, Kanto Nishikawa, Ryutaro Goto	ZOOLOGICAL SCIENCE, 40, 314-325	2023.07.
Marine inundation history during the last 3000 years at a coastal lake on the Pacific coast of central Japan	嶋田 侑真, 澤井 祐紀, 松本 弾, 谷川 晃一朗, 伊藤 一充, <u>田村 亨</u> , 行谷 佑一, 穴倉 正展, 藤野 滋弘	Progress in Earth and Planetary Science, 10:49	2023.08.
On-Shelf Circulation of Warm Water Toward the Totten 1 Ice Shelf, East Antarctica	平野 大輔, 田村 剛, 草原 和也, 藤井 昌和, 山崎 開平, 中山 佳洋, 小野 和也, <u>板木 拓也</u> , ほか11名	Nature Communications, 14, 4955	2023.08.
尾上 亨さんと地質標本館「化石クリーニング体験学習」イベント	利光 誠一, <u>兼子 尚知</u> , <u>辻野 匠</u> , <u>中島 礼</u>	GSJ 地質ニュース, 12(9), 272-275	2023.09.
活動的縁辺域における持続可能な洋上風力発電開発に向けて -海底地質リスク評価の重要性-	<u>佐藤 智之</u>	活動的縁辺域における持続可能な洋上風力発電開発に向けて -海底地質リスク評価の重要性-	2023.09.
過去の地磁気の検出によりマンガンジュールの回転を実証 -球状海底資源が深海底を転がり埋没 せずに形成した過程を解明-	<u>小田 啓邦</u> , 片野田 航, <u>白井 朗</u> , 村山 雅史, <u>山本 裕二</u>	GSJ 地質ニュース, 12(10), 279-283	2023.10.
周防灘における高分解能反射法音波探査	大上 隆史, <u>佐藤 智之</u> , 丸山 正, 宮下 由香里	地質調査総合センター速報, (84), 19-32	2023.11.
Diving neoichnology: underwater fieldworks focusing on organism and seafloor ecosystem interactions	<u>清家 弘治</u>	ICHNOS-AN INTERNATIONAL JOURNAL FOR PLANT AND ANIMAL TRACES, 30(2), 69-78	2023.11.
Characterisation and imaging primary magnetic minerals from deep-seated ultramafic rocks: implication for crustal magnetic sources	G. ter Maat, Nathan Church, <u>小田 啓邦</u> , Zeudia Pastore, Suzanne McEnroe	GEOPHYSICAL JOURNAL INTERNATIONAL, 236(3), 1577-1595	2023.12.
Holocene estuary infill leads to coastal barrier initiation from fluvial sand supply in southeastern Australia	Thomas Oliver, Christopher J. Owers, <u>田村 亨</u> , Derek van Bracht	HOLOCENE	2023.12.
地質標本館企画展「生痕化石-大地に刻まれた生命の痕跡」開催報告	<u>清家 弘治</u> , 森田 澄人, 瀬戸口 希, 都井 美徳	GSJ 地質ニュース, 13(1), 99-102	2024.01.
Sahara's surface transformation forced an abrupt hydroclimate decline and Neolithic culture transition in northern China	Yandong Hou, Hao Long, 塚本 すみ子, Zhengyao Lu, Jie Chen, Daniel E. Ibara, <u>田村 亨</u> , Qiong Zhang, Weiyi	The Innovation, 5(1), 100550	2024.01.

Sun, Jingran Zhang, Gao Lei,
Manfred Frechen, Ji Shen

微粒子試料の自動鑑定精度向上とハイスルー プット化に向けた取り組み: 微化石と火山灰を例 として#	<u>板木 拓也</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、松本 恵子、下司 信夫	石油技術協会誌, 89(1), 43-47	2024.01.
地質情報展 2023 きょうと 体験・実験コーナー 「鳴り砂」	<u>兼子 尚知</u>	GSJ 地質ニュース, 13(2, 3), 48-49	2024.03.
Quaternary clifftop and last glacial maximum dunes around the Great Australian Bight	Andrew D Short、 <u>田村 亨</u> 、Thomas Oliver, Sharie Detmar, Doug Fotheringham	Quaternary Science Reviews	2024.03.

地質情報研究部門 資源テクトニクス研究グループ

Morphology, petrology and geochemistry of submarine volcanoes around Kumejima Island: Implications for arc-related volcanism in the southern Central Ryukyu Arc	<u>針金 由美子</u> 、石塚 治、 <u>下田 玄</u> 、 Conway Edward Christopher、 <u>佐藤 太 二</u>	MARINE GEOLOGY, 458	2023.04.
Morphology, petrology and geochemistry of submarine volcanoes around Kumejima Island: Implications for arc-related volcanism in the southern Central Ryukyu Arc	<u>針金 由美子</u> 、石塚 治、 <u>下田 玄</u> 、 Conway Edward Christopher、 <u>佐藤 太 二</u>	MARINE GEOLOGY, 458	2023.04.
海底地形にゴジラの名前!? —フィリピン海プ レート上の巨大メガマリオンの掘削の 実現に向 けて前進—	道林 克禎、小原 泰彦、 <u>針金 由美子</u> 、小 野 重明	GSJ 地質ニュース, 12(8), 223- 225	2023.08.
海底地形にゴジラの名前!? —フィリピン海プ レート上の巨大メガマリオンの掘削の 実現に向 けて前進—	道林 克禎、小原 泰彦、 <u>針金 由美子</u> 、小 野 重明	GSJ 地質ニュース, 12(8), 223- 225	2023.08.
Incoming plate structure at the Japan Trench subduction zone revealed in densely spaced reflection seismic profiles	Yasuyuki Nakamura, Shuichi Kodaira, Gou Fujie、 <u>山下 幹也</u> 、 Koichiro Obana, Seiichi Miura	Progress in Earth and Planetary Science	2023.08.
Incoming plate structure at the Japan Trench subduction zone revealed in densely spaced reflection seismic profiles	Yasuyuki Nakamura, Shuichi Kodaira, Gou Fujie、 <u>山下 幹也</u> 、 Koichiro Obana, Seiichi Miura	Progress in Earth and Planetary Science	2023.08.
A Large Mud Volcano Field in the Hyuga- nada, Northern end of the Ryukyu Trench	浅田 美穂、 <u>山下 幹也</u> 、福地 里菜、横田 俊之、土岐 知弘、井尻 暁、川村 喜一郎	Frontiers in Earth Science	2023.11.
相模トラフ前縁断層先端部の構造的特徴	<u>山下 幹也</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、笠谷 貴史、木下 正高	地震	2023.11.
A Large Mud Volcano Field in the Hyuga- nada, Northern end of the Ryukyu Trench	浅田 美穂、 <u>山下 幹也</u> 、福地 里菜、横田 俊之、土岐 知弘、井尻 暁、川村 喜一郎	Frontiers in Earth Science	2023.11.
相模トラフ前縁断層先端部の構造的特徴	<u>山下 幹也</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、笠谷 貴史、木下 正高	地震	2023.11.
GB21-2, 3 トカラ列島周辺海域におけるマルチ ビーム測深器による観測の概要#	<u>高下 裕章</u> 、 <u>佐藤 太一</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 193-202	2023.12.
GB2-2, GB21-3 及び GS21 航海(トカラ列島 周辺海域)における磁気異常観測の概要	<u>佐藤 太一</u> 、 <u>高下 裕章</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 203-209	2023.12.

GS21 航海での高分解能サブボトムプロファイラ 一探索に基づくトカラ列島周辺海域の海底下 浅部構造	<u>三澤 文慶</u> 、 <u>古山 精史朗</u> 、 <u>高下 裕章</u> 、 <u>鈴木 克明</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 213-243	2023.12.
GB21-2, 3 トカラ列島周辺海域におけるマルチ ビーム測深器による観測の概要#	<u>高下 裕章</u> 、 <u>佐藤 太一</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 193-202	2023.12.
GB2-2, GB21-3 及び GS21 航海(トカラ列島 周辺海域)における磁気異常観測の概要	<u>佐藤 太一</u> 、 <u>高下 裕章</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 203-209	2023.12.
GS21 航海での高分解能サブボトムプロファイラ 一探索に基づくトカラ列島周辺海域の海底下 浅部構造	<u>三澤 文慶</u> 、 <u>古山 精史朗</u> 、 <u>高下 裕章</u> 、 <u>鈴木 克明</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 213-243	2023.12.
Brief and intensive volcanic emissions from Ontong Java Nui heralded Oceanic Anoxic Event 1a	松本 廣直、 <u>後藤 孝介</u> 、 <u>下田 玄</u> 、Yasuto Watanabe, Kotaro Shirai, Maria Luisa Tejada, 石川 晃、Atsushi Ando、 Takashi Sano, Junichiro Kuroda、 <u>鈴木 勝彦</u>	Communications Earth & Environment	2024.03.
Petrography and stratigraphic Os isotopic ages of ferromanganese nodules from the Northwest Pacific east of Minamitorishima Island	野崎 達生、 <u>後藤 孝介</u> 、高谷 雄太郎、 Kazuhiko Shimada、 <u>下田 玄</u> 、木村 純 一、常 青、Akira Owada, Tetsuji Onoue, Shiki Machida, Teruaki Ishi、 Shimizu Kenji, Naoto Hirano、 Kazuhide Mimura, Moei Yano、 Junichiro Ohta、加藤 泰浩	JOURNAL OF ASIAN EARTH SCIENCES-X, 11, 100176	2024.03.
Automation of MBES Noise Reduction: An Approach Based on Seafloor Bathymetry Features Derived from Manual Editing Procedures	周 錦焯、 <u>高下 裕章</u> 、卷 俊宏	Ocean Engineering	2024.03.
Brief and intensive volcanic emissions from Ontong Java Nui heralded Oceanic Anoxic Event 1a	松本 廣直、 <u>後藤 孝介</u> 、 <u>下田 玄</u> 、Yasuto Watanabe, Kotaro Shirai, Maria Luisa Tejada, 石川 晃、Atsushi Ando、 Takashi Sano, Junichiro Kuroda、 <u>鈴木 勝彦</u>	Communications Earth & Environment	2024.03.
Petrography and stratigraphic Os isotopic ages of ferromanganese nodules from the Northwest Pacific east of Minamitorishima Island	野崎 達生、 <u>後藤 孝介</u> 、高谷 雄太郎、 Kazuhiko Shimada、 <u>下田 玄</u> 、木村 純 一、常 青、Akira Owada, Tetsuji Onoue, Shiki Machida, Teruaki Ishi、 Shimizu Kenji, Naoto Hirano、 Kazuhide Mimura, Moei Yano、 Junichiro Ohta、加藤 泰浩	JOURNAL OF ASIAN EARTH SCIENCES-X, 11, 100176	2024.03.
Automation of MBES Noise Reduction: An Approach Based on Seafloor Bathymetry Features Derived from Manual Editing Procedures	周 錦焯、 <u>高下 裕章</u> 、卷 俊宏	Ocean Engineering	2024.03.
地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ			
Genetic population structure of the precious coral <i>Corallium japonicum</i> in the Northwest Pacific	喜瀬 浩輝、井口 亮、 <u>齋藤 直輝</u> 、善岡 祐 輝、宇田 幸司、鈴木 知彦、永野 惇、 <u>鈴木 淳</u> 、岩崎 望	Frontiers in Marine Science	2023.04.

Microbial mat compositions and localization patterns explain the virulence of black band disease in corals	和田 直久、井口 亮、Yuta Urabe、善岡 祐輝、Natsumi Abe、Kazuki Takase、Shuji Hayashi、Sakiko Kawanabe、Yui Sato、Sen-Lin Tang、Nobuhiro Mano	npj Biofilms and Microbiomes, 9, 15	2023.04.
Factors controlling coral P/Ca nutrient proxy: Insights from Porites culture experiments and synchrotron-based X-ray spectroscopy	Wenshuai Li、Xiao-Ming Liu、Yongfeng Hu、鈴木 淳、Toshihiro Yoshimura	PALAEOGEOGRAPHY PALAEOCLIMATOLOGY PALAEOECOLOGY, 615(11149), 1-9	2023.04.
Novel quantitative method for individual isotopomer of organic acids from ¹³ C tracer experiment determines carbon flow in acetogenesis	須田 好、坂本 幸子、井口 亮、玉木 秀幸	TALANTA, 257, 124328	2023.05.
Constant shell density of hyaline large benthic foraminifers under thermal stress	木下 峻一、黒柳 あずみ、川幡 穂高、藤田 和彦、石村 豊穂、鈴木 淳、Harumasa Kano、久保田 好美、西 弘嗣	MARINE MICROPALAEONTOLOGY, 102232(181), 1-7	2023.05.
Succession of Ocean Acidification and its Effects on Reef-Building Corals	鈴木 淳、井口 亮、野尻 幸宏、林 正裕、酒井 一彦	Coral Reefs of the World, 17, 97-112	2023.06.
Growth rate estimation by ²¹⁰ Pb chronology in precious corals collected off the southern coast of Japan#	山田 正俊、鈴木 淳、岩崎 望	Frontiers in Marine Science, 10(1091594), 1-23	2023.06.
Impacts of the first deep-sea seafloor massive sulfide mining excavation tests on benthic communities	Washburn Travis、井口 亮、山岡 香子、長尾 正之、大西 庸介、福原 達雄、山本 祐也、鈴木 淳	MARINE ECOLOGY PROGRESS SERIES, 712, 1-19	2023.06.
Separate and combined effects of elevated pCO ₂ and temperature on the branching reef corals <i>Acropora digitifera</i> and <i>Montipora digitata</i>	Cristiana Manullang、Tanya Singh、酒井 一彦、宮城 愛夏、Aiko Iwasaki、野尻 幸宏、井口 亮	MARINE ENVIRONMENTAL RESEARCH	2023.06.
Preliminary experiment of acute effects of hydrogen sulfide on deep-sea Amphipoda (<i>Lysianassoidea</i> ; <i>Pseudorchomene</i> sp. and <i>Anonyx</i> sp.) collected from deep sea floor in the Sea of Japan	石田 洋、向井 稜、池内 絵里、喜瀬 浩輝、西島 美由紀、井口 亮、鈴木 淳、鈴木 昌弘	MARINE POLLUTION BULLETIN, 192, 115102	2023.06.
Bioinformatics and data science for mass spectrometric data analysis	財津 桂、江口 盛一郎、井口 亮	Medical Mass Spectrometry	2023.06.
Seamount mining test provides evidence of ecological impacts beyond deposition	Washburn Travis、Erik Simon-Lledo、SOONG GIUNYEE、鈴木 淳	CURRENT BIOLOGY, 33(14), 3065-3071	2023.07.
Using Deep Learning to Assess Temporal Changes of Suspended Particles in the Deep Sea	齋藤 直輝、Travis Washburn、矢野 真一郎、鈴木 淳	Frontiers in Marine Science, 10	2023.07.
Changes in DNA methylation in response to heat stress and symbiotic conditions in coral primary polyps	石田 純、井口 亮、酒井 一彦	MARINE ECOLOGY PROGRESS SERIES, 714, 113-117	2023.07.
掘削に伴う懸濁粒子量の AI 技術を用いた定量と環境影響評価への応用	齋藤 直輝、湊谷 純平、井口 亮、長尾 正之、Travis Washburn、鈴木 淳	資源・素材講演集	2023.09.

Lithium isotope systematics of methane-seep carbonates as an archive of fluid origins and flow rates	宮嶋 佑典、荒岡 大輔、吉村 寿紘、太田 雄貴、 <u>鈴木 淳</u> 、吉岡 秀佳、鈴木 昌弘、Daniel Smrzka、Jorn Peckmann、Gerhard Bohrmann	GEOCHIMICA ET COSMOCHIMICA ACTA, 361, 152-170	2023.11.
AI 技術を用いた深海における環境影響評価手法を考案 -物体検出モデルにより画像から懸濁粒子数を自動計測-	<u>齋藤 直輝</u> 、Travis Washburn、 <u>鈴木 淳</u>	GSJ 地質ニュース, 12(11), 305-309	2023.11.
Natural and anthropogenic climate variability signals in a 237-year-long coral record from the Philippines	井上 麻夕里、福嶋 彩香、智原 睦美、 <u>源田 亜衣</u> 、池原 実、 <u>岡井 貴司</u> 、川幡 穂高、F. P., Siringan、 <u>鈴木 淳</u>	Paleoceanography and Paleoclimatology, 38, e2022PA004540	2023.11.
上越海盆の冷湧水域における長期モニタリング機器の設置	後藤 秀作、青木 伸輔、 <u>齋藤 直輝</u> 、 <u>長尾 正之</u>	GREEN Report 2023, 63-63	2023.12.
あなたの体はどこから？	<u>山岡 香子</u>	毎日小学生新聞	2023.12.
Description of the fifth sea pen species that attaches to hard substrates by modifying its peduncle	<u>櫛田 優花</u> 、喜瀬 浩輝、 <u>井口 亮</u> 、藤原 義弘、土田 真二	DEEP-SEA RESEARCH PART I-OCEANOGRAPHIC RESEARCH PAPERS, 203	2024.01.
Short-term variation of pH in seawaters around coastal areas of Japan: Characteristics and forcings	小埜 恒夫、村岡 大祐、林 正裕、 <u>依藤 実樹子</u> 、太齋 彰浩、大本 茂之、田中 丈裕、岡村 知海、鬼塚 剛、須藤 健二、藤井 賢彦、濱野上 龍二、脇田 昌英	Biogeosciences, 21, 177-199	2024.01.
Environmental DNA metabarcoding of foraminifera for biological monitoring of seawater and sediments on a northwestern Pacific seamount	<u>前田 歩</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、太田 雄貴、鈴木 昌弘、 <u>鈴木 淳</u>	Frontiers in Marine Science	2024.01.
Interactive effects of ocean deoxygenation and acidification on a coastal fish <i>Sillago japonica</i> in early life stages	<u>依藤 実樹子</u> 、林 正裕、小埜 恒夫	Marine Pollution Bulletin, 198, 115896	2024.01.
Methane diffusion affects characteristics of benthic communities in and around microbial mat-covered sediments in the northeastern Japan sea	太田 雄貴、 <u>井口 亮</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、向井 稜、鈴木 昌弘、吉岡 秀佳、 <u>鈴木 淳</u> 、塚崎 あゆみ、青柳 智、堀 知行	Chemosphere, 349(140964)	2024.02.
Assessment of chemical compositions in coral skeletons (<i>Acropora digitifera</i> and <i>Porites australiensis</i>) as temperature proxies	Shoko Sakata, Mayuri Inoue, Yasuaki Tanaka, Takashi Nakamura, Kazuhiko Sakai, Minoru Ikehara、 <u>鈴木 淳</u>	Frontiers in Marine Science, 11(1329924), 1-25	2024.02.
A discovery of the northernmost population of the giant mangrove whelk <i>Terebralia palustris</i> (Mollusca: Gastropoda: Potamididae) on Zamami Island and its genetic variability	<u>濱本 耕平</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>儀武 滉大</u> 、小澤 宏之、藤田 喜久	Plankton & Benthos Research, 19, 60-65	2024.02.
Metagenomic analysis of the microbial communities and associated network of nitrogen metabolism genes in the Ryukyu limestone aquifer	丸山 莉緒、安元 剛、水澤 奈々美、 <u>飯島 真理子</u> 、廣瀬(安元)美奈、 <u>井口 亮</u> 、Oktanius Richard Hermawan、細野 高啓、高田 遼吾、宋 科翰、新城 竜一、渡部 終五、安元 純	Scientific Reports, 14, 4356	2024.02.

Development of a rapid-fire drug screening method by probe electrospray ionization tandem mass spectrometry for human urine (RaDPi-U)	Kazuaki Hisatsune, Tasuku Murata, Masaru Taniguchi, Tomomi Asano, Koretsugu Ogata, <u>井口 亮</u> , <u>財津 桂</u>	ANALYTICAL AND BIOANALYTICAL CHEMISTRY, 416, 2503-2513	2024.03.
Seasonal variation of grazing scars on massive Porites corals in Sekisei Lagoon, Okinawa, Japan	<u>池内 絵里</u> , <u>井口 亮</u> , 中村 崇, 深見 裕伸	Galaxea, Journal of Coral Reef Studies, 26, 3-8	2024.03.
Variation in functional composition of reef fishes along a tropical-to-temperate gradient	Charlotte G Clay, James Davis Reimer, Brigitte Sommer, Katie M. Cook, <u>水山 克</u> , 小淵 正美, 河村 伊織, 喜瀬 浩輝, Maria Beger	JOURNAL OF BIOGEOGRAPHY, 51(3), 454-466	2024.03.
Utilizing environmental DNA and imaging to study the deep-sea fish community of Takuyo-Daigo Seamount	<u>井口 亮</u> , <u>西島 美由紀</u> , 吉原 絵里, 横岡 博之, 杉島 英樹, 池田 和正, 三輪 竜一, 関戸 嘉郎, 岩崎 望, 鈴木 昌弘, 塚崎 あゆみ, 田中 裕一郎, 加藤 正悟, 湊谷 純平, 岡本 信行, 國島 大河, 伊勢 優史, <u>鈴木 淳</u>	npj Biodiversity	2024.03.
Whole transcriptome analysis of demersal fish eggs reveals complex responses to ocean deoxygenation and acidification	<u>井口 亮</u> , 林 正裕, <u>依藤 実樹子</u> , <u>西島 美由紀</u> , <u>儀武 滉大</u> , 國島 大河, <u>ベル 智子</u> , <u>鈴木 淳</u> , 小埜 恒夫	Science of The Total Environment, 917(169484)	2024.03.
Single-polyp metabolomics for coral health assessment	<u>井口 亮</u> , <u>飯島 真理子</u> , 水澤 奈々美, 大野 良和, 安元 剛, <u>鈴木 淳</u> , 菅 駿一, 田中 健, <u>財津 桂</u>	Scientific Reports, 14, 3369	2024.03.
海底熱水系の固体・流体相互作用に関する同位体的研究	<u>山岡 香子</u>	地球化学, 58, 1-10	2024.03.

地質情報研究部門 地球化学研究グループ

「地質情報展 2022 とうきょう—都心の地下を探る—」開催報告	金子 翔平, <u>遠山 知亜紀</u> , 宍倉 正展, 宮下 由香里, 利光 誠一	GSJ 地質ニュース, 12(4), 114-119	2023.04.
Multi-element analysis of geological high-matrix samples using ICP-MS equipped with integrated sample introduction and aerosol dilution systems	<u>中村 淳路</u> , <u>久保田 蘭</u> , <u>太田 充恒</u>	地質調査研究報告, 74(2), 71-85	2023.05.
トカラ列島周辺海域(GB21-2 および 21-3 航海)で採取された海底堆積物の化学組成	<u>久保田 蘭</u> , <u>太田 充恒</u> , <u>立花 好子</u> , <u>板木 拓也</u> , <u>片山 肇</u> , <u>鈴木 克明</u> , <u>間中 光雄</u>	地質調査研究報告, 74(5/6), 287-300	2023.12.
The Conrad Rise Revisited: Eocene volcanism, and its implications for magma source and tectonic development	佐藤 暢, 町田 嗣樹, Christine MEYZEN, 石塚 治, 仙田 量子, Michael BIZIMIS, 芦田 果奈, <u>三國 和音</u> , <u>佐藤 太一</u> , 藤井 昌和, 野木 義史, 加藤 泰浩	JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH-SOLID EARTH, 129, e2023JB027380.	2023.12.
Contribution of carbonatite and recycled oceanic crust to petit-spot lavas on the western Pacific Plate	<u>三國 和音</u> , 平野 直人, 町田 嗣樹, 角野 浩史, 秋澤 紀克, 田村 明弘, 森下 知晃, 加藤 泰浩	Solid Earth, 15(2), 167-196	2024.02.

地質情報研究部門 地球物理研究グループ

Long-living Earthquake Swarm and Intermittent Seismicity in the	雨澤 勇太, 平松 良浩, <u>宮川 歩夢</u> , 今西 和俊, 大坪 誠	GEOPHYSICAL RESEARCH LETTERS, 50(8), e2022GL102670	2023.04.
---	--	--	----------

Northeastern Tip of the Noto Peninsula,
Japan

Strain and stress accumulation in viscoelastic splay fault and subducting oceanic crust	村本 智也、伊藤 喜宏、 <u>宮川 歩夢</u> 、古市 紀之	GEOPHYSICAL RESEARCH LETTERS	2023.05.
Seismological studies on deep Earth structure using seismic arrays in East-, South-, Southeast-Asia and Oceania	Satoru Tanaka、 <u>大滝 壽樹</u>	AGU Geophysical Monograph Series Core mantle co-evolution: An Interdisciplinary Approach, 31-58	2023.06.
Submap: a tool for mapping subduction zones のご紹介	<u>宮川 歩夢</u>	日本地質学会 News, 26(7), 32-33	2023.07.
Estimating pore fluid pressure from geometrical characteristics of extensional mineral veins	大坪 誠、氏家 恒太郎、 <u>宮川 歩夢</u>	The 17th Congress of Water-Rock Interaction, OC6-05	2023.08.
世界の沈み込み帯データベース「Submap」のご紹介 — a tool for mapping subduction zones —	<u>宮川 歩夢</u>	公益社団法人日本地震学会ニュースレター, 76(3), 19-20	2023.09.
Variations in water saturation states and their impact on eruption size and frequency at the Aso supervolcano, Japan	Franziska Ute Keller, Razvan G Popa, J Allaz, T Bovay, A-S Bouvier, 下司 信夫、 <u>宮川 歩夢</u> 、Olivier Bachmann	EARTH AND PLANETARY SCIENCE LETTERS, 622, 118400	2023.10.
地震観測データを用いた公園内のランニング人数の推定	二宮 啓、 <u>宮川 歩夢</u> 、一木 正聡、岡本 有貴、桑原 正史、池田 達紀、辻 健	電気学会論文誌 E センサ・マイクロマシン部門誌, 143(10), 331-336	2023.10.
兵庫県南あわじ市における浅部反射法地震探査の実施	<u>木下 佐和子</u> 、 <u>伊藤 忍</u>	物理探査学会学術講演会講演論文集, 149, 138-141	2023.10.
大量地質データのためのデータ表示及びウェブアプリの作成	<u>宮川 歩夢</u> 、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>高下 裕章</u> 、 <u>西岡 芳晴</u>	地質調査総合センター速報, (84), 163-164	2023.11.
斜面災害リスク評価を目的とした空中磁気探査による熱水変質地域の調査	<u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>米倉 光</u> 、 <u>阪口 圭二</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宮地 良典</u>	地質調査総合センター速報, 84, 113-120	2023.11.
兵庫県南あわじ市における浅部地下構造調査の概要	<u>木下 佐和子</u> 、 <u>伊藤 忍</u>	地質調査総合センター速報, 85, 21-39	2023.12.
Thrusts control the thermal maturity of accreted sediments	Utsav Mannu, David Fernandez-Blanco、 <u>宮川 歩夢</u> 、Taras V. Gerya、木下 正高	Solid Earth, 15, 1-21	2024.01.
Viscoelasticity modeling of clay minerals by dynamic viscoelasticity measurement and its implications for earthquake faulting	村本 智也、伊藤 喜宏、 <u>宮川 歩夢</u> 、古市 紀之	TECTONOPHYSICS, 872	2024.02.
屈斜路カルデラ地域における相対重力測定	<u>丸藤 大樹</u> 、 <u>名和 一成</u> 、高橋 浩晃	北海道大学地球物理学研究報告, 87, 1-10	2024.03.
南海トラフ地震臨時情報の認知度と防災対応に関する意識調査	<u>大谷 竜</u> 、林 能成	社会安全学研究, 14, 63-75	2024.03.

5.4 口頭発表

発表題目	発表者	学会名	発表年月日
地質情報研究部門			
Analog modeling of accretionary wedges with various decollement settings: Quantitative analysis of deformation process and strength evolution	<u>野田 篤</u> 、Fabien Gravelleau, Cesar Witt, Frank Chanier, Bruno Vendeville	EGU General Assembly 2023	2023.04.26
Practical interlaboratory guidelines in XRF-scanning of long sediment records: An example from IODP Expedition 386	Jun-Ting Lin, Jyh-Jaan Steven Huang, Yu-Hsun Shao, Yen-Hsi Wu, <u>天野 敦子</u> 、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser, Jeremy Everest、前田 玲奈、IODP Expedition 386 Science Party	2023 Ocean Sciences Conference	2023.05.03
Multiproxy-derived temperature evolution offshore southern Japan over the past 30 kyrs: Implications for Kuroshio Current variability	Zhe Ying Ang、佐川 拓也、 <u>池原 研</u> 、池原 実、Jens Hefter、Sze Ling Ho	2023 Ocean Sciences Conference	2023.05.03
第四紀における恵那山-猿投山北断層帯の断層運動方向	重松 紀生、吾妻 崇、安江 健一、立石 良、廣内 大助、 <u>中島 礼</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.22
恵那山-猿投山北断層帯の断層活動履歴に関する検討	吾妻 崇、重松 紀生、安江 健一、立石 良、廣内 大助、 <u>中島 礼</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.22
タービダイトの挟在状況からみた日本海溝斜域堆積物の地震動への応答の地理的变化	<u>池原 研</u> 、宇佐見 和子、金松 敏也	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.22
Regional sediment transport of southwestern Ryukyu Trench: Morphological and lithological characteristics	Hsiung Kan-Hsi、金松 敏也、 <u>池原 研</u> 、村山 雅史、 <u>山本 裕二</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
日本海溝の厚層タービダイトによる古地震記録: 地磁気永年変化と帯磁率異方性による高精度堆積年代と堆積機構	金松 敏也、 <u>池原 研</u> 、Hsiung Kan-Hsi	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
同時多発型海底地すべりによる 2009 年駿河湾地震津波の再現シミュレーション	柳澤 英明、阿部 郁夫、馬場 俊孝、 <u>池原 研</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
日本海北部 IODP U1422 堆積物に記録された 40 万年前以降の東アジア冬モンスーン強化	西條 竜碧、 <u>池原 研</u> 、芦 松、入野 智久、丸山 亜伊莉、沢田 健	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
Holocene-Upper Pleistocene event deposit stratigraphy along the Japan Trench: Initial results from IODP Expedition 386 Japan Trench Paleoseismology	<u>池原 研</u> 、Michael Strasser、 <u>板木 拓也</u> 、里口 保文、長橋 良隆、金松 敏也、石澤 堯史、Jyh-Jaan Steven Huang、Jez Everest、前田 玲奈、IODP Expedition 386 Science Party	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
構造化地質図とマグマ移流モデルによる領家コンプレックスの熱物質収支評価	<u>宮崎 一博</u> 、池田 剛、 <u>佐藤 大介</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25

Reconstruction of Holocene provenance and delivery mass of change in Beppu Bay in using mineral composition	丸山 亜伊莉、入野 智久、 <u>池原 研</u> 、山本 正伸、加 三千宣、竹村 恵二	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
Hydroacoustic and bathymetric data of the Japan Trench collected during IODP Expedition 386	Myra Keep、喜岡 新、Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Jeremy Everest、前田 玲奈、IODP Expedition 386 Science Party	Australian Earth Science Convention 2023	2023.06.28
Organic matter and methane dynamics in the Japan Trench sediments	Min Luo、Martin Kolling、Natascha Riedinger、Christian Marz、Marta Torres、Rui Bao、Troy Rasbury、Piero Bellanova、Joel Johnson、前田 玲奈、Jeremy Everest、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser、IODP Expedition 386 Science Party	Goldschmidt 2023	2023.07.10
A ~17kyr high-resolution subduction zone event stratigraphy record: initial results from the IODP Japan Trench Paleoseismology Project	Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Jyh-Jaan Steven Huang、 <u>板木 拓也</u> 、金松 敏也、長橋 良隆、里口 保文、Jeremy Everest、前田 玲奈、IODP Expedition 386 Science Party	XXI INQUA Congress	2023.07.14
Hydroacoustic and bathymetric data of the Japan Trench collected during IODP Expedition 386	Myra Keep、喜岡 新、Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Jeremy Everest、前田 玲奈、IODP Expedition 386 Science Party	XXI INQUA Congress	2023.07.14
Middle - late Holocene turbidite record on earthquake-induced surface sediment remobilization along the upper slope of Hyuga-nada, westernmost Nankai Trough, Japan	<u>池原 研</u> 、金松 敏也	XXI INQUA Congress	2023.07.14
New constraints on the timing of East Asian explosive volcanism: Insights from cryptotephra deposits preserved in marine and lacustrine archives	Paul Albert、Victoria Smith、Gwydion Jones、Danielle McLean、 <u>池原 研</u> 、Richard Staff、鈴木 毅彦、Hannah Buckland、中川 毅、佐川 拓也	XXI INQUA Congress	2023.07.19
IODP explores new frontiers in ultra-deep water hadal environments probing extreme events archived in the geological record of the Japan Trench	Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Jeremy Everest、前田 玲奈、IODP Expedition 386 Science Party	UK-IODP Annual Meeting 2023	2023.07.20
Spatial distribution of extant brachiopods off Tokai, central Japan	椎野 勇太、Kota Sato、Chinatsu Sasaki、Takuya Shiratsuka、Yoshino Ishizaki、延原 尊美、 <u>池原 研</u>	2nd Asian Palaeontological Congress, TOKYO	2023.08.07
別府市沖別府湾の海底地すべりと flow transformation	<u>池原 研</u> 、加 三千宣、原口 強、山田 圭太郎、 <u>一井 直宏</u> 、竹村 恵二、別府湾コア研究グループ	日本第四紀学会 2023 年大会	2023.09.01

Major megathrust earthquake recurrence in the Japan Trench? Long-term (>17000 years) perspectives from submarine paleoseismology	Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Jyh-Jaan Steven Huang、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>金松 敏也</u> 、 <u>長橋 良隆</u> 、 <u>里口 保文</u> 、 <u>Jeremy Everest</u> 、 <u>前田 玲奈</u> 、IODP Expedition 386 Science Party	International Joint Workshop on Slow-to-Fast Earthquake 2023	2023.09.14
構造化したシームレス地質図 V2 を用いた地すべり発生頻度の地質依存性評価	<u>宮崎 一博</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>水落 裕樹</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.17
地震性混濁流の発生を決めるもの:地震動による表層堆積物再懸濁と堆積物強度強化	<u>池原 研</u> 、 <u>宇佐見 和子</u> 、 <u>金松 敏也</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.17
マグマ形成領域の自己組織化臨界状態と深部変成帯及び浅部プルトンの形成	<u>宮崎 一博</u> 、 <u>池田 剛</u> 、 <u>村岡 やよい</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
北部北上山地における後期白亜紀から古第三紀の陸成層(岩手県岩泉町):堆積年代・粘土鉱物・ビトリナイト反射率	<u>野田 篤</u> 、 <u>森本 和也</u> 、 <u>高橋 幸士</u> 、 <u>檀原 徹</u> 、 <u>岩野 英樹</u> 、 <u>平田 岳史</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
近畿地方北部の超丹波帯付加複合体における層序区分と堆積時期の再検討#	<u>中江 訓</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
デコルマ設定条件の違いによる付加サイクル中の付加体の変形パターンの違い	<u>野田 篤</u> 、Fabien Graveleau、Cesar Witt、Frank Chanier、Bruno Vendeville	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
X線 CT スキャナーを活用した合成地震波形の可能性	<u>一井 直宏</u> 、 <u>芦 寿一郎</u> 、 <u>池原 研</u> 、 <u>大上 隆史</u> 、 <u>阿部 信太郎</u> 、 <u>多良 賢二</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
IODP explores new frontiers in ultra-deep water hadal environments probing past giant earthquakes archived in the geological record of the Japan Trench	Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Jeremy Everest、 <u>前田 玲奈</u> 、IODP Expedition 386 Science Party	ECORD Facility Board Meeting	2023.09.21
ランタノイド LIII 吸収端 XANES スペクトルの半値全幅(FWHM)に認められる系統変化の理論解析	<u>太田 充恒</u> 、 <u>田中 万也</u>	2023 年度 日本地球化学会 第 70 回年会	2023.09.23
IODP Expedition 386 で日本海溝から得られた堆積物コアの古地磁気永年変化記録復元	<u>金松 敏也</u> 、 <u>山本 裕二</u> 、Hsiung Kan-Hsi、Wang Yanghong、 <u>奥津 なつみ</u> 、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser、Jeremy Everest、 <u>前田 玲奈</u> 、IODP Expedition 386 Science Party	地球電磁気・地球惑星圏学会 2023 年秋季大会	2023.09.26
Patterns of deformation in accretionary wedges during accretion cycles with different settings of decollement configuration	<u>野田 篤</u> 、Fabien Graveleau、Cesar Witt、Frank Chanier、Bruno Vendeville	Geomod 2023	2023.09.27
東京低地に分布する沖積層の2層区分に関する歴史的経緯とその意義	<u>小松原 純子</u>	日本堆積学会 20 周年記念行事講演会	2023.09.30
地震履歴研究に適切な地震性混濁流の発生様式と深海底の地層記録を用いた巨大地震記録解読のさらなるチャレンジ	<u>池原 研</u>	日本堆積学会 20 周年記念行事講演会	2023.09.30
Adaptive land cover classifier using directional neighborhood rough set (DNRS)	石井 順恵、 <u>須崎 純一</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>木下 嗣基</u>	Asian Conference on Remote Sensing	2023.10.30

Identifying and correlating sedimentary event deposits for testing paleoseismic interpretations in the central Japan Trench	Michael Strasser, Lukas Loaker, Michelle Muthre, Jun-Ting Lin, <u>池原 研</u> , Jyh-Jaan Steven Huang, <u>板木 拓也</u> , 金松 敏也, 長橋 良隆, 里口 保文, Jeremy Everest, 前田 玲奈, IODP Expedition 386 Science Party	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.13
Foraminiferal characterization and provenance of remobilization, earthquake-triggered sediment deposits, northern Japan Trench	Sarah Zellers, Cecilia McHuge, Jean Noel Proust, Joel Johnson, Michael Strasser, <u>池原 研</u> , Jeremy Everest, 前田 玲奈, IODP Expedition 386 Science Party	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.13
A ~50 ky continuous turbidite paleoearthquake record in a slope basin off Omaezaki, eastern Nankai Trough	<u>池原 研</u> , 石澤 堯史, 里口 保文, 長橋 良隆, Hsiung Kan-Hsi, 金松 敏也	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.13
Combining XRF and multivariate statistics for event-stratigraphic correlation of long sediment records in the Japan Trench	Jun-Ting Lin, Jyh-Jaan Steven Huang, <u>池原 研</u> , Michael Strasser, Ta-Wei Hsu, Chih-Chieh Su, Yu-Hsun Shao, <u>天野 敦子</u> , Jeremy Everest, 前田 玲奈, IODP Expedition 386 Science Party	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.14
Boron isotopes from IODP Expedition 386 Japan Trench porewaters	Troy Rasbury, Katie Wooton, Martin Kolling, Cecilia McHuge, Myra Keep, Michael Strasser, <u>池原 研</u> , Jean Noel Proust, Maxwell Silver, Joel Johnson, Natascha Riedinger, Rui Bao, Min Luo, Piero Bellanova, Christian Marz, Sarah Zellers, Derek Sawyer, Erwan Le-Ber, Marisa Rydzy, Katherine Hochmuth, Susanne Straub, Jeremy Everest, 前田 玲奈, Teng-Wei Wu, IODP Expedition 386 Science Party	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.14
琉球弧の形成と海中に残されたサンゴ礁の痕跡	<u>荒井 晃作</u>	日本古生物学会第 173 回例会	2024.01.26
沖縄トラフにおける最終氷期以降の黒潮変動復元: KS-22-4 成果報告	久保田 好美, 入野 智久, オブラクタ スティーブン, 畠山 義矢, 佐藤 倉真, 井澤 せいら, 宮越 悠吏, 岡崎 裕典, 村川 怜央, <u>池原 研</u> , 佐川 拓也, 松崎 賢史, KS-22-4 乗船メンバー	海と地球のシンポジウム 2024	2024.03.01
IODP giant piston coring to extract megathrust earthquake signals out of event-stratigraphic records allowing to test persistence of coupling characteristics, rupture barriers and earthquake cycles through time	Michael Strasser, Peter Haeussler, Jamie Howarth, <u>池原 研</u> , 金松 敏也, 喜岡 新, 中西 諒, Alina Polonia, Harold Tobin, Katleen Wils	Workshop on the future of Scientific Ocean Drilling	2024.03.19

地質情報研究部門 平野地質研究グループ

関東平野の第四系における Pseudopodosira kosugii の産出層準 #	<u>納谷 友規</u>	日本珪藻学会第 44 回大会	2023.05.14
Preliminary result of viscous remanent magnetization dating for the late Pleistocene fluvial pebbles beneath the Tokyo Lowland, Japan	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>田邊 晋</u> 、 <u>小田 啓邦</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
Mid-Piacenzian oxygen isotope-magnetostratigraphy and paleoclimatic reconstruction in the northwestern Pacific	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>岡田 誠</u> 、 <u>久保田 好美</u> 、 <u>本郷 美佐緒</u> 、 <u>中谷 是崇</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
Paleomagnetic and ¹⁰ Be records across the Pleistocene and Pliocene geomagnetic polarity transitions from the Boso Peninsula, central Japan	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>菅沼 悠介</u> 、 <u>梶田 展人</u> 、 <u>宇都宮 正志</u> 、 <u>岡田 誠</u>	XXI INQUA Congress	2023.07.13
Viscous remanent magnetization dating of the subsurface late Pleistocene fluvial gravel beds beneath the Tokyo Lowland, Japan	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>田邊 晋</u> 、 <u>小田 啓邦</u>	XXI INQUA Congress	2023.07.14
Human response for postglacial sea-level change in Jomon prehistoric sites around Lake Ogawara, Northern Japan	<u>佐藤 善輝</u> 、 <u>小野 映介</u> 、 <u>小岩 直人</u> 、 <u>樋泉 岳二</u> 、 <u>工藤 司</u> 、 <u>斉藤 慶吏</u> 、 <u>高橋 未央</u>	XXI INQUA Congress	2023.07.17
地震と地質って関係あるの？	<u>納谷 友規</u>	産総研四国センター一般公開 2023	2023.08.04
5 万分の1地質図幅「川越」地域の鮮新統～第四系層序	<u>納谷 友規</u> 、 <u>小松原 純子</u>	日本第四紀学会 2023 年大会	2023.09.01
Visualization of soft mud beneath the coastal lowlands north of Tokyo Bay: Clarification of relationships among subsurface geology, past earthquake and subsidence disasters	<u>田邊 晋</u> 、 <u>石原 与四郎</u> 、 <u>中島 礼</u>	IGAG ウェビナー	2023.09.05
徳島平野沿岸部における地下第四系層序と堆積環境	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>中谷 是崇</u> 、 <u>水野 清秀</u> 、 <u>納谷 友規</u> 、 <u>中島 礼</u> 、 <u>西山 賢一</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.17
残留磁化分析による東京低地における沖積基底礫層の堆積年代決定	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>田邊 晋</u> 、 <u>小田 啓邦</u>	日本地質学会第 130 回学術大会	2023.09.19
多摩丘陵の下部更新統上総層群 小山田層～飯室層の珪藻化石群集 :Lancineis rectilatus の産出層位	<u>納谷 友規</u> 、 <u>鈴木 毅彦</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
掛川層群と淡路島の大坂層群に狭在する後期鮮新世-前期更新世境界のテフラの対比	<u>中谷 是崇</u> 、 <u>水野 清秀</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
Soft mud beneath the coastal lowlands north of Tokyo Bay: Relationship	<u>田邊 晋</u> 、 <u>石原 与四郎</u> 、 <u>中島 礼</u>	生物・地質・環境学部セミナー	2023.09.22

between subsurface geology and past earthquake and subsidence disasters#

マンモス逆磁極亜期下位および上位境界における古地磁気-10Be 変動記録

羽田 裕貴、菅沼 悠介、岡田 誠

2023 年度地球環境史学会年会 2023.12.03

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

新潟県糸魚川の来馬層群の礫岩から発見されたペルム紀放射虫:前期ジュラ紀における後背地

伊藤 剛、川尻 啄真、松岡 篤

日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.23

北部北上帯中のパンサラッサ遠洋深海地層における石炭系-ペルム系境界

武藤 俊、高橋 聡、村山 雅史

日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.26

4 月 30 日は放射虫の日

松岡 篤、横山 隼、茨木 洋介、前畑 典子、伊藤 剛

第 94 回形の科学シンポジウム「デザインと設計」 2023.06.11

Jurassic-Cretaceous transition sequences in Japan and their contribution to defining the Jurassic-Cretaceous boundary

松岡 篤、佐野 晋一、竹谷 陽二郎、中田 健太郎、伊藤 剛

STRATI 2023 2023.07.12

ペルム紀放射虫の分類と生層序

伊藤 剛

形の科学研究センター 2023 年度第 4 回講演会 2023.07.28

Radiolarian-bearing clasts within the Jurassic-Cretaceous neritic-terrestrial strata in East Asia: Observation on etched surfaces for linking land and ocean

伊藤 剛

2nd Asian Palaeontological Congress, TOKYO 2023.08.05

下部白亜系銚子層群に挟在する礫岩から産出したペルム紀及び三畳紀の微化石:ジオパークにおける地質年代の“拡張”

伊藤 剛、武藤 俊、岩本 直哉

日本地質学会第 130 年学術大会 2023.09.17

北部北上帯における“構造線”の再検討

武藤 俊

日本地質学会第 130 年学術大会 2023.09.18

室戸半島, 四万十帯中新統菜生層群における冷湧水炭酸塩岩

原 英俊、宇都宮 正志、松元 日向子、中村 拓、Satish-Kumar M

日本地質学会第 130 年学術大会 2023.09.18

北海道岩見沢市幌向層軽石火山礫凝灰岩のジルコン U-Pb 年代と化学組成

辻野 匠、中嶋 健、朝比奈 健太、鈴木 祐一郎、下川 修司、服部 泰久、金子 光好

日本地質学会第 130 年学術大会 2023.09.19

イザナギ-太平洋海嶺の接近・沈み込みに伴う発達史:紀伊半島・四国に分布する四万十帯付加体中の礫岩

志村 侑亮、原 英俊、常盤 哲也、中村 佳博、浅原 良浩

日本地質学会第 130 年学術大会 2023.09.19

高知県室戸半島に露出する古第三系室戸層に見られる乱堆積層の形成環境と堆積年代

松元 日向子、藤内 智士、原 英俊

日本地質学会第 130 年学術大会 2023.09.19

Structural evolution and stratigraphic relations in the Western Dharwar Craton (WDC) and its implications in regional scale tectonics

Lakshmanan Sreehari、鈴木 敬介、A. S. Silpa、豊島 剛志、植田 勇人、Madhusoodhan Satish-Kumar、亀井 淳志

International Association for Gondwana Research 2023 Convention and 20th International Conference on Gondwana to Asia 2023.10.08

Paleozoic sedimentary history of the Hida Gaaien belt (Inner zone of Southwest Japan) in relation to the breakup of Gondwana and the assembly of Northeast Asia	<u>鈴木 敏介</u> 、 <u>栗原 敏之</u>	International Association for Gondwana Research 2023 Convention and 20th International Conference on Gondwana to Asia	2023.10.08
Radiolaria- and zircon U-Pb-dated Permian strata on Sado Island, central Japan, and their geotectonic significance	栗原 敏之、 <u>鈴木 敏介</u> 、石田 大昂	International Association for Gondwana Research 2023 Convention and 20th International Conference on Gondwana to Asia	2023.10.09
Evolution in response to progressive ridge approach and subsequent subduction: Insights from conglomerates in the Shimanto accretionary complex, SW Japan	<u>志村 侑亮</u> 、 <u>原 英俊</u> 、 <u>常盤 哲也</u>	Cargese 2023 School on Subduction Zone Processes	2023.10.10
Comparison of calcareous nannofossil assemblages, biostratigraphy and geochemistry across the Paleocene-Eocene Thermal Maximum from three cores in the southern Salisbury Embayment of Maryland and Virginia, USA	<u>宇都宮 正志</u> 、Jean M. Self-Trail、Leon Clarke	Geological Society of America Connects 2023	2023.10.15
円石藻 Umbilicosphaera 属の進化に伴うココリスの形態と結晶方位の変化	<u>宇都宮 正志</u> 、小暮 敏博	第 18 回バイオミネラリゼーションワークショップ	2023.11.13
米国バージニア州 Surprise Hill コアにおける暁新統一始新統石灰質ナノ化石層序	<u>宇都宮 正志</u> 、Jean Self-Trail	MRC 研究集会	2024.03.15
地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ			
新生代における棚倉破砕帯の運動と変形礫岩の関係	<u>細井 淳</u> 、 <u>檀原 徹</u> 、岩野 英樹	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
Clockwise rotation of SW Japan at Izanagi-Pacific ridge subduction time revealed by arc migration	<u>山岡 健</u> 、ウオリス サイモン	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25
3D-tectonothermal structure of deeply subducted materials revealed in the Akaishi Mountains, Nagano, Japan: Implications for Izanagi? Pacific ridge subduction and exhumation tectonics	<u>中村 佳博</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>竹内 誠</u> 、 <u>岩野 英樹</u> 、 <u>檀原 徹</u> 、 <u>平田 岳史</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25
中央構造線近傍・三波川帯における地質構造の空間変化	長谷川 凌平、 <u>森 宏</u> 、 <u>山岡 健</u>	日本地質学会中部支部 2023 年支部年会	2023.06.24
日本の白亜紀-古第三紀の火成活動場とテクトニクス	<u>山岡 健</u> 、ウオリス サイモン	日本地質学会中部支部 2023 年支部年会	2023.06.24
Cryptic variation within the layered gabbro sequence of the Oman ophiolite, Wadi Haymilyah area	<u>山崎 徹</u> 、前田 仁一郎	14th International Platinum Symposium	2023.07.04
Experimental Constraints on Magma Storage Conditions of Two Caldera-	中谷 貴之、 <u>工藤 崇</u> 、 <u>鈴木 敏弘</u>	Goldschmidt2023	2023.07.10

Forming Eruptions at Towada Volcano,
Japan

A new thermal indicator for organic
matter with deep-UV micro-Raman
spectroscopy

中村 佳博、高橋 幸士

Water-Rock Interaction

2023.08.18

Use of contact metamorphic aureoles to
estimate magma flux

ウォリス サイモン、山岡 健、三宅 明、
Catherine Annen

Water-Rock Interaction WRI-
17/Applied Isotope
Geochemistry AIG-14

2023.08.18

EM アルゴリズムを利用した岩石中炭質物
の新しい被熱温度推定法自動化の試み

中村 佳博、松村 太郎次郎、宮崎 一
博

日本鉱物科学会 2023 年年会・総
会

2023.09.16

高効率ピークフィッティングパッケージ
EMpeaksR の地質学分野への展開

松村 太郎次郎、中村 佳博、宮崎 一
博

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.16

日本海拡大時の棚倉堆積盆から得られた
応力解析結果の評価

細井 淳

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.17

Linking Japan-NW Pacific plate
tectonics and arc magmatism since the
Cretaceous

Jonny Wu、Tzung-Jui Wu、山岡 健

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.17

中央構造線近傍・三波川帯における延性変
形構造の空間変化に基づく固着度不均質
性評価

長谷川 凌平、森 宏、山岡 健、山岸
弘治、常盤 哲也、木村 陽介、野部
勇貴

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.17

赤石山地北部・三波川帯の変成温度解析と
熱モデリングによる糸魚川? 静岡構造線周
辺の地質分布復元

早川 由帆、新屋 貴史、森 宏、延原
香穂、山岡 健、常盤 哲也、田中 渉、
築島 由理恵

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.17

日本の白亜紀-古第三紀火成活動の時空
間変遷と拡大海嶺沈み込みテクトニクスとの
関係

山岡 健、ウォリス サイモン

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.17

炭質物ラマンスペクトルから最高変成温度
を推定する際のピークフィッティングの自動
化:Part 2

金木 俊也、瀬藤 佑衣、青矢 睦月、
中村 佳博、Wallis Simon

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.18

山口県東部屋代島の深成岩類の火成活動
史:九州地域との比較

大和田 正明、宮下 由香里、佐藤 大
介、小山内 康人、北野 一平

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.18

岩相解析に基づいた兵庫県但馬御火浦-
浜坂・居組エリアに分布する北但層群の古
環境復元および U-Pb 年代測定

松原 典孝、郡山 鈴夏、佐野 恭平、
羽地 俊樹、檀原 徹、岩野 英樹、平
田 岳史

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.18

白亜紀フレアアップイベントと中央構造線・
棚倉構造線沿いの延性変形との関連性

中村 佳博、宮崎 一博、長田 充弘、
高橋 浩

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.19

茨城県大子・常陸大宮地域~栃木県茂木
地域における中新世アダカイトの時空分布

小坂 日奈子、長谷川 健、内山 玄
基、田切 美智雄、細井 淳

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.19

北部九州白亜紀花崗岩類の岩体区分・特に
糸島花崗閃緑岩についての提言

村岡 やよい、宮崎 一博

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.19

20 万分の 1 地質図幅「京都及大阪」地域
に分布する白亜系

佐藤 大介

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.19

四国南西部, 中新統三崎層群の小断層の
産状と応力解析

羽地 俊樹、安邊 啓明

日本地質学会第 130 年学術大会

2023.09.23

異方性岩石中の岩脈群と古応力の方向の 検討: 四国中央部, 三波川変成岩中の中新 統高岩流紋岩の例	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>宮崎 一博</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.23
室戸岬斑れい岩体のジルコン U-Pb 年代と 中新世西南日本火成活動における位置付 け	新正 裕尚、 <u>羽地 俊樹</u> 、仁木 創太、 折橋 裕二、平田 岳史	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.23
Integrated mantle-surface reconstruction of Japan-NW Pacific plate tectonics since the Cretaceous and its implications for Sanbagawa and Ryoke belt metamorphism	Jonny Wu、Jeremy Tsung-Jui Wu、 <u>山岡 健</u>	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.11
Rotated transtensional basins formed during back-arc spreading in Japan: Simultaneous rapid tectonic rotation and basin subsidence	<u>細井 淳</u> 、谷井 優理恵、岡田 誠、 <u>羽 田 裕貴</u>	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.12
横河川変成岩類の炭質物ラマン温度計に 基づく温度構造解析と貫?熱影響検証	森 宏、田村 典裕、 <u>山岡 健</u> 、土肥 陽 菜、村上 大知、松林 直亮	変成岩などシンポジウム	2024.03.15
広域変成岩と接触変成岩を対象とした炭質 物ラマン分光分析による石墨化度不均質性 の評価	土肥 陽菜、 <u>森 宏</u> 、 <u>山岡 健</u>	変成岩などシンポジウム	2024.03.15
鳥取県東部「中新世魚類化石群」の産出層 準の追跡調査	<u>羽地 俊樹</u>	山陰海岸ジオパーク学術研究奨励 事業発表会	2024.03.19

地質情報研究部門 シームレス地質情報研究グループ

地質と地質図-SDGs から考える-	<u>内野 隆之</u>	谷田部東中学校 SDGs 部依頼講 演	2023.05.10
岐阜県中津川市蛭川産 columbite supergroup の高分解能 STEM 観察	小暮 敏博、 <u>坂野 靖行</u> 、奥村 大河	日本鉱物科学会 2023 年年会・総 会	2023.09.14
福島県石川地方産モナズ石の化学組成と CHIME 年代	<u>坂野 靖行</u>	日本鉱物科学会 2023 年年会・総 会	2023.09.15
東北日本, 前期石炭紀付加体である根田 茂帯綱取ユニットにおける碎屑性ジルコン U-Pb 年代測定	<u>内野 隆之</u> 、青木 翔吾、福山 繭子、 中野 竜	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.17
5 万分の 1 地質図幅「外山」(岩手県盛岡 地域)の地質	<u>内野 隆之</u> 、 <u>小松原 琢</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
鉱物の肉眼鑑定	<u>坂野 靖行</u>	ジオ・スクール「第 4 回 鉱物肉眼 鑑定研修」	2023.10.25
斜面災害リスク評価のための地質情報整備 における現状と課題	<u>川畑 大作</u>	日本情報地質学会	2023.12.01
Boron Isotope Characteristics of Serpentine Lenses within#Carboniferous and Triassic Accretionary Complexes in the Kitakami#Mountains, NE Japan	<u>内野 隆之</u> 、辻森 樹、青木 一勝、 Qing Chang	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.11

地質情報研究部門 情報地質研究グループ

台地を刻む谷底低地の沖積層の形成プロセスと地盤リスク: 埼玉県芝川低地の例	<u>小松原 純子</u>	日本堆積学会 2023 年新潟大会	2023.04.23
東京低地の埋没地形および沖積層の層相変化に伴う地盤震動特性の変化: 1923 年関東地震の被害分布との関連	<u>中澤 努</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>坂田 健太郎</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>中山 俊雄</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.21
斜面災害リスク評価のための浅部微動アレイ探査: 阿蘇カルデラから東部の火砕流堆積域における予備解析	<u>長 郁夫</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>下司 信夫</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.22
WebGL を用いた地質地盤情報のボクセルモデルビューアの開発	<u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25
WebGL を用いた都市地質地盤情報のボクセルモデルビューア	<u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u>	第 34 回 日本情報地質学会 総会・講演会	2023.06.23
3D 写真測量データによる千葉県屏風ヶ浦における犬吠層群テフラ分布の可視化	<u>中里 裕臣</u> 、 <u>岩本 直哉</u> 、 <u>上田 脩朗</u>	日本第四紀学会 2023 年大会	2023.09.02
微動のピーク位相速度の解釈と H/V スペクトルへの SH 波 (ラブ波) パワーの影響 - 京都盆地基準ボーリング地点での検討 -	<u>上林 宏敏</u> 、 <u>新井 洋</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>吉田 邦一</u> 、 <u>大堀 道広</u> 、 <u>山田 浩二</u>	2023 年度日本建築学会大会(近畿) 学術講演会	2023.09.14
広域を対象とした表層地盤の地震応答評価に関する検討(その2) 地質境界情報を考慮した地盤モデルの自動作成	<u>飯山 かほり</u> 、 <u>高谷 周平</u> 、 <u>白鷺 卓</u> 、 <u>山田 岳峰</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>野々垣 進</u>	令和 5 年度土木学会全国大会第 78 回年次学術講演会	2023.09.14
広域を対象とした表層地盤の地震応答評価に関する検討(その1) ボーリング空間密度による応答の差異とその評価方法	<u>高谷 周平</u> 、 <u>飯山 かほり</u> 、 <u>白鷺 卓</u> 、 <u>山田 岳峰</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>野々垣 進</u>	令和 5 年度土木学会全国大会第 78 回年次学術講演会	2023.09.14
機械学習によるボーリングデータの地層対比に有効な地盤の特微量の検討	<u>野々垣 進</u> 、 <u>根本 達也</u> 、 <u>升本 眞二</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
東京低地の沖積層の層相変化・埋没段丘礫層の分布に伴う地盤震動特性の変化: 1923 年関東地震の被害との関連	<u>中澤 努</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>坂田 健太郎</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>中山 俊雄</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
中部更新統下総層群藪層下部の指標テフラ	<u>中里 裕臣</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>坂田 健太郎</u> 、 <u>納谷 友規</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
時代の違う谷埋め軟弱層の比較: 埼玉県南東部の沖積層と更新統下総層群木下層	<u>小松原 純子</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
関東平野中央部大宮台地における更新統下総層群の層序および層相変化の検討	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>坂田 健太郎</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>中里 裕臣</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
関東地域の微動 H/V スペクトルピーク周波数マップ: 都市域の地質地盤図におけるコンテンツの追加	<u>長 郁夫</u> 、 <u>先名 重樹</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>小松原 純子</u>	日本地震学会 2023 年度秋季大会	2023.11.01
DEM generation and topographic changes of central Hanoi, Vietnam	<u>米澤 剛</u> 、 <u>根本 達也</u> 、 <u>チュオン スアンルアン</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>ド ティ ハン</u> 、 <u>三田村 宗樹</u> 、 <u>ラガワン ベンカテッシュ</u>	GIS-IDEAS 2023	2023.11.07
WebGL-based visualization tool for 3D geological structures in shallow subsurface in urban areas	<u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u>	GIS-IDEAS 2023	2023.11.07

京都盆地基準ボーリング地点における微動の位相速度と水平上下スペクトル比の全波動場モデリングによる評価	上林 宏敏、吉田 邦一、 <u>長 郁夫</u> 、新井 洋、大堀 道広、山田 浩二、小割 啓史	第 16 回日本地震工学シンポジウム	2023.11.24
新生代第四紀中期更新世チバニアン の GSSP 認定とそれに関わるテフラ研究	<u>中里 裕臣</u>	2023 年度第 7 回賛助会員会議	2024.01.17

地質情報研究部門 リモートセンシング研究グループ

フォボス高緯度分光観測の検討:スペクトル形状の入射角依存性	森田 朋代、福田 佳乃、 <u>松岡 萌</u> 、中村 智樹	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
月表面のカンラン石と斜長石に富む岩石の共存サイトに対する将来のサンプルリターンミッションの候補地としての可能性の検討	<u>山本 聡</u> 、唐牛 謙、長岡 央、石原 吉明、大竹 真紀子、鹿山 雅裕	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
Effects of terrestrial weathering on reflectance spectra of chemically most primitive materials in the solar system	天野 香菜、 <u>松岡 萌</u> 、中村 智樹	第 8 回 地球・海・空:環境・地球科学国際共同大学院プログラムワークショップ	2023.05.31
Insights on irrigation uncertainties from offline and online modeling	Agnes Ducharne、Amen Al-Yaari、Pedro Arboleda-Obando、 <u>水落 裕樹</u>	AGCI Workshop on Irrigation in the Earth System	2023.06.06
LABORATORY INFRARED SPECTROSCOPY EXPERIMENTS ON ANALOGS MATERIAL TO SUPPORT MMX EXPLORATION OF PHOBOS AND DEIMOS	Giovanni Poggiali、Antonin Wargnier、Antonella Barucci、John Brucato、Pierre Beck、Thomas Gautier、 <u>松岡 萌</u> 、中村 智樹、L. Fossi、J. Beccarelli、Alain Doressoundiram、Merlin Frederic、Sonia Fornasier、宮本 英昭、M. Pajola	Asteroids, Comets, Meteors Conference	2023.06.18
RYUGU'S ANHYDROUS INGREDIENTS SHARE SPECTRAL SIMILARITIES WITH PRIMITIVE#DUST FROM THE OUTER SOLAR SYSTEM.	Rosario Brunetto、Cateline Lantz、Alice Aleon-Toppani、Z. Dionnet、D. Baklouti、F. Borondics、Z. Djouadi、Stefano Rubino、中村 智樹、福田 佳乃、天野 香菜、松本 恵、藤岡 悠理、森田 朋代、菊入 瑞葉、加川 瑛一、Ralph Milliken、 <u>松岡 萌</u> 、坂本 尚義、野口 高明、岡崎 隆司、藪田 ひかる、奈良岡 浩、坂本 佳奈子、橘 省吾、渡邊 誠一郎、津田 雄一、はやぶさ2初期分析チーム 石の物質分析チーム	Asteroids, Comets, Meteors Conference	2023.06.19
Observation Plans for Mars and Its Moons by Using the MMX Infrared Spectrometer (MIRS)	岩田 隆浩、中川 広務、土屋 史紀、青木 翔平、 <u>松岡 萌</u> 、黒川 宏之、中村 智樹、Antonella Barucci、Jean-Michel Reess、Pernelle Bernardi、Alain Doressoundiram、Sonia Fornasier、Michel Le Du、Veronique Piou、Eric Sawyer、Nathalie Pons	AOGS 2023 20th Annual Meeting	2023.08.03
Onboard Calibration Status 2023	<u>山本 聡</u>	52nd ASTER Science Team Meeting	2023.09.12

Thermal and hyperspectral remote sensing for monitoring of shallow coastal environment	<u>水落 裕樹</u>	52nd ASTER Science Team Meeting	2023.09.12
Spectral characterization of solar PVs in remote sensing imagery#	<u>畠田 将貴</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、竹内 涉	52nd ASTER Science Team Meeting	2023.09.12
Remote sensing of near infrared spectral maps on Phobos, Deimos, and Mars by an imaging spectrometer MIRS onboard MMX	中川 広務、Antonella Barucci、岩田 隆浩、中村 智樹、土屋 史紀、Jean-Michel Reess、Pernelle Bernardi、Sonia Fornasier、Alain Doressoundiram、Eric Sawyer、Michel Le Du、Veronique Piou、Nathalie Pons、Christophe Donny、Christophe Mathe、黒川 宏之、 <u>松岡 萌</u> 、青木 翔平	地球電磁気・地球惑星圏学会 2023 年秋季大会	2023.09.27
はやぶさ2拡張ミッション(はやぶさ2#)で観測した黄道光の日心距離依存性	津村 耕司、松浦 周二、佐野 圭、岩田 隆浩、瀧本 幸司、山田 学、諸田 智克、神山 徹、早川 雅彦、横田 康弘、巽 瑛理、 <u>松岡 萌</u> 、坂谷 尚哉、本田 理恵、亀田 真吾、鈴木 秀彦、長 勇一郎、吉岡 和夫、小川 和律、白井 慶、澤田 弘崇、杉田 精司	日本惑星科学会秋季講演会	2023.10.11
はやぶさ2 搭載光学航法カメラと OSIRIS-REx 搭載 MapCam の相互校正による小惑星 Ryugu・Bennu のスペクトル進化の比較分析	湯本 航生、巽 瑛理、長 勇一郎、神山 徹、Dathon Golish、亀田 真吾、佐藤 広幸、Bashar Rizk、Dani DellaGiustina、横田 康弘、鈴木 秀彦、Julia de Leon、Humberto Campins、Javier Licandro、Marcel Popescu、Juan Luis Rizos Garcia、本田 理恵、山田 学、諸田 智克、坂谷 尚哉、本田 親寿、 <u>松岡 萌</u> 、早川 雅彦、澤田 弘崇、小川 和律、山本 幸生、Dante Lauretta、杉田 精司	日本惑星科学会秋季講演会	2023.10.11
リュウグウの ONC Normal Albedo スペクトルを実験室反射スペクトルと比較する手法の考察	横田 康弘、本田 理恵、湯本 航生、杉田 精司、神山 徹、巽 瑛理、 <u>松岡 萌</u> 、諸田 智克、坂谷 尚哉、本田 親寿、長 勇一郎、亀田 真吾、山田 学、早川 雅彦、鈴木 秀彦、吉岡 和夫、澤田 弘崇、小川 和律	日本惑星科学会秋季講演会	2023.10.13
月面サンプルリターンのための月面探査とその科学	諸田 智克、長 勇一郎、長岡 央、仲内 悠祐、田畑 陽久、杉田 精司、大竹 真紀子、相田 真里、与賀田 佳澄、酒井 理紗、唐牛 譲、亀田 真吾、笠原 慧、鹿山 雅裕、新原 隆史、水野 貴秀、石原 吉明、 <u>山本 聡</u> 、草野 広樹、日高 義浩、佐竹 涉、佐伯 和人、吉光 徹雄、森 治、佐伯 孝尚	日本惑星科学会秋季講演会	2023.10.13
月面上のチタン鉄鉱に富むサイトの分光学のおよび地質学的研究	<u>山本 聡</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、長岡 央、大竹 真紀子	日本惑星科学会秋季講演会	2023.10.13

月面での試料分析のためのレーザー誘起プラズマ発光分光装置(LIBS)の開発	長 勇一郎、田畑 陽久、湯本 航生、吉岡 和夫、相田 真里、与賀田 佳澄、水野 貴秀、岡本 篤、諸田 智克、杉田 精司、仲内 悠祐、長岡 央、新原 隆史、大竹 真紀子、唐牛 讓、酒井 理紗、石原 吉明、 <u>山本 聡</u> 、鹿山 雅裕、草野 広樹、佐竹 渉、佐伯 和人、吉光 徹雄、森 治、佐伯 孝尚	日本惑星科学会秋季講演会	2023.10.13
月始原地殻サンプルリターン:科学的意義とサンプリングサイト、サンプル選別方法	長岡 央、大竹 真紀子、諸田 智克、仲内 悠祐、長 勇一郎、杉田 精司、田畑 陽久、酒井 理紗、相田 真里、与賀田 佳澄、唐牛 讓、石原 吉明、 <u>山本 聡</u> 、鹿山 雅裕、新原 隆史、草野 広樹、佐竹 渉、佐伯 和人、吉光 徹雄、森 治、佐伯 孝尚	日本惑星科学会秋季講演会	2023.10.13
火星衛星探査計画 MMX の到着前着陸候補地域選定	和田 浩二、中村 智樹、宮本 英昭、松本 晃治、平田 成、菊地 紘、逸見 良道、清水 俊輔、菊地 翔太、森田 朋代、小林 真輝人、清水 雄太、竹村 知洋、Natarajan Varsha、堀田 啓貴、平田 直之、 <u>松岡 萌</u> 、巽 瑛理、他 18 名	第 67 回宇宙科学技術連合講演会	2023.10.19
火星衛星探査計画 MMX 赤外線分光計 MIRS の観測計画と開発状況	岩田 隆浩、中川 広務、土屋 史紀、中村 智樹、青木 翔平、黒川 宏之、 <u>松岡 萌</u> 、Antonella Barucci、Jean-Michel Reess、Pernelle Bernardi、Alain Doressoundiram、Sonia Fornasier、Michel Le Du、Eric Sawyer、Veronique Piou、Nathalie Pons	第 67 回宇宙科学技術連合講演会	2023.10.20
火星衛星探査計画 MMX のキュレーション/SAWT の検討状況	臼井 寛裕、深井 稜汰、藤谷 渉、高野 淑識、馬上 謙一、Andrew Beck、Enrica Bonato、Nancy L. Chabot、古川 善博、玄田 英典、日比谷 由紀、Fred Jourdan、Thorsten Kleine、小池 みずほ、 <u>松岡 萌</u> 、三浦 弥生、Frederic Moynier、岡崎 隆司、Sara S. Russell、角野 浩史、Michael E. Zolensky、菅原 春菜、橘 省吾、坂本 佳奈子、安部 正真、長 勇一郎	第 67 回宇宙科学技術連合講演会	2023.10.20
Unveiling dark objects in Solar System: grain size effects on the infrared spectrum of mineral mixtures in presence of opaque components	Giovanni Poggiali、L. Fossi、Antonin Wargnier、J. Beccarelli、John Brucato、Antonella Barucci、Pierre Beck、 <u>松岡 萌</u> 、中村 智樹、M. Pajola、Sonia Fornasier、Merlin Frederic、Alain Doressoundiram、Thomas Gautier、G. David	Hayabusa Symposium 2023	2023.11.17

HISUI ハイパースペクトルセンサを用いた太陽光パネルの分光反射特性分析	<u>畠田 将貴</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、竹内 渉	日本リモートセンシング学会 第75回(令和5年度秋季)学術講演会	2023.11.21
SBAS 法による九州地域における地すべりリスク地域の観測および地質学的考察	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>宮地 良典</u>	日本リモートセンシング学会 第75回(令和5年度秋季)学術講演会	2023.11.21
GSJ Webinar 2023 on Practical Geological Survey Techniques, remote sensing application	<u>水落 裕樹</u>	GSJ Webinar on Practical Geological Survey Techniques	2024.01.24
Introduction of Remote Sensing	<u>山本 聡</u>	GSJ Webinar on Practical Geological Survey Techniques	2024.01.24
FROM MICRO- TO METER-SCALE: NEW LABORATORY INVESTIGATIONS ON GRAIN SIZE AND MINERAL MIXING IN SUPPORT OF SPACE MISSION REMOTE SENSING INTERPRETATION.	Giovanni Poggiali, Antonin Wargnier, L. Fossi, S. Iannini Lelarge, J. Beccarelli, John Brucato, Antonella Barucci, M. Pajola, M. Masotta, <u>松岡 萌</u>	XIX Congresso Nazionale di Scienze Planetarie	2024.02.08
Creation of long-term inundation and vegetation maps with a fine spatiotemporal resolution for Siberia by integrating satellite and meteorological datasets	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>笹川 大河</u> 、 <u>伊藤 昭彦</u> 、 <u>飯島 慈裕</u> 、 <u>Hotaek Park</u> 、 <u>永野 博彦</u> 、 <u>市井 和仁</u> 、 <u>檜山 哲哉</u>	PAWCs International Symposium	2024.03.05
太陽系の考古学: サンプルリターン最前線	<u>松岡 萌</u>	とつぷ・レクチャー	2024.03.10
可視・赤外分光データに基づくリュウグウにおける宇宙風化作用の解明#	<u>松岡 萌</u>	2023 年度惑星物質科学のフロンティア研究集会	2024.03.11
OBSERVATIONS OF TRANSITING EXOPLANETS WITH THE OPTICAL NAVIGATION CAMERA ONBOARD HAYABUSA2	湯本 航生、 <u>神山 徹</u> 、 <u>三柘 裕也</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、他 8 名	The 55th Lunar and Planetary Science Conference	2024.03.12
COMPUTER MODELING OF SHADOW HIDING OPPOSITION EFFECT ON ASTEROID RYUGU.	横田 康弘、 <u>本田 理恵</u> 、 <u>Deborah Domingue</u> 、 <u>巽 瑛理</u> 、 <u>Stephan Schroeder</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>Lucie Riu</u> 、 <u>Andrea Longobardo</u> 、 <u>神山 徹</u> 、他 14 名	The 55th Lunar and Planetary Science Conference	2024.03.14
TERRAIN MAP OF ASTEROID RYUGU BY MOSAIC COMPOSITING.	<u>本田 和広</u> 、 <u>巽 瑛理</u> 、 <u>横田 康弘</u> 、 <u>神山 徹</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、他 17 名	The 55th Lunar and Planetary Science Conference	2024.03.14
BOULDER MOTIONS ON ASTEROID RYUGU INDUCED BY THRUSTER GAS DISTURBANCE BY HAYABUSA2	<u>坂谷 尚哉</u> 、 <u>亀田 真吾</u> 、 <u>K. Kitsunai</u> 、 <u>神山 徹</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、他 25 名	The 55th Lunar and Planetary Science Conference	2024.03.14
INTRINSIC SPECTRAL VARIATION AMONG C-TYPE BRIGHT BOULDERS ON RYUGU REVEALED#FROM OBSERVATIONS OF THE ARTIFICIAL CRATER.	<u>杉田 精司</u> 、 <u>杉本 知穂</u> 、 <u>M. Aoki</u> 、 <u>神山 徹</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、他 23 名	The 55th Lunar and Planetary Science Conference	2024.03.14

DECIPHERING REMOTE SENSING DATA FROM MICRO- TO MACRO-SCALE: NEW LABORATORY INVESTIGATIONS ON GRAIN SIZE AND MINERAL MIXING IN SUPPORT OF SOLAR SYSTEM EXPLORATION.	Giovanni Poggiali, Antonin Wargnier, L. Fossi, J. Beccarelli, John Brucato, Antonella Barucci, M. Pajola, M. Masotta, <u>松岡 萌</u> , Pierre Beck, 中村 智樹, Merlin Frederic, Sonia Fornasier, Alain Doressoundiram, Thomas Gautier, G. David	The 55th Lunar and Planetary Science Conference	2024.03.15
小惑星にたずねる太陽系の歴史	<u>松岡 萌</u>	ぶらりがく for ハイスクール with JpGU	2024.03.23
宇宙から見た地球 ～最先端の衛星リモートセンシング～	<u>山本 聡</u>	つくば Science Edge 2024	2024.03.29

地質情報研究部門 海洋地質研究グループ

沖縄トラフ南部, 八重山海底地溝を対象とした海洋底拡大前夜の背弧海盆での断層構造の空間不均一	山本 朱音, 大坪 誠, <u>三澤 文慶</u> , 新井 隆太, 竹村 貴人	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
KH-23-1 航海で運用した「メガコア」と「コアキャッチャー付きアシユラ採泥器」～表層堆積物不擾乱採取の新技术～	<u>鈴木 克明</u> , <u>清家 弘治</u> , 徳田 悠希, 竹友 祥平, 石塚 治	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
ロス海における鮮新世温暖期の珪藻 turnover と海洋環境変動の関連	<u>石野 沙季</u> , 関 宰, 山本 正伸	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
海洋地質データの統合した管理について	坂口 弘訓, 清水 恒子, 高市 和義, 高美 さゆり, <u>片山 肇</u> , <u>井上 卓彦</u>	第 34 回 日本情報地質学会 総会・講演会	2023.06.23
Abrupt changes in diatom assemblage during the mid-Pliocene warm period in the Ross Sea	<u>石野 沙季</u> , 関 宰, 山本 正伸	The 26th International Diatom Symposium	2023.08.29
Abrupt changes in diatom assemblage during the mid-Pliocene warm period in the Ross Sea	<u>石野 沙季</u> , 関 宰, 山本 正伸	INSTANT Conference	2023.09.11
過去 1 万 2 千年間におけるトカラ列島宝島西方海域の古底層環境変遷	上野 智広, 岩谷 北斗, <u>鈴木 克明</u> , <u>板木 拓也</u> , <u>清家 弘治</u> , 中野 太賀	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
沖縄トラフ南部, 八重山海底地溝における海洋底拡大前の海底地形とリフト構造の関係	山本 朱音, 大坪 誠, <u>三澤 文慶</u> , 新井 隆太, 竹村 貴人	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
トッテン氷河前縁陸棚域の堆積物元素組成が示唆する環境変動	<u>鈴木 克明</u> , <u>板木 拓也</u> , 菅沼 悠介, <u>天野 敦子</u> , <u>清家 弘治</u> , 大森 貴之, 石輪 健樹, 尾張 聡子	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
周辺海域を含めた伊豆大島側火山形成場の特徴と活動時期	石塚 治, <u>井上 卓彦</u> , <u>有元 純</u> , 川邊 禎久, 及川 輝樹	日本火山学会 2023 年度秋季大会	2023.10.20
トカラ列島周辺海域の堆積環境	<u>鈴木 克明</u>	2023 年度地球環境史学会年会	2023.12.03
Relationship between seafloor morphology and rift structure before spreading of continental crust of backarc: An example from the	山本 朱音, 大坪 誠, <u>三澤 文慶</u> , 新井 隆太, 竹村 貴人	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.11

Yaeyama Rift, southern Okinawa Trough

Relationship between fracture dilation and distribution of fractures around normal faults in sedimentary rocks: Example from Yonaguni Island, Okinawa, SW Japan

大坪 誠、大橋 聖和、宮川 歩夢 AGU Fall Meeting 2023 2023.12.11

トカラ列島周辺海域に分布する上部新生界堆積岩の石灰質微化石に基づく堆積年代とその地質学的意義

有元 純、宇都宮 正志、田中 裕一郎 日本古生物学会第 173 回例会 2024.01.28

Activity Report 2023 of Geological Survey of Japan, AIST

井上 卓彦、板木 拓也、森田 澄人 UJNR 2024.01.30

沖縄本島中南部に分布する島尻層群の浮遊性有孔虫化石群集に基づく後期中新世から前期更新世にかけての琉球弧付近の黒潮変動

長間 祐介、有元 純、藤田 和彦 MRC 研究集会 2024.03.15

北部琉球弧の新第三系・第四系堆積岩から得られた微化石の産状、年代と利用

有元 純、石野 沙季、鈴木 克明、宇都宮 正志、田中 裕一郎 MRC 研究集会 2024.03.15

地質情報研究部門 地球変動史研究グループ

伊勢湾の地下表層構造:最終氷期の地形による差異

佐藤 智之 日本堆積学会 2023 年新潟大会 2023.04.23

日本海酒田沖のメタン冷湧水域における表層堆積物中のリンの初期続成過程

鈴木 昌弘、塚崎 あゆみ、太田 雄貴、宮嶋 佑典、吉岡 秀佳、清家 弘治、田中 美奈子、鈴木 淳 日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.21

日本海上越沖の海底深部掘削コアに見る炭酸塩コンクリーションの初期形成過程

宮嶋 佑典、風呂田 郷史、太田 雄貴、鈴木 清史、井尻 暁、吉岡 秀佳、天野 敦子、高橋 浩、青柳 智、堀 知行、佐藤 幹夫 日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.21

Reassessment of Lagoon-Specific Marine Reservoir Effects in Tongatapu, Kingdom of Tonga, over the Past 3000 Years

福興 直人、Geoffrey Clark、横山 祐典 日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.21

釧路市春採湖から採取された年縞堆積物コアの解析計画:1次的な研究成果と今後の展望

七山 太、香月 香太、松野 佑香、中西 利典、福興 直人、酒井 恵祐、深津 恵太、石井 正之、重野 聖之、大串 健一、古川 竜太、小田 啓邦 日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.21

北海道釧路市春採湖における近現代の地震と珪藻分析による古環境の復元

松野 佑香、香月 香太、七山 太、中西 利典、深津 恵太、酒井 恵祐、福興 直人、小田 啓邦 日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.21

ボーリング試料の全有機炭素、全窒素、全硫黄濃度による更新世以降の伊勢湾の堆積環境変遷#

天野 敦子 日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.21

奇跡の惑星「地球」の誕生・歴史・現在・未来:女子中高生への理工科系キャリアパス支援イベントでの地球惑星科学の紹介

古市 剛久、天野 敦子、小川 佳子、守屋 和佳、藤光 康宏、南雲 直子、小口 千明、紺屋 恵子、宋 苑瑞 日本地球惑星科学連合 2023 年大会 2023.05.21

周防灘における高分解能反射法音波探査	大上 隆史、 <u>佐藤 智之</u> 、丸山 正、宮下 由香里、武田 伸勝、高橋 恭平、佐藤 誉司	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.22
北海道東部の浜堤列平野で発見された巨大津波による侵食痕跡	澤井 祐紀、 <u>田村 亨</u> 、嶋田 侑眞、谷川 晃一郎	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
微化石 DX: 放散虫の自動分類とハイスループット化の取り組み	<u>板木 拓也</u> 、 <u>宮川 歩夢</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
西之島 2014-2015 年溶岩からの微小領域磁気分析用薄片の作製と磁気マッピング	<u>山本 裕二</u> 、 <u>小田 啓邦</u> 、多田 訓子、吉本 充宏、前野 深、武尾 実	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
高空間分解能化に向けた走査型 SQUID 顕微鏡の改良と今後の展望	<u>小田 啓邦</u> 、河合 淳、 <u>福興 直人</u> 、 <u>谷元 瞭太</u> 、河端 美樹	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
房総半島に分布する鮮新-更新統の堆積岩に記録された残留磁化構成成分の SQUID 顕微鏡を用いた予察的分析	<u>谷元 瞭太</u> 、 <u>小田 啓邦</u> 、岡田 誠、 <u>福興 直人</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
Hadean to Eoarchean stagnant lid tectonics tracked by the paleomagnetism of zircons	TARDUNO A. JOHN, Cottrell Danielle Rory, Richard Bono, Francis Nimmo、 <u>小田 啓邦</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
南太平洋ペンリン海盆における古地磁気によるマンガンノジュールの回転検出	<u>小田 啓邦</u> 、片野田 航、 <u>臼井 朗</u> 、村山 雅史、 <u>山本 裕二</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
微粒子試料の自動鑑定精度向上とハイスループット化に向けた取り組み: 微化石と火山灰を例として	<u>板木 拓也</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、松本 恵子、下司 信夫	石油技術協会 地質・探鉱部門シンポジウム	2023.06.07
Sediment transport revealed by residual doses of modern K-feldspar sands in the Kujukuri coast, central Japan	<u>小森 康太郎</u> 、 <u>清家 弘治</u> 、 <u>田村 亨</u>	17th International Luminescence and Electron Spin Resonance Dating Conference	2023.06.26
Integrative Taxonomy Eunice cf. aphroditois (Annelida: Eunicidae) from Japan: Comparative Analysis of Juvenile and Adult Forms and Phylogenetic Placement within the Family	Chiharu Shinomiya, Genki Kobayashi、 <u>清家 弘治</u> 、 <u>山下 桃</u> 、Kanto Nishikawa, Ryutaro Goto	International Polychaete Conference 14	2023.07.04
Feldspar luminescence dating sheds new light on Pleistocene depositional sequence in an uplifted coast, eastern Japan	<u>田村 亨</u> 、 <u>納谷 友規</u> 、 <u>中島 礼</u> 、 <u>清家 弘治</u> 、岡崎 浩子、 <u>中里 裕臣</u> 、奥野 淳一	XXI INQUA Congress	2023.07.15
The cumulative number of anthropogenic fingerprints as a potential marker of the onset of the Anthropocene—an example of the Beppu Bay stratigraphy	加 三千宣、Bruce P. Finney、Zhiyuan Shi、Aya Sakaguchi、槻木 玲美、Takayuki Omori、阿草 哲郎、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>横山 祐典</u> 、Hirofumi Hinata、Yoshio Hatada、Jun Inoue、Kazumi Matsuoka、Misaki Shimada、Hikaru Takahara、Shin Takahashi、Daisuke Ueno、 <u>天野 敦子</u> 、堤 純、山本 正伸、Keiji Takemura、Keitaro Yamada、 <u>池原</u>	XXI INQUA Congress	2023.07.20

	研、Tsuyoshi Haraguchi, Stephen Tims, Michaela Froehlich, Masumi Matsumura, L. Keith Fifield, Takahiro Aze, Peter R. Leavitt, Kimikazu Sasa, Tsutomu Takahashi, Yukinori Tani, Hideyuki Doi, 入野 智久, Kazuyoshi Moriya, Akira Hayashida, Kotaro Hirose, Hidekazu Suzuki、齋藤 文紀		
Decadal-scale ostracode assemblage records from two box cores detail changes in Beaufort Sea coastal areas during the last few centuries	Laura Gemery, Masanobu Yamamoto、清家 弘治、Leonid Polyak, Thomas M. Cronin	XXI INQUA Congress	2023.07.20
巢穴形状観察と CN 安定同位体解析で探る埋性ベントスの生態	清家 弘治	瀬戸海洋生物学セミナー	2023.07.27
Marine inundation history during the last 3000 years at a coastal lake on the Pacific coast of central Japan	嶋田 侑真、澤井 祐紀、松本 弾、谷川 晃一朗、伊藤 一充、田村 亨、行谷 佑一、宍倉 正展、藤野 滋弘	AOGS 2023 20th Annual Meeting	2023.08.03
Toward AI-based classification of radiolarians using the new system for high throughput slide scanning	板木 拓也、宮川 歩夢、池原 実	2nd Asian Palaeontological Congress, TOKYO	2023.08.07
西之島 2014-2015 年溶岩の古地磁気強度推定に向けた磁気マッピングの予察的検討	与謝野 勳、小田 啓邦、山本 裕二、多田 訓子、吉本 充宏、前野 深、武尾 実	地磁気・古地磁気・岩石磁気「夏の学校」	2023.08.28
房総半島に分布する海成鮮新-更新統を対象とした SQUID 顕微鏡を用いた古地磁気分析	谷元 瞭太、小田 啓邦、岡田 誠	地磁気・古地磁気・岩石磁気「夏の学校」	2023.08.28
パススルー超伝導磁力計による連続測定データのデコンボリューション	小田 啓邦、James E.T. Channell、Chuang Xuan, Harry Baker	地磁気・古地磁気・岩石磁気「夏の学校」	2023.08.30
高知県南国市における完新世後期の海岸砂丘発達と津波浸水への影響	谷川 晃一朗、田村 亨、小森 康太郎、根来 湧輝	日本第四紀学会 2023 年大会	2023.09.01
和歌山平野砂丘堆積物の長石ルミネッセンス年代測定	田村 亨、趙 哲済、藤原 啓史、藤藪 勝則、大木 要、河本 光月、瀬谷 今日子、金澤 舞、菊井 佳弥、福佐 美智子、辻 康男	日本第四紀学会 2023 年大会	2023.09.01
高精度地殻変動履歴復元に向けた複数種の固着性生物遺骸を用いた 14C 年代値の比較	福奥 直人、レグット 佳、宮入 陽介、阿部 恒平、越後 智雄、宍倉 正展、白濱 吉起、横山 祐典	日本第四紀学会 2023 年大会	2023.09.01
Luminescence dating for identifying depositional sequences in the northeastern Kanto Plain, eastern Japan over the last 400,000 years	張 逸之、中里 裕臣、岡崎 浩子、田村 亨	日本第四紀学会 2023 年大会	2023.09.02
Mid-Holocene retreat of ice shelves off Totten Glacier, East Antarctica	板木 拓也、菅沼 悠介、関 宰、大森 貴之、天野 敦子、石輪 健樹、鈴木	INSTANT Conference	2023.09.11

	<u>克明、羽田 裕貴、清家 弘治、山崎 友莉、平野 大輔、池原 実、青木 茂</u>		
伊勢湾・三河湾の表層堆積物の粒度、元素、鉱物分布からみた現在の海底環境	<u>天野 敦子、清家 弘治</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.17
人工知能を用いた「砂つぶ」自動鑑定システム	<u>板木 拓也、宮川 歩夢</u> 、松本 恵子、下司 信夫	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
海底地形に制約された完新世の東南極トッテン氷床変動	<u>板木 拓也</u> 、菅沼 悠介、関 幸、大森 貴之、石輪 健樹、奥野 淳一、中山 佳洋、小長谷 貴志、 <u>天野 敦子、清家 弘治</u> 、山本 正伸、平野 大輔、藤井 昌和、 <u>鈴木 克明</u> 、尾張 聡子、池原 実、阿部 彩子、青木 茂	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
モンゴル西部 Zavkhan テレーンに分布する 3-8 億年前の火成岩および深成岩の残留磁化の評価(予察)	<u>穴井 千里、小田 啓邦</u> 、長谷部 徳子、長谷川 精	地球電磁気・地球惑星圏学会 2023 年秋季大会	2023.09.25
Magnetostratigraphy and rock magnetic signatures of reef limestones from Miyakojima Island	<u>小田 啓邦、穴井 千里、兼子 尚知</u>	地球電磁気・地球惑星圏学会 2023 年秋季大会	2023.09.25
釧路市春採湖における津波堆積物・テフラの岩石磁気学的特徴:予察	<u>福興 直人、小田 啓邦</u> 、香月 興太、七山 太、中西 利典、深津 恵太、酒井 恵祐、 <u>松野 佑香</u>	地球電磁気・地球惑星圏学会 2023 年秋季大会	2023.09.26
珪藻分析に基づく北海道釧路市の春採湖における近現代の津波堆積物の水環境復元	<u>松野 佑香</u> 、香月 香太、七山 太、中西 利典、深津 恵太、酒井 恵祐、 <u>福興 直人、小田 啓邦</u>	汽水域研究会 2023 年(第 15 回)三重大会	2023.10.29
沿岸域の海陸シームレス地質図:海岸線をまたいでみえるもの	<u>佐藤 智之</u>	海洋調査技術学会第 35 回研究成果発表会	2023.11.08
西之島溶岩を用いた SQUID 顕微鏡による磁気マッピングと応用～古磁気強度推定のための手法開発～	<u>与謝野 勲、山本 裕二、小田 啓邦</u> 、多田 訓子、吉本 充宏、前野 深、武尾 実	2023 年度地球環境史学会年会	2023.12.03
東北日本油田地域から産出した有孔虫化石の自動分類実験	<u>板木 拓也</u> 、三輪 美智子、 <u>宮川 歩夢</u>	2023 年度地球環境史学会年会	2023.12.04
The unseen victims of the 2011 tsunami: Mass mortality of the long-lived bivalve, Mercenaria stimpsoni, in northeast Japan	窪田 薫、白井 厚太郎、杉原(村上)奈央子、 <u>清家 弘治</u> 、Masayo Minami、Toshio Nakamura、棚部 一成	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.11
How much of original information can deconvolution restore from pass-through magnetic measurements?	Harry Baker、 <u>小田 啓邦</u> 、Millie Bompard、Xuan	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.13
Quantum diamond microscopy magnetometry without applied fields to reveal the true carriers of natural remanent magnetization	TARDUNO A. JOHN、Sethuraj Karimparambil Raju、Cottrell Danielle Rory、Nick Vamivakas、 <u>小田 啓邦</u>	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.15
珪藻分析を用いた北海道釧路市の春採湖の近現代の津波にかかわる湖水環境の復元	<u>松野 佑香</u> 、香月 香太、七山 太、中西 利典、深津 恵太、酒井 恵祐、 <u>福興 直人、小田 啓邦</u>	第31回汽水域研究発表会	2024.01.07

深層学習とバーチャルスライドスキャナを用いた放散虫群集のハイスループット自動解析	<u>板木 拓也</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、池原 実	日本古生物学会第 173 回例会	2024.01.28
過去数世紀の西部北極海環境の高時間解像度復元	山本 正伸、 <u>清家 弘治</u> 、完新世北極古環境研究チーム	高知大学海洋コア：共同利用・共同研究成果発表会	2024.02.28
地磁気エクスカッションによる地磁気強度低下と人類史への影響について	<u>小田 啓邦</u> 、James E.T. Channell	「地球電磁気学と考古学・人類学の連携による人類生息環境の変遷研究の展開」プログラム	2024.03.02
AI 技術を用いた微化石自動分類の新展開	<u>板木 拓也</u>	MRC 微化石研究集会	2024.03.15

地質情報研究部門 資源テクトニクス研究グループ

日向灘泥火山フィールド	浅田 美穂、 <u>山下 幹也</u> 、福地 里奈、横田 俊之	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.21
Age and origin of Philippine Sea basins#-Tectonic setting leading to subduction initiation - #	石塚 治、谷 健一郎、Rex N Taylor、海野 進、坂本 泉、Yuka Yokoyama、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、小原 泰彦、Conway Edward Christopher、Americus Perez、Shun Sekimoto	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
Geophysical characteristics of Nankaido Megamullions in the Shikoku Basin: tectonic implications for backarc spreading initiation	森口 堯明、沖野 郷子、小原 泰彦、 <u>針金 由美子</u> 、股村 祐希	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
Preliminary report of YK23-05S cruise: a Shinkai 6500 dive study on the oceanic core complexes in the West Philippine Basin	小原 泰彦、 <u>針金 由美子</u> 、道林 克禎、沖野 郷子、大柳 良介、Sanfilippo Alessio、Jonathan E. Snow、Marco Cuffaro、二村 康平、森口 堯明	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
Mylonitization of gabbroic rocks in the presence of fluids within the Mado Megamullion, Shikoku Basin, Philippine Sea	二村 康平、道林 克禎、 <u>針金 由美子</u> 、小原 泰彦	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
Back-arc Mantle Exposed at Mado Megamullion, Shikoku Basin: A Drilling Target?	Jonathan Snow、Atlanta Sen、小原 泰彦、平内 健一、瀨瀬 結衣、Alessio Sanfilippo、Basch Valentin、 <u>針金 由美子</u> 、藤井 昌和、沖野 郷子、秋澤 紀克	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
反射法地震探査データを用いた伊豆背弧リフト域の堆積層分布	<u>山下 幹也</u> 、三浦 誠一、高橋 成実、 <u>荒井 晃作</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
New geochronological and geochemical data for the late Eocene alkaline volcanic activity at the Conrad Rise, southern Indian Ocean	佐藤 暢、町田 嗣樹、芦田 果奈、仙田 量子、石塚 治、Christine MEYZEN、Michael BIZIMIS、 <u>佐藤 太一</u> 、藤井 昌和、野木 義史	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
Molybdenum isotopic composition of ~ca. 2.45-Gyr-old sandstones from the Huronian Supergroup, Canada	<u>後藤 孝介</u> 、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、田近 英一	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25

Molybdenum isotopic composition of ca. 2.45-Gyr-old sandstones from the Huronian Supergroup, Canada	<u>後藤 孝介</u> 、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>田近 英一</u>	Goldschmidt2023	2023.07.10
Age and origin of Philippine Sea basins#-Tectonic setting leading to subduction initiation ?#	石塚 治、谷 健一郎、Rex N Taylor、海野 進、坂本 泉、Yuka Yokoyama、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、小原 泰彦、Conway Edward Christopher、Americus Perez	Goldschmidt 2023	2023.07.13
北部マリアナトラフ、Central Graben の最上部マントルの不均質性について—KR02-01 航海から得られたかんらん岩類の(再)微細構造解析	<u>針金 由美子</u> 、田村 明弘、仙田 量子、森下 知晃、山下 浩之	日本鉱物科学会 2023 年年会・総会	2023.09.15
クローンウェッジにおける基底部弱層の有無とプロトデコルマ発達の関係性	<u>橘 隆海</u> 、 <u>藤内 智士</u> 、 <u>高下 裕章</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
Documentation of channel morphology and backscatter intensity facies along the Shinomisaki Canyon, Nankai Trough, using newly acquired multi-beam bathymetry data and surface sediment cores	浜橋 真理、 <u>高下 裕章</u> 、照井 孝之介、福地 里奈、川村 喜一郎、奥田 花也、山口 飛鳥、濱田 洋平、井尻 暁、辰巳 寛二、細川 貴弘	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
潮岬海底谷の潜航調査に基づく南海付加体発達史の更新と大地震セグメント境界の地質学的実態説明:「よこすか」YK23-10S 航海速報	山口 飛鳥、濱田 洋平、福地 里奈、 <u>高下 裕章</u> 、川村 喜一郎、井尻 暁、奥田 花也、浜橋 真理、照井 孝之介、細川 貴弘、辰巳 寛二、芦 寿一郎、笠谷 貴史、木下 正高、亀尾 浩司、久保田 好美、辻 健、白石 和也、木村 学	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.18
長大変形下の砂箱実験における付加体形成時の応力変化とサブダクションチャンネルの重要性	<u>高下 裕章</u> 、 <u>野田 篤</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、大熊 祐一、 <u>橘 隆海</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、大坪 誠	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
ルチコレクター型誘導結合プラズマ質量分析法を用いた有機物中低濃度ストロンチウム同位体比測定#-地球化学的手法の農産物への適用-	有賀 智子、三浦 勉、 <u>後藤 孝介</u> 、 <u>下田 玄</u>	2023 年度 日本地球化学会 第 70 回年会	2023.09.23
富士火山の斜長岩-斑れい岩複合捕獲岩に見られるメルト脈	西ヶ谷 琴音、石橋 秀巳、 <u>針金 由美子</u> 、外西 奈津美、安田 敦	日本火山学会 2023 年度秋季大会	2023.10.19
伊豆大島 1986 年 B 噴火のマグマ供給系: 深成岩捕獲岩からの制約	吉田 那緒、石橋 秀巳、千葉 達朗、外西 奈津美、安田 敦、 <u>針金 由美子</u>	日本火山学会 2023 年度秋季大会	2023.10.19
相模トラフ前縁断層先端部の構造的特徴	<u>山下 幹也</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、笠谷 貴史、木下 正高、三浦 誠一	日本地震学会 2023 年度秋季大会	2023.10.31
Vulcan 断層帯から採取された玄武岩	石塚 治、谷 健一郎、 <u>針金 由美子</u> 、沖野 郷子	海洋リソスフェアの生成と進化- InterRidge-Japan 研究集会-(東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会)	2023.11.06

Birth of Shikoku Basin Backarc Lithosphere	Jonathan Snow、小原 泰彦、道林 克禎、 <u>針金 由美子</u> 、Alessio Sanfilippo、Matthew Loocke	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.14
発震機構解を用いた間隙流体圧の時空間変化の検討	山本 朱音、大坪 誠、 <u>高下 裕章</u> 、今西 和俊	Slow と Fast の破壊現象の実像に関する京大、筑波大、産総研合同研究進捗報告会	2024.03.09
Microstructural analysis of peridotite samples from the mid-Jurassic Vourinos ophiolite, Greece	<u>針金 由美子</u> 、森下 知晃、田村 明弘、谷 健一郎、石塚 治、Annie RASSIOS	変成岩などシンポジウム	2024.03.14

地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ

Spatial characterization of 210Pb- and 14C-derived bioturbation activities in surface sediments at northwestern Pacific seamounts	太田 雄貴、鈴木 昌弘、塚崎 あゆみ、 <u>鈴木 淳</u> 、 <u>清家 弘治</u> 、湊谷 純平	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.21
メタンハイドレート賦存域周辺の深海生物を対象とした遺伝子解析による環境研究の紹介	<u>井口 亮</u> 、喜瀬 浩輝、太田 雄貴、 <u>池内 絵里</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、石田 洋、塚崎 あゆみ、鈴木 昌弘、 <u>鈴木 淳</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.21
13Cトレーサー実験における有機酸の同位体異性体ごとの新しい定量法	須田 好、坂本 幸子、 <u>井口 亮</u> 、玉木 秀幸	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.22
Effects of coral growth and reef formation under increased wave heights due to intensified tropical cyclones and sea level rise by 2100	本郷 宙軌、 <u>井口 亮</u> 、木口 雅司	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.22
上越海盆の冷湧水域における長期モニタリング機器の設置	後藤 秀作、青木 伸輔、 <u>齋藤 直輝</u> 、 <u>長尾 正之</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
日本海における深海性ヨコエビ(フトヒゲソコエビ類)の捕獲、飼育および生物影響実験の試み	石田 洋、瀬尾 絵理子、山本 めぐみ、向井 稜、 <u>池内 絵里</u> 、喜瀬 浩輝、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 昌弘	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
トカラ列島における黒潮の底層環境と底生生物相への影響	中野 太賀、岩谷 北斗、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>齋藤 直輝</u> 、久保 観	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.23
Seasonal variation in planktic foraminifera from sediment trap samples in the North Pacific Subtropical Gyre	<u>黒柳 あずみ</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、 <u>山岡 香子</u> 、橋本 優里、藤井 武史、近藤 俊祐、湊谷 純平	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25
北西太平洋亜熱帯域における浮遊性有孔虫の季節変化	橋本 優里、 <u>黒柳 あずみ</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、 <u>山岡 香子</u> 、藤井 武史、近藤 俊祐、湊谷 純平	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25
拓洋第 5 海山における海洋化学ベースラインとコバルトリッチクラスト掘削性能確認試験に係る海水モニタリング	<u>山岡 香子</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、塚崎 あゆみ、鈴木 昌弘、朱 彦北、有賀 智子、福原 達雄、近藤 俊祐、湊谷 純平	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25
北西太平洋コバルトリッチクラスト賦存域周辺に生息する深海性端脚類を用いた海山間での多様性評価と遺伝的連結性の把握	<u>池内 絵里</u> 、 <u>井口 亮</u> 、喜瀬 浩輝、横岡 博之、加藤 正悟、杉島 英樹、池田 和正、三輪 竜一、 <u>西島 美由紀</u> 、田中 裕一郎、湊谷 純平、 <u>鈴木 淳</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25

コバルトリッチクラストが分布する海山における流況の観測とシミュレーション	<u>齋藤 直輝</u> 、 <u>長尾 正之</u> 、 <u>鈴木 淳</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25
北西太平洋のコバルトリッチクラストが賦存する海山に生息する深海生物の炭素窒素安定同位体比	岩崎 望、李 盛源、 <u>鈴木 淳</u> 、加藤 正悟、横岡 博之、三井 翔太、湊谷 純平、 <u>井口 亮</u> 、 <u>西島 美由紀</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
炭酸塩の飽和度とサンゴポリプの石灰化影響について	木下 峻一、 <u>鈴木 淳</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>飯島 真理子</u> 、大野 良和、安元 剛、川幡 穂高	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
Temporal variation of the molecular-based microbial communities in particulate organic matter collected using a sediment trap with Lugol preservation in the northwestern Pacific	<u>前田 歩</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、近藤 俊祐、湊谷 純平	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.26
深海性端脚類を用いた環境影響評価手法の開発-網羅的遺伝子発現解析によるアプローチ-	<u>井口 亮</u> 、石田 洋、 <u>儀武 滉大</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 昌弘	第 23 回マリンバイオテクノロジー学会大会	2023.05.27
日本海深海域における堆積物内の生物多様性評価-メタバーコーディング解析によるアプローチ-	<u>西島 美由紀</u> 、太田 雄貴、堀 知行、青柳 智、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 昌弘	第 23 回マリンバイオテクノロジー学会大会	2023.05.27
深海底表層堆積物の微生物群集構造把握への試み	池内 絵里、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u>	第 23 回マリンバイオテクノロジー学会大会	2023.05.28
飼育実験および RNA-seq によるポリアミンがサンゴへ与える影響評価	<u>儀武 滉大</u> 、水澤 奈々美、 <u>飯島 真理子</u> 、大野 良和、 <u>井口 亮</u> 、安元 純、安元 剛	第 23 回マリンバイオテクノロジー学会大会	2023.05.28
大型底生有孔虫 <i>Amphisorus kudakajimensis</i> における共生褐虫藻組成への生息深度の影響の解明	<u>前田 歩</u> 、濱本 耕平、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u>	第 23 回マリンバイオテクノロジー学会大会	2023.05.28
日本周辺のアカサングの集団構造の評価-海水流動モデルと遺伝子解析によるアプローチ-	<u>齋藤 直輝</u> 、喜瀬 浩輝、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、岩崎 望	第 23 回マリンバイオテクノロジー学会大会	2023.05.28
Strong genetic break of common coral species <i>Pocillopora damicornis</i> between temperate and subtropical areas in Japan; Possible risk of migration-load in face of climate change?	鎌田 真壽、北野 裕子、 <u>井口 亮</u> 、Yoko Nozawa、長井 敏、Allen Chen、和田 直久、Sen-Lin Tang、谷中 絢貴、安田 仁奈	5th Asia-Pacific Coral Reef Symposium	2023.06.19
Corals dramatically change their symbiotic partners in the front-lines of northward migration in associated with climate change Diversity, ecology and evolution	Shimura Akifumi、鎌田 真壽、山北 剛久、中村 隆志、谷中 絢貴、 <u>井口 亮</u> 、長井 敏、菊地 泰生、清水 庄太、湯浅 英知、北野 裕子、安田 仁奈	5th Asia-Pacific Coral Reef Symposium	2023.06.19
Depth-influenced variation of symbiont relationship between large benthic foraminifera and Symbiodiniaceae	<u>前田 歩</u> 、濱本 耕平、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u>	FORAMS2023 (International Symposium on Foraminifera)	2023.06.26

Insights into fluid sources and flow rates from lithium isotope composition of methane-seep carbonates	宮嶋 佑典、荒岡 大輔、吉村 寿紘、太田 雄貴、 <u>鈴木 淳</u> 、吉岡 秀佳、鈴木 昌弘、Daniel Smrzka、Jorn Peckmann、Gerhard Bohrmann	Goldschmidt2023	2023.07.11
沖縄の自然環境を舞台にしたバイオインフォマティクス研究の展開#	<u>井口 亮</u>	シンポジウム:沖縄ならではの Society5.0 実現に向けて	2023.08.09
沖縄島沿岸域の石灰岩礁、砂泥底および海草藻場における原核生物叢解析と、酵素遺伝子組成推定	<u>濱本 耕平</u> 、 <u>水山 克</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>前田 歩</u> 、 <u>儀武 滉大</u> 、Angelo Poliseni、James Davis Reimer、 <u>井口 亮</u>	日本ベントス学会	2023.09.02
琉球列島の海底洞窟における大型ベントスの動物相および生態分布	藤田 喜久、 <u>水山 克</u> 、 <u>岡西 政典</u> 、 <u>井口 亮</u> 、木村 颯、菅 浩伸	日本動物学会第 94 回大会	2023.09.09
掘削に伴う懸濁粒子量の AI 技術を用いた定量と環境影響評価への応用	<u>齋藤 直輝</u> 、 <u>湊谷 純平</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>長尾 正之</u> 、Travis Washburn、 <u>鈴木 淳</u>	2023 年度資源・素材関係学協会 合同秋季大会	2023.09.13
海洋鉱物資源開発の環境影響評価に向けた海水微量元素分析	<u>山岡 香子</u>	日本分析化学会第 72 年会	2023.09.13
アンモニウム塩融解法を用いた ICP-MS による岩石試料の分析	<u>鹿籠 康行</u> 、中野 かずみ、 <u>源田 亜衣</u> 、 <u>山岡 香子</u> 、朱 彦北	日本分析化学会第 72 年会	2023.09.15
環境 DNA で見る現世と過去の巨大津波の痕跡	篠崎 鉄哉、 <u>井口 亮</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、後藤 和久、藤野 滋弘	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.19
白亜紀海水の炭酸系と海洋の石灰化生物への影響	<u>鈴木 淳</u> 、木下 峻一、 <u>井口 亮</u> 、 <u>飯島 真理子</u> 、大野 良和、安元 剛、保高 徹生、酒井 一彦、 <u>黒柳 あずみ</u> 、川幡 穂高	2023 年度 日本地球化学会 第 70 回年会	2023.09.21
成長速度の異なる 2 つのサンゴ群体の U/Ca 比に関する 研究	<u>源田 亜衣</u> 、 <u>山岡 香子</u> 、井上 麻夕里、中村 崇、 <u>井口 亮</u> 、酒井 一彦、 <u>鈴木 淳</u>	2023 年度 日本地球化学会 第 70 回年会	2023.09.23
Effects of copper on juvenile coral survival and transcriptomic responses.	水澤 奈々美、大関 輝信、 <u>飯島 真理子</u> 、大野 良和、 <u>儀武 滉大</u> 、 <u>井口 亮</u> 、安元 純、廣瀬(安元)美奈、天野 春菜、神保 充、渡部 終五、安元 剛	13th Asia Pacific Marine Biotechnology Conference (APMBC)	2023.10.03
An innovative CO2 mineralization method using waste seawater and biogenic polyamines	安元 剛、鈴木 道生、大野 良和、安元 純、 <u>井口 亮</u> 、 <u>飯島 真理子</u> 、水澤 奈々美、廣瀬(安元)美奈、森安 賢司、勝又 聡、渡部 終五	13th Asia Pacific Marine Biotechnology Conference (APMBC)	2023.10.05
The Impact of Land-Based Stress on Coral Growth and the Role of Accumulated Phosphate	<u>飯島 真理子</u> 、安元 純、安元 剛、 <u>井口 亮</u>	CCOP Thematic Session 2023	2023.11.01
Analysis of Urban Water Quality in Limestone Areas based on Environmental DNA and Isotopes: The case of Okinawan Islands	松本 親樹、 <u>飯島 真理子</u> 、吉原 直志、 <u>井口 亮</u>	CCOP Thematic Session 2023	2023.11.01
黒島における淡水レンズ中の微生物叢群衆と機能性遺伝子解析	井出 椋太、丸山 莉緒、安元 剛、水澤 奈々美、渡部 終五、宋 科翰、新城 竜一、細野 高啓、池原 尚朋、 <u>飯</u>	日本地下水学会 2023 年秋季講演会	2023.11.16

	<u>島 真理子</u> 、 <u>井口 亮</u> 、安元 純、金城 尚、上原 望笑、松岡 走		
琉球石灰岩帯水層における微生物叢と窒素代謝遺伝子の季節変化	丸山 莉緒、安元 剛、水澤 奈々美、渡部 終五、廣瀬(安元)美奈、宋 科翰、新城 竜一、細野 高啓、 <u>飯島 真理子</u> 、 <u>井口 亮</u> 、安元 純、金城 尚、上原 望笑、松岡 走	日本地下水学会 2023 年秋季講演会	2023.11.16
潮汐が石灰岩帯水層における塩水侵入と海底地下水湧出に及ぼす影響	安元 純、金城 尚、松岡 走、上原 望笑、宋 科翰、安元 剛、丸山 莉緒、 <u>飯島 真理子</u> 、鈴木 昌弘、 <u>井口 亮</u> 、浅井 和見、クリス レオン、谷口 真人、新城 竜一	日本地下水学会 2023 年秋季講演会	2023.11.17
メタゲノム解析を用いた異なる水温域に生息するコノビドリイシの微生物叢および機能遺伝子の比較	<u>儀武 滉大</u> 、城間 博紹、 <u>水山 克</u> 、広松 采夏、北野 宏明、酒井 一彦、安田 仁奈、 <u>井口 亮</u>	日本サンゴ礁学会 第 26 回大会	2023.11.24
サンゴの匂いによるオニヒトデの行動及び発現遺伝子の変化の探索	鎌田 真壽、 <u>儀武 滉大</u> 、喜多村 鷹也、古井戸 樹、目崎 拓真、本郷 悠貴、 <u>井口 亮</u> 、新村 芳人、安田 仁奈	日本サンゴ礁学会 第 26 回大会	2023.11.24
沖縄島沿岸域における生物多様性と環境の統合的評価手法の開発	<u>水山 克</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>山本 聡</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>井口 亮</u>	日本サンゴ礁学会 第 26 回大会	2023.11.24
海流モデルによる南西諸島の幼生分散ネットワークの推定	<u>齋藤 直輝</u> 、 <u>井口 亮</u> 、中島 祐一、 <u>鈴木 淳</u>	日本サンゴ礁学会 第 26 回大会	2023.11.25
サンゴ礁域においてクロナマコ糞内細菌叢が持つ生態学的役割	<u>濱本 耕平</u>	棘皮動物研究集会	2023.12.02
上越海盆の冷湧水域における長期モニタリング機器の設置	後藤 秀作、青木 伸輔、 <u>齋藤 直輝</u> 、 <u>長尾 正之</u>	第 40 回 GSJ シンポジウム 地圏資源環境研究部門 研究成果報告会	2023.12.08
Semi-monthly change of biological communities in sinking particles with Lugol's solution for preservation in the oligotrophic northwest Pacific Ocean	<u>前田 歩</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、近藤 俊祐、塚崎 あゆみ、鈴木 昌弘、鴨志田 紘子	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.12
Simulation of the dynamics of seamount mining plumes under the influence of internal tides	<u>齋藤 直輝</u> 、矢野 真一郎、 <u>長尾 正之</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、鴨志田 紘子	AGU Fall Meeting 2023	2023.12.15
沖縄周辺海域におけるサンゴ浮遊幼生の動態Ⅱ -潮汐考慮-	<u>高橋 暁</u>	沿岸海洋研究集会	2023.12.25
海洋の pH 復元に向けたサンゴ試料の洗浄方法の検討	<u>源田 亜衣</u> 、井上 麻夕里、 <u>山岡 香子</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>飯島 真理子</u> 、大野 良和、安元 剛、石川 剛志、 <u>鈴木 淳</u>	SAT テクノロジー・ショーケース 2024	2024.01.25
Characterization of ^{14}C - and ^{210}Pb -derived bioturbation in surface sediments of seamounts in the northwestern Pacific	太田 雄貴、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 昌弘、塚崎 あゆみ、 <u>清家 弘治</u> 、鴨志田 弘子	AGU fall meeting 2023	2024.01.26
ヨコエビを用いた海洋環境影響評価の実装に向けての取組	戸田 美沙、岡村 哲郎、 <u>山岡 香子</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>池内 絵里</u> 、	第 58 回日本水環境学会年会	2024.03.08

	<u>依藤 実樹子</u> 、 <u>源田 亜衣</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、 <u>長尾 正之</u>		
ゲノムワイド SNP 解析によるトゲサンゴ隠蔽種間の雑種検出と地点間遺伝分化の評価	中島 祐一、中嶋 信美、今藤 夏子、 <u>齋藤 直輝</u> 、喜瀬 浩輝、長田 智史、上野 大輔、酒井 一彦、 <u>井口 亮</u>	日本生態学会第 71 回全国大会	2024.03.16
サンゴ稚ポリプの隔壁形成に関与する微小結晶の可視化	高橋 有南、大野 良和、窪田 梓、 <u>井口 亮</u> 、 <u>飯島 真理子</u> 、水澤 奈々美、中村 崇、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 道生、渡部 終五、安元 剛	令和 6 年度公益社団法人日本水産学会春季大会	2024.03.28
ポリアミンが造礁サンゴの初期生理に与える影響:飼育実験と RNA-Seq 解析からのアプローチ	<u>儀武 滉大</u> 、水澤 奈々美、 <u>飯島 真理子</u> 、大野 良和、安元 純、安元 剛、 <u>井口 亮</u>	令和 6 年度公益社団法人日本水産学会春季大会	2024.03.28
石西礁湖の底質の蓄積リンの年変化とサンゴ密度との関連性#	安元 剛、武田 結仁、館小路 紗礼、井出 椋太、大野 良和、水澤 奈々美、渡部 終五、廣瀬 美奈、新城 竜一、 <u>飯島 真理子</u> 、 <u>井口 亮</u> 、中村 崇、安元 純	令和 6 年度公益社団法人日本水産学会春季大会	2024.03.28
石西礁湖に位置する黒島における地下水淡水レンズ中の微生物叢と機能遺伝子解析	井出 椋太、安元 剛、水澤 奈々美、丸山 莉緒、渡部 終五、宋 科翰、新城 竜一、細野 高啓、池原 尚朋、 <u>飯島 真理子</u> 、 <u>井口 亮</u> 、安元 純、金城 尚、上原 望笑、松岡 走	令和 6 年度公益社団法人日本水産学会春季大会	2024.03.28
16S rRNA 解析およびショットガンメタゲノム解析による沖縄本島南部地域の地下水の微生物叢と窒素代謝遺伝子の動態解明	丸山 莉緒、水澤 奈々美、安元 剛、渡部 終五、廣瀬(安元)美奈、宋 科翰、新城 竜一、細野 高啓、 <u>飯島 真理子</u> 、 <u>井口 亮</u> 、上原 望笑、松岡 走、安元 純	令和 6 年度公益社団法人日本水産学会春季大会	2024.03.28

地質情報研究部門 地球化学研究グループ

カーボナタイトフラックスに起因するアセノスフェア部分溶融およびプチスポットマグマのリソスフェアへのインプット	<u>三國 和音</u> 、平野 直人、秋澤 紀克、町田 嗣樹、角野 浩史、田村 明弘、森下 知晃	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.22
深海底におけるプチスポット火山の噴火様式	平野 直人、 <u>三國 和音</u> 、町田 嗣樹	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
The AO driven climate change from 3 ka to 2 ka detected by an 8000-year record of dust deposition in Lake Motosu, Mt. Fuji	根本 夏林、 <u>横山 祐典</u> 、Stephen Obrochta、山本 真也、宮入 陽介、 <u>中村 淳路</u> 、藤原 治、Aurelia Hubert-Ferrari、Laura Lamair、Vanessa Heyvaert、Marc De Batist、the QuakeRecNankai Team	XXI INQUA Congress	2023.07.18
疑似モホール計画:プチスポット火山産海洋地殻・マントル捕獲岩はマントル掘削の先駆けとなりうるか	<u>三國 和音</u> 、平野 直人、町田 嗣樹、秋澤 紀克、田村 明弘、森下 知晃	2023 年度 日本地球化学会 第 70 回年会	2023.09.21
疑似モホール計画:プチスポット火山産海洋地殻・マントル捕獲岩はマントル掘削の先駆けとなりうるか#	<u>三國 和音</u>	海洋リソスフェアの生成と進化・InterRidge-Japan 研究集会・(東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会)	2023.11.06

プチスポット火山群の海底地質総括	平野 直人、 <u>三國 和音</u> 、秋澤 紀克、町田 嗣樹	東京大学地震研究所共同利用研究集会 海溝海側の変動現象と沈み込み帯へのインプット	2023.11.27
プチスポット火山下のリソスフェア総括	平野 直人、 <u>三國 和音</u> 、Sebastien Pilet	東京大学地震研究所共同利用研究集会 海溝海側の変動現象と沈み込み帯へのインプット	2023.11.27
隆起海浜の宇宙線生成核種による年代決定と最終間氷期以降の海岸線の日本における分布	<u>横山 祐典</u> 、宮入 陽介、 <u>中村 淳路</u> 、Evan Tam、松崎 浩之	第 24 回 AMS シンポジウム	2024.03.28

地質情報研究部門 地球物理研究グループ

Evolution of the geological structure due to the collision of multiple basement topographic highs in a forearc accretionary wedge: insights from numerical simulations	<u>宮川 歩夢</u> 、 <u>野田 篤</u> 、 <u>高下 裕章</u>	EGU General Assembly 2023	2023.04.23
日本海溝アウターライズの浅部地殻構造および正断層群の活動性評価	孫 岳、 <u>宮川 歩夢</u> 、尾鼻 浩一郎、Jamali Hondori Ehsan、朴 進午	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.21
ドローンを使用した吾妻山の空中磁気測量	<u>米倉 光</u> 、市來 雅啓、田中 良、海田 俊輝、柘植 鮎太、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、橋本 武志	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.21
Brittle deformation to ductile deformation in subduction zone: numerical simulation for deformation on sediments and oceanic basalts	<u>宮川 歩夢</u> 、奥田 花也	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.21
Stress accumulation in viscoelastic branching fault and subducting oceanic crust: its effect to intraslab earthquakes	村本 智也、伊藤 喜宏、 <u>宮川 歩夢</u> 、古市 紀之	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
Modeling of seasonal gravity changes observed with iGrav SG at Teshikaga, eastern Hokkaido	<u>丸藤 大樹</u> 、 <u>名和 一成</u> 、高橋 浩晃	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
富士山の重力観測網の構築とその活用	<u>本多 亮</u> 、今西 祐一、西山 竜一、 <u>名和 一成</u> 、風間 卓仁	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
斜面災害リスク評価を目的とした阿蘇火山西麓地域の 3 次元浅部磁化構造解析	<u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>米倉 光</u> 、 <u>阪口 圭一</u> 、星住 英夫、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宮地 良典</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.24
Pore fluid overpressures estimated from geometric data of crack-seal#extension veins in subduction melange	大坪 誠、氏家 恒太郎、 <u>宮川 歩夢</u>	日本地球惑星科学連合 2023 年大会	2023.05.25
An aeromagnetic survey using an unmanned aerial vehicle over Azuma Volcano, NE Japan	<u>米倉 光</u> 、市來 雅啓、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、田中 良、海田 俊輝、柘植 鮎太、太田 豊宣、橋本 武志	International Union of Geodesy and Geophysics 2023 General Assembly	2023.07.16
Estimating pore fluid pressure from geometrical characteristics of extensional mineral veins	大坪 誠、氏家 恒太郎、 <u>宮川 歩夢</u>	The 17th Congress of Water-Rock Interaction (WRI17)	2023.08.19

Kilometre-scale ductile fractures instigated by deformation-induced nanocavities	Yeo Thomas、重松 紀生、Simon Wallis、 <u>住田 達哉</u> 、Chunjie Zhang、氏家 恒太郎、香取 拓馬、 <u>宮川 歩夢</u>	International Joint Workshop on Slow-to-Fast Earthquakes 2023	2023.09.13
変形中のナノキャビティ形成をきっかけとする km スケールの延性破壊	Yeo Thomas、重松 紀生、Simon Wallis、 <u>住田 達哉</u> 、Chunjie Zhang、氏家 恒太郎、香取 拓馬、 <u>宮川 歩夢</u>	日本地質学会第 130 年学術大会	2023.09.17
Magma evolution during build-up to the Aso-4 caldera-forming eruption	Franziska Ute Keller、Popa Razvan-Gabriel、下司 信夫、 <u>宮川 歩夢</u> 、Olivier Bachmann	第 8 回陥没カルデラ研究集会	2023.09.18
Formation of brittle-ductile block-in-matrix structures along plate boundary shear zones	<u>宮川 歩夢</u> 、奥田 花也	Geomod 2023	2023.09.27
重力探査による谷中に堆積する土砂の見積もりと土石流発生ポテンシャル評価-広島市高松山を対象として-	<u>松多 信尚</u> 、 <u>住田 達哉</u> 、 <u>楢原 京子</u> 、 <u>石黒 聡士</u>	令和 5 年度 日本応用地質学会研究発表会	2023.10.05
Formation of brittle-ductile block-in-matrix structures along plate boundary in subduction zone	<u>宮川 歩夢</u> 、奥田 花也	Cargese 2023 School on Subduction Zone Processes	2023.10.10
CG-5 による 2023 年屈斜路カルデラ周辺地域での相対重力測定	<u>丸藤 大樹</u> 、 <u>名和 一成</u> 、高橋 浩晃、 <u>本多 亮</u> 、岡 大輔	日本測地学会第 140 回講演会	2023.10.11
3つの地点における絶対重力測定によるシントレックス CG-3M 重力計の非線形感度曲線の検定	今西 祐一、 <u>本多 亮</u> 、 <u>丸藤 大樹</u> 、西山 竜一、 <u>名和 一成</u>	日本測地学会第 140 回講演会	2023.10.11
吾妻山における磁化構造の時間変化解析	<u>米倉 光</u> 、市來 雅啓、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、田中 良、海田 俊輝、柘植 鮎太、太田 豊宣、橋本 武志	物理探査学会第 149 回(2023 年度秋季)学術講演会	2023.10.11
兵庫県南あわじ市における浅部反射法地震探査の実施	<u>木下 佐和子</u> 、 <u>伊藤 忍</u>	物理探査学会第 149 回(2023 年度秋季)学術講演会	2023.10.11
ヒートホール:JH18-ST1 から採取されたコア試料の岩石物性測定#	<u>大熊 茂雄</u> 、石塚 吉浩、渋谷 桂一	物理探査学会第 149 回(2023 年度秋季)学術講演会	2023.10.11
火山活動評価に向けた火山灰粒子画像の自動分類	松本 恵子、下司 信夫、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>板木 拓也</u>	日本火山学会 2023 年度秋季大会	2023.10.20
兵庫県南あわじ市阿万地区における S 波・P 波反射法地震探査の実施	<u>木下 佐和子</u> 、 <u>伊藤 忍</u>	日本地震学会 2023 年度秋季大会	2023.10.31
日本海溝アウターライズの浅部地殻構造および正断層群の活動性評価	孫 岳、 <u>宮川 歩夢</u> 、尾鼻 浩一郎、Jamali Hondori Ehsan、朴 進午	日本地震学会 2023 年度秋季大会	2023.11.01
低品質かつ大量の反射法地震探査データを効率的に処理する試み - 会津坂下町の例 -	<u>伊藤 忍</u> 、 <u>木下 佐和子</u>	日本地震学会 2023 年度秋季大会	2023.11.01
地球外核最下部(F 層)の水平方向不均質	<u>大滝 壽樹</u> 、金嶋 聡	日本地震学会 2023 年度秋季大会	2023.11.02
南海トラフ地震臨時情報:災害予測情報としての運用上の課題についての考察	<u>大谷 竜</u> 、谷原 和憲	第 16 回日本地震工学シンポジウム	2023.11.25

Seismic velocity structure of the
lowermost outer core of the Earth#

大滝 壽樹

第六回惑星深部研究会

2024.03.13

5.5 イベント

発表題目	関係者	イベント名／開催場所	開催日
経済産業省、地質の日企画展示～「いま知りたい！海洋地質図の世界」	金子 翔平、 <u>三澤 文慶</u> 、 <u>斎藤 眞</u> 、 <u>穴倉 正展</u> 、 <u>荒井 晃作</u> 、 <u>都井 美穂</u> 、 <u>川畑 史子</u> 、 <u>長江 敦子</u> 、 <u>井上 卓彦</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、 <u>山岡 香子</u> 、 <u>川畑 晶</u> 、 <u>山谷 忠大</u> 、 <u>中島 和敏</u> 、 <u>百目鬼 洋平</u> 、 <u>正根寺 幸子</u>	経済産業省、地質の日企画展示～「いま知りたい！海洋地質図の世界」，経済産業省本館1Fロビー（正面玄関側）	2023.05.01- 2023.05.26
地質標本館イベント「Live 中継！大西洋でマントルを掘る。」	<u>針金 由美子</u> 、 <u>阿部 なつ江</u> 、 <u>Lesley Anderson</u> 、 <u>Sarah Treadwell</u> 、 <u>森田 澄人</u> 、 <u>常木 俊宏</u> 、 <u>瀬戸口 希</u> 、 <u>中川 圭子</u> 、 <u>中村 由美</u>	地質標本館イベント「Live 中継！大西洋でマントルを掘る。」，2023/5/6(土)14:00～15:00、地質標本館 映像室	2023.05.06
2023 年度第 1 回 地質調査研修	<u>利光 誠一</u> 、 <u>森田 澄人</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>斎藤 眞</u> 、 <u>川畑 史子</u> 、 <u>長江 敦子</u>	2023 年度第 1 回 地質調査研修 実地調査，2023 年 5 月 15 日～5 月 19 日、産総研、茨城県ひたちなか市および福島県双葉郡広野町といわき市周辺地域	2023.05.15- 2023.05.19
2023 年度第 1 回 追加 地質調査研修	<u>利光 誠一</u> 、 <u>金子 翔平</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>森田 澄人</u> 、 <u>斎藤 眞</u> 、 <u>川畑 史子</u> 、 <u>長江 敦子</u>	2023 年度第 1 回 追加 地質調査研修実地調査，2023 年 5 月 29 日～6 月 2 日、産総研、茨城県ひたちなか市および福島県双葉郡広野町といわき市周辺地域	2023.05.29- 2023.06.02
地質標本館イベント「夏休みガイドツアー」	<u>川邊 禎久</u> 、 <u>渡辺 真人</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>下川 浩一</u>	地質標本館イベント「夏休みガイドツアー」，2023 年 7 月 27 日(木) 10:00～16:00、地質標本館ロビーおよび各展示室	2023.07.27
経済産業省子どもデー：石を割ってみよう！	金子 翔平、 <u>村岡 やよい</u> 、 <u>武藤 俊</u> 、 <u>利光 誠一</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、 <u>高橋 幸士</u> 、 <u>網澤 有輝</u> 、 <u>穴倉 正展</u> 、 <u>斎藤 眞</u>	経済産業省子どもデー，2023.08.02 - 2023.08.03、経済産業省本館（東京都千代田区霞ヶ関）	2023.08.02- 2023.08.03
地質標本館イベント「地球なんでも相談」	<u>川邊 禎久</u> 、 <u>坂野 靖行</u> 、 <u>清水 徹</u> 、 <u>左部 翔大</u> 、 <u>森田 澄人</u> 、 <u>村岡 やよい</u> 、 <u>利光 誠一</u> 、 <u>長森 英明</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>辻野 匠</u> 、 <u>東郷 洋子</u>	地質標本館イベント「地球なんでも相談」，8 月 19 日(土)午前の部 9:30～11:30、午後の部 13:00～15:30、地質標本館	2023.08.19
全地連「技術フォーラム 2023」横浜	<u>斎藤 眞</u> 、 <u>川畑 史子</u> 、 <u>都井 美穂</u> 、 <u>長江 敦子</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>内藤 一樹</u>	全地連「技術フォーラム 2023」横浜，2023 年 9 月 6 日～7 日#パシフィコ横浜[会議センター]#横浜西区みなとみらい 1-1-1	2023.09.06- 2023.09.07
地質情報展 2023 きょうとー地質を知ってまもる古都の未来ー	金子 翔平、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>中尾 信典</u> 、 <u>田中 裕一郎</u> 、 <u>伊藤 剛</u> 、 <u>宮嶋 佑典</u> 、 <u>松本 弾</u> 、 <u>森田 澄人</u> 、 <u>村井 健介</u> 、 <u>藤井 奈美</u> 、 <u>宮下 由香里</u> 、 <u>穴倉 正展</u> 、 <u>利光 誠一</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>小松原 琢</u> 、 <u>武藤 俊</u> 、 <u>遠山 知亜紀</u> 、 <u>白濱 吉起</u> 、 <u>行谷 佑一</u> 、 <u>堀川 晴央</u> 、 <u>井川 怜欧</u> 、 <u>富樫 聡</u> 、 <u>石原 武志</u> 、 <u>伊尾木 圭衣</u> 、 <u>落 唯史</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>川</u>	地質情報展 2023 きょうとー地質を知ってまもる古都の未来ー，京都大学吉田キャンパス 吉田南 1 号館 地階(京都府京都市左京区吉田本町)	2023.09.16- 2023.09.18

	邊 禎久、嶋田 侑眞、齋藤 眞、川畑 史子、長江 敦子、山谷 忠大、百目鬼 洋平、柳澤 教雄、山崎 瞳、中川 圭子、豊田 信太郎、川畑 晶、中島 和敏、清水 恵、都井 美穂、正根寺 幸子		
地質標本館 企画展「生痕化石—地層に刻まれた生命の痕跡—」	<u>清家 弘治</u> 、森田 澄人、瀬戸口 希	地質標本館 企画展「生痕化石—地層に刻まれた生命の痕跡—」、2023/10/3～2023/12/24、地質標本館	2023.10.03- 2023.12.24
生痕化石—地層に刻まれた生命の痕跡—	<u>清家 弘治</u>	地質標本館 企画展「生痕化石—地層に刻まれた生命の痕跡—」特別講演, 10月14日(土)14:00～15:00、地質標本館	2023.10.14
CEATEC 2023	<u>小松原 純子</u> 、 <u>宍倉 正展</u> 、 <u>金子 翔平</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>荒井 晃作</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、 <u>新井 和乃</u>	CEATEC 2023, 2023年10月17日～20日、幕張メッセ	2023.10.17- 2023.10.20
産総研一般公開 2023「ただひたすらに、石を割る」(石割体験コーナー)	<u>村岡 やよい</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>高橋 浩</u> 、 <u>利光 誠一</u> 、 <u>羽地 俊樹</u> 、 <u>志村 侑亮</u> 、 <u>山岡 健</u>	産総研一般公開 2023, 産総研つくばセンター	2023.11.11
地質と土壌のデジタルデータがもたらすテロワール DX— デジタル地質図+土壌図で地域特性のある農産物の創出を —	<u>齋藤 眞</u> 、 <u>山崎 徹</u> 、 <u>内野 隆之</u>	アグリビジネス創出フェア 2023, 2023年11月20日～11月22日、東京ビッグサイト南2 展示場	2023.11.20- 2023.11.22
地質標本館 イベント「地質標本館ガイドツアー」	川邊 禎久、伊藤 順一、吉岡 秀佳、渡辺 真人、利光 誠一、 <u>兼子 尚知</u>	地質標本館 イベント「地質標本館ガイドツアー」, 2023年11月25日(土)9:45～16:00、地質標本館	2023.11.25
地質標本館 体験イベント「絵の具になる鉱物」	川邊 禎久、東郷 洋子、中川 圭子、瀬口 寛樹、中村 由美、朝川 暢子、清水 裕子、 <u>兼子 尚知</u> 、下川 浩一、小川 浩、武井 勇二郎、常木 俊宏、福田 和幸	地質標本館 体験イベント「絵の具になる鉱物」, 2024年1月27日(土)9:30～16:00、地質標本館	2024.01.27
海洋コア岩相記載	<u>池原 研</u> 、加 三千宣、池原 実、久保田 好美	海洋コア岩相記載武者修行イベント, 2024/2/1～2/4、高知大学海洋コア国際研究所	2024.02.01- 2024.02.04
地質標本館 体験イベント「地球のかげらを覗いてみよう！きれいな砂の世界」	森田 澄人、東郷 洋子、中村 由美、朝川 暢子、清水 裕子、下川 浩一、 <u>兼子 尚知</u> 、川邊 禎久、武井 勇二郎、常木 俊宏、中川 圭子、福田 和幸、瀬口 寛樹、小川 浩	地質標本館 体験イベント「地球のかげらを覗いてみよう！きれいな砂の世界」, 2024年2月17日(土)9:30～16:00、地質標本館	2024.02.17
コア試料の肉眼岩相記載	入野 智久、 <u>池原 研</u>	J-DESC コアスクール コア解析基礎コース 2024, 2024/3/1～3/3、高知大学海洋コア国際研究所	2024.03.01- 2024.03.02
使用コアの解説	<u>池原 研</u>	J-DESC コアスクール コア解析基礎コース 2024, 2024/3/1-3/3、高知大学海洋コア国際研究所	2024.03.03

<p>地質調査総合センター「修士卒研究員」オンライン説明会</p>	<p>草野 有紀、今泉 博之、<u>野田 篤</u>、三好 陽子、相馬 宣和、徂徠 正夫、吉岡 真弓、原 淳子、井本 由香利、土田 恭平、吉原 直志、<u>下田 玄</u>、<u>山下 幹也</u>、<u>佐藤 太一</u>、<u>高下 裕章</u>、石塚 吉浩、古川 竜太、東宮 昭彦、山崎 誠子</p>	<p>地質調査総合センター「修士卒研究員」オンライン説明会，オンライン(ZOOM)</p>	<p>2024.03.04- 2024.03.05</p>
<p>地質標本館 特別展「GSJ のピカイチ研究—2023 年のプレスリリース等で発信した成果より—」</p>	<p>森田 澄人、伊尾木 圭衣、京都大学防災研究所、北海道立総合研究機構、保高 徹生、大阪大学感染症総合教育研究拠点、日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)フットボール本部新型コロナウイルス対策部、東京大学医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター、<u>針金 由美子</u>、名古屋大学大学院、海洋研究開発機構、原 淳子、川邊 能成、下司 信夫、<u>宝田 晋治</u>、星住 英夫、<u>小田 啓邦</u>、高知大学、<u>板木 拓也</u>、北海道大学、富山大学、国立極地研究所、ロンドン大学、インペリアルカレッジ、喜瀬 浩輝、<u>井口 亮</u>、<u>齋藤 直輝</u>、<u>鈴木 淳</u>、立正大学地球環境科学部、<u>山本 聡</u>、理化学研究所、会津大学、東京大学、大阪大学、宇宙航空研究開発機構、<u>細井 淳</u>、<u>羽田 裕貴</u>、茨城県立茨城東高等学校、茨城大学、海洋生物環境研究所中央研究所、Washburn William Travis、<u>荒井 晃作</u>、大坪 誠、東北大学大学院、東京海洋大学、北海道大学低温科学研究所、宍倉 正展、行谷 佑一、伊東市教育委員会、静岡大学防災総合センター、荒岡 大輔、九州大学大学院、東京大学大学院、株式会社堀場アドバンスドテクノ、株式会社堀場テクノサービス、サーモフィッシャーサイエンティフィック ジャパングループ、東京工業大学、奥田 花也、北村 真奈美、高橋 美紀、山口 飛鳥、<u>松岡 萌</u>、神山 徹、東北大学、日本原子力研究開発機構、九州大学、岡山大学、三菱総合研究所(MRI)、<u>宮地 良典</u>、立正大学</p>	<p>地質標本館 特別展「GSJ のピカイチ研究—2023 年のプレスリリース等で発信した成果より—」，2024/03/05～2024/04/21、地質標本館および地質標本館 Web サイト</p>	<p>2024.03.05- 2024.04.21</p>
<p>地質標本館 体験イベント「地質標本館ガイドツアー」</p>	<p>利光 誠一、川邊 禎久、下川 浩一、<u>宮川 歩夢</u>、<u>森尻 理恵</u></p>	<p>地質標本館 体験イベント「地質標本館ガイドツアー」，2024 年 3 月 9 日(土)9:45～16:00、地質標本館</p>	<p>2024.03.09</p>

5.6 プレス発表

プレス発表件名	関係者	公開日
過去の温暖期における東南極氷床の大規模な縮小を発見 ～地球温暖化で東南極氷床の一部が縮小し、海面が大幅に上昇するリスクへの警鐘～	関 宰、 <u>飯塚 睦</u> 、入野 智久、山本 正伸、堀川 恵司、菅沼 悠介、 <u>板木 拓也</u> 、池原 実、Tina van de Flierdt、David J. Wilson	2023.04.19
日本周辺海域のアカサンゴの遺伝的な集団構造が明らかに	喜瀬 浩輝、 <u>井口 亮</u> 、 <u>齋藤 直輝</u> 、善岡 祐輝、宇田 幸司、鈴木 知彦、永野 惇、 <u>鈴木 淳</u> 、岩崎 望	2023.04.27
日本海拡大時の大地の急速沈降と回転の同時発生を発見：地質調査が明かす棚倉断層帯沿いの堆積盆の詳細な発達史	<u>細井 淳</u> 、谷井 優理恵、岡田 誠、 <u>羽田 裕貴</u>	2023.06.26
日本周辺海域のアカサンゴ等の成長速度が明らかにー宝石サンゴの保全に貢献ー	<u>鈴木 淳</u>	2023.06.28
AIを用いた深海の環境モニタリング手法を考案 ー水中画像から浮遊粒子を自動検出ー	<u>齋藤 直輝</u> 、Travis Washburn、矢野 真一郎、 <u>鈴木 淳</u>	2023.07.11
宮古島の固有種の故郷は消えた島だった 地質学と生物学の融合研究が描き出した新たな琉球列島の形成史と生物進化	井龍 康文、渡邊 奈々、 <u>荒井 晃作</u> 、大坪 誠、戸田 守、富永 篤、千代延 信、佐藤 時行、池田 忠広、高橋 亮雄、太田 英利	2023.07.14
東南極最大級の氷河へ向かう暖かい海水のルート トッテン氷河を底から融かす海からの熱供給	平野 大輔、草原 和弥、 <u>板木 拓也</u> 、溝端 浩平、青木 茂	2023.08.22
Visible to Near-Infrared spectra of asteroid Ryugu's surface in relation to its returned samples (小惑星リュウグウの表面の可視ー近赤外スペクトルと回収試料との関係)	<u>松岡 萌</u> 、神山 徹、中村 智樹、天野 香菜、大澤 崇人、橘 省吾、奈良岡 浩、岡崎 隆司	2023.09.27
国土・都市デジタルツイン構築による自治体業務効率化への貢献	<u>宮地 良典</u> 、 <u>西岡 芳晴</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>齋藤 眞</u> 、中村 良介、神山 徹、堤 千明、小島 功	2023.12.18
海洋保護区安永海山から岩場に生息する新種のウミエラ類を発見 ー世界でも5種目・北西太平洋から初報告ー	<u>榑田 優花</u> 、喜瀬 浩輝、 <u>井口 亮</u> 、藤原 義弘、土田 真二	2023.12.21
リュウグウの岩石試料が原始的な隕石より黒いわけ	天野 香菜、中村 智樹、 <u>松岡 萌</u> 、橘 省吾	2023.12.7
海洋の酸性化と貧酸素化がシロギスの卵に及ぼす複合影響が明らかに	<u>井口 亮</u> 、林 正裕、 <u>依藤 実樹子</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>儀武 滉大</u> 、 <u>國島 大河</u> 、 <u>ベル 智子</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、小埜 恒夫	2024.02.01
サンゴへの環境影響を調べる新たな評価系の確立に成功	<u>井口 亮</u> 、 <u>飯島 真理子</u> 、水澤 奈々美、大野 良和、安元 剛、 <u>鈴木 淳</u> 、菅 駿一、田中 健、 <u>財津 桂</u>	2024.03.05
衛星による観測で斜面災害リスク地域を抽出	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、星住 英夫、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>宮地 良典</u>	2024.03.18
たった3分で尿から40種類の薬物を検査できる新手法を開発！～薬物犯罪捜査や急性薬物中毒の薬物分析に貢献！～	Kazuaki Hisatsune、Tasuku Murata、Masaru Taniguchi、Tomomi Asano、Koretsugu Ogata、 <u>井口 亮</u> 、 <u>財津 桂</u>	2024.03.25

5.7 受賞

受賞	受賞者	受賞内容	受賞年月
デジタル社会の基盤情報となった全国地質図の 開発	脇田浩二、斎藤眞、 <u>西岡芳晴</u> 、宮崎一 博、宝田 晋治	令和5年度 科学技術分野の文部 科学大臣表彰 科学技術賞(開発 部門)	2023.04.07
Haji, T. and Yamaji, A., 2020, Termination of intra-arc rifting at ca 16 Ma in the Southwest Japan arc: The tectonostratigraphy of the Hokutan Group. Island Arc, 29, e12366.	<u>羽地俊樹</u>	2023 年度日本地質学会フィール ドワーク賞	2023.09.17
Yamaoka, K., Wallis, S. R., 2022. Recognition of broad thermal anomaly around the median tectonic line in central Kii peninsula, southwest Japan: Possible heat sources. Island Arc, 31, e12440.	<u>山岡 健</u>	2023 年度日本地質学会研究奨 励賞	2023.09.17
Noda, A., Sato, D., 2018. Submarine slope-fan sedimentation in an ancient forearc related to contemporaneous magmatism: The Upper Cretaceous Izumi Group, southwestern Japan. Island Arc, 27, e12240.	<u>野田 篤</u> 、 <u>佐藤大介</u>	2023 年度日本地質学会論文賞	2023.09.17
内野隆之・羽地俊樹, 2021, 北上山地中西部の中古生代付加体を貫く白亜 紀岩脈群の岩相・年代と貫入応力解析から得ら れた引張場. 地質学雑誌, 127, 651-666.	<u>内野隆之</u> 、 <u>羽地俊樹</u>	2023 年度日本地質学会論文賞	2023.09.17

資料編

付 1 構成及び所在

地質情報研究部門 (Research Institute of Geology and Geoinformation)

研 究 部 門 長

| | |

| ト 副研究部門長 | ↳ 事務スタッフ

| ト 首席研究員

| ト 上級主任研究員

|

| ト 平野地質研究グループ (Quaternary Basin Research Group)

| ト 層序構造地質研究グループ (Stratigraphy and Tectonics Research Group)

| ト 地殻岩石研究グループ (Orogenic Processes Research Group)

| ト シームレス地質情報研究グループ (Integrated Geo-information Research Group)

| ト 情報地質研究グループ (Geoinformatics Research Group)

| ト リモートセンシング研究グループ (Remote Sensing Research Group)

| ト 海洋地質研究グループ (Marine Geology Research Group)

| ト 地球変動史研究グループ (Paleogeodynamics Research Group)

| ト 海洋環境地質研究グループ (Marine Geo-Environment Research Group)

| ト 資源テクトニクス研究グループ (Tectonics and Resources Research Group)

| ト 地球化学研究グループ (Geochemistry Group)

| ↳ 地球物理研究グループ (Geophysics Group)

所在地 〒 305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 つくばセンター中央事業所 7 群

電話/FAX 029-861-3540

mail igg-webmaster-ml@aist.go.jp

ホームページ <http://unit.aist.go.jp/igg/>

付 2 職員等

地質情報研究部門

荒井 晃作	研究部門長
宮地 良典	副研究部門長
太田 充恒	〃
池原 研	首席研究員
中江 訓	上級主任研究員
加藤 碩一	名誉リサーチャー
宮崎 光旗	〃
栗本 史雄	〃
富樫 茂子	〃
西村 昭	〃
齋藤 文紀	〃
中島 礼	部門付(兼務)
岩男 弘毅	部門付(兼務)
野田 篤	部門付(兼務)
小松原 純子	部門付(兼務8月1日より)
富田 陽子	部門付(業務室事務担当)
竹内 誠	特定フェロー
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	1名
アシスタント	1名

テクニカルスタッフ	1名
リサーチアシスタント	1名
産学官制度来所者	4名

シームレス地質情報研究グループ

内野 隆之	研究グループ長
西岡 芳晴	上級主任研究員
坂野 靖行	主任研究員
長森 英明	〃
川畑 大作	〃
阿部 朋弥	〃
吉川 敏之	研究グループ付(兼務)
内藤 一樹	〃
齋藤 眞	〃
宝田 晋治	〃
宮崎 一博	招聘研究員
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	5名
アシスタント	1名
産学官制度来所者	4名

情報地質研究グループ

長 郁夫	研究グループ長
野々垣 進	主任研究員
米岡 佳弥	研究員
中澤 努	研究グループ付(兼務)
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	3名

平野地質研究グループ

納谷 友規	研究グループ長
田邊 晋	主任研究員
佐藤 善輝	〃
中谷 是崇	研究員
羽田 裕貴	研究員
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	4名
産学官制度来所者	3名

リモートセンシング研究グループ

山本 聡	研究グループ長
水落 裕樹	主任研究員
松岡 萌	研究員
山本 浩万	上級主任研究員(兼務)
土田 聡	招聘研究員
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	1名
技術研修	1名
SE	1名
産学官制度来所者	2名

層序構造地質研究グループ

原 英俊	研究グループ長
辻野 匠	主任研究員
宇都宮 正志	〃
武藤 俊	〃
伊藤 剛	〃
志村 侑亮	研究員
その他の構成員	
学振特別研究員	1名
テクニカルスタッフ	1名
リサーチアシスタント	3名
産学官制度来所者	3名

海洋地質研究グループ

井上 卓彦	研究グループ長
杉崎 彩子	主任研究員
三澤 文慶	〃
石野 沙季	研究員
有元 純	〃
鈴木 克明	〃
片山 肇	招聘研究員

地殻岩石研究グループ

工藤 崇	研究グループ長
山崎 徹	主任研究員
佐藤 大介	〃
細井 淳	〃
羽地 俊樹	〃
中村 佳博	〃(兼務10月1日より)
村岡 やよい	研究員
山岡 健	〃
その他の構成員	

その他の構成員	
産総研特別研究員	1名
テクニカルスタッフ	2名
技術研修	1名
産学官制度来所者	3名

地球変動史研究グループ

板木 拓也 研究グループ長
 小田 啓邦 上級主任研究員
 田村 亨 //
 兼子 尚知 主任研究員
 天野 敦子 //
 佐藤 智之 //
 清家 弘治 //
 その他の構成員

学振特別研究員 2名
 テクニカルスタッフ 5名
 リサーチアシスタント 3名
 技術研修 2名
 産学官制度来所者 5名
 国際制度来所者 3名
 派遣 1名

海洋環境地質研究グループ

鈴木 淳 研究グループ長
 長尾 正之 主任研究員
 高橋 暁 //
 井口 亮 //
 山岡 香子 //
 齋藤 直輝 研 究 員

その他の構成員
 産総研特別研究員 2名
 学振特別研究員 2名
 テクニカルスタッフ 11名
 リサーチアシスタント 1名
 産学官制度来所者 7名
 国際制度来所者 1名

資源テクトニクス研究グループ

下田 玄 研究グループ長
 山下 幹也 主任研究員

針金 由美子 主任研究員
 佐藤 太一 //
 後藤 孝介 //
 高下 裕章 研 究 員
 その他の構成員
 リサーチアシスタント 1名
 テクニカルスタッフ 1名
 産学官制度来所者 2名

地球化学研究グループ

間中 光雄 研究グループ長
 久保田 蘭 主任研究員
 遠山 知亜紀 //
 中村 淳路 //
 三國 和音 研 究 員
 その他の構成員
 テクニカルスタッフ 2名

地球物理研究グループ

名和 一成 研究グループ長
 大滝 壽樹 主任研究員
 伊藤 忍 //
 大谷 竜 //
 住田 達哉 //
 宮川 歩夢 上級主任研究員
 木下 佐和子 研 究 員
 森尻 理恵 研究部門付 (兼務)
 大熊 茂雄 招聘研究員
 村田 泰章 招聘研究員 (兼務)
 その他の構成員
 テクニカルスタッフ 1名
 リサーチアシスタント 2名
 産学官制度来所者 6名

2023 年度部門在籍者について、2024.3.31 現在を基本に作成しています。在籍期間が限られている場合は () 内に示しています。

地質情報研究部門 2023 年度年報

2024 年（令和 6 年）12 月 25 日発行

編集・発行 国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質情報研究部門
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 つくばセンター中央事業所 7 群
電話/FAX 029-861-3540 Email igg-webmaster-ml@aist.go.jp

© 2024 IGG/AIST 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。